令和２年度
宮古市男女共同参画市民アンケート調査報告書

令和２年10月
宮　古　市

目次

第１章　調査実施の概要 1
１．調査の目的 1
２．調査の設計 1
３．調査の実施方法と配布・回収状況 1
（１）調査時期と調査方法 1
（２）調査の配布・回収状況 1
４．報告書の見方について 1
（１）電算処理の注意点 1
第２章　調査結果 2
１．属性 2
問１　性別 2
問２　年齢 2
問３　地区 2
問４　職業 3
問５　労働時間（残業時間を含む） 3
問６　世帯構成 3
問７　婚姻状況 4
問８　回答者と配偶者の就業状況 4
２．男女平等について 5
問９　あなたは男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について、どの程度関心がありますか。 5
問 10　「男は仕事、女は家庭」という考え方を、あなたはどう思いますか。 7
問 11　次の各分野について、あなたは男女はどの程度平等だと感じていますか。 9
ア　家庭生活 10
イ　地域活動 11
ウ　社会通念やしきたり 12
エ　学校教育・進学 13
オ　職場・職種 14
カ　政治・経済界 15
キ　法律や制度上 16
問 12　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が重要であると思いますか。 18
問 13　あなたは次の「ことば」を知っていますか。 22
ア　あなたは「ジェンダー」という言葉を知っていますか。 23
イ　あなたは「ＤＶ」という言葉を知っていますか。 24
ウ　あなたは「デートＤＶ」という言葉を知っていますか。 25
エ　あなたは「家族経営協定」という言葉を知っていますか。 26

オ　あなたは「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。 27
カ　あなたは「ダイバーシティ」という言葉を知っていますか。 28
キ　あなたは「ＬＧＢＴ」という言葉を知っていますか。 29
３．性別役割分担について 31
問 14　あなたは家庭生活の中で家事や育児等の役割分担について、どのように考えますか。 31
問 15　あなたの家では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっていますか。一人暮らしの方は、どちらの役割がふさわしいとお考えになっているかを記載してください。 34
ア　食事のしたく 36
イ　食卓のセット・後片付け 37
ウ　日常の買い物 38
エ　掃除 39
オ　洗濯 40
カ　ゴミ出し 41
キ　大工仕事や電気製品の管理 42
ク　役所や銀行などの手続き 43
ケ　高齢者や病人の世話・介護 44
コ　町内会や自治会への参加 45
サ　子どもの勉強やしつけ 46
シ　学校行事への参加 47
ス　地域のボランティア活動 48
セ　高額商品等の購入決定 49
ソ　家庭問題の最終決定 50
４．女性の社会進出について 52
問 16　女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。 52
問 17　女性が働きやすくなるために必要なことは、何だと思いますか。 55
問 18　男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思いますか。 59
問 19　女性が働きにくい状況にあると思う理由は何ですか。 61
問 20　女性が社会活動に参加するために必要なことは、何だと思いますか。 65
５．人権の尊重について 68
問 21　あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなモノ・コトを見たり聞いたりしたときですか。 68
問 22　配偶者や恋人の間での身体的・心理的暴力などのＤＶ被害が問題視されています。あなたは配偶者や恋人の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思いますか。 72
ア　交友関係や電話・メール・ＳＮＳ等を細かく監視する 74
イ　何を言っても長時間無視し続ける 75
ウ　見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる 76
エ　大声でどなる 77
オ　平手で打つ 78

カ　足でける……79
キ　殴るふりをして脅かす……80
ク　刃物等を突き付けて脅かす……81
ケ　身体を傷つける可能性がある物等で殴る……82
コ　相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する……83
サ　「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等という……84
シ　生活費を渡さない……85
ス　友人・近所付合いなどの交流を制限する……86
問 23　あなたはこれまで配偶者や恋人との間で、次のような行為を経験したことがありますか。……88
問 24　あなたはこれまで配偶者や恋人から受けた・ふるった暴力について、誰かに相談しましたか。……92
問 25　あなたは配偶者や恋人からの暴力に対する取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。……95
6．今後の取り組みについて……99
問 26　女性と男性が平等な関係をつくっていくために、あなたは教育の場でどんなことが必要だと思いますか。……99
問 27　あなたは男女共同参画社会を形成していくために、今後国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。……102
問 28　東日本大震災や台風などの災害に関連して、性の違いによる差別や無理解・不都合なことを感じたことがありましたら、その内容をご記入下さい。……106
問 29　宮古市が男女共同参画に関する施策をすすめるうえで、市へのご意見・ご要望がありましたら自由にご記入下さい。……108

第1章　調査実施の概要

１．調査の目的

本調査は、令和３年度策定予定の第５次宮古市男女共同参画基本計画の基礎資料とするため、市民の男女共同参画に関する意識を把握することを目的として実施しました。

２．調査の設計

男女共同参画市民アンケートの調査設計は以下の通りです。

項　　目	内　　容
調査対象者	18 歳以上の宮古市民
調査人数	3,000 人
調査内容	男女平等に対する意識、家庭生活での役割分担意識、女性の社会進出への意識、ＤＶ、男女共同参画のために取り組むこと、等

３．調査の実施方法と配布・回収状況

（１）調査時期と調査方法

男女共同参画市民アンケート調査は、令和２年７月７日～令和２年８月３日にかけて実施しました。

調査方法については、郵送による配布、回収をしました。

（２）調査の配布・回収状況

アンケート調査の配布と回収の状況は以下の通りです。

区分	配布数	回収数	回収率
市全域	3,000 人	956 人	31.9%

４．報告書の見方について

（１）電算処理の注意点

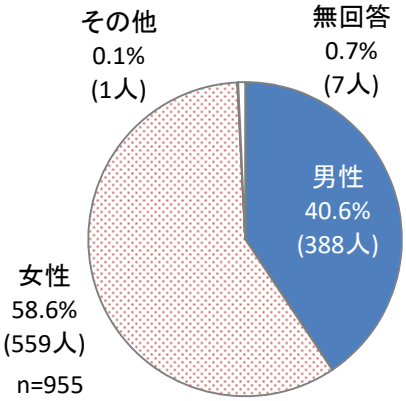
調査結果の数値については小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

グラフ図の「n」は、有効サンプル数のことであり、回収した調査票数の設問ごとの対象者から無効票を除いた数です。

第2章　調査結果

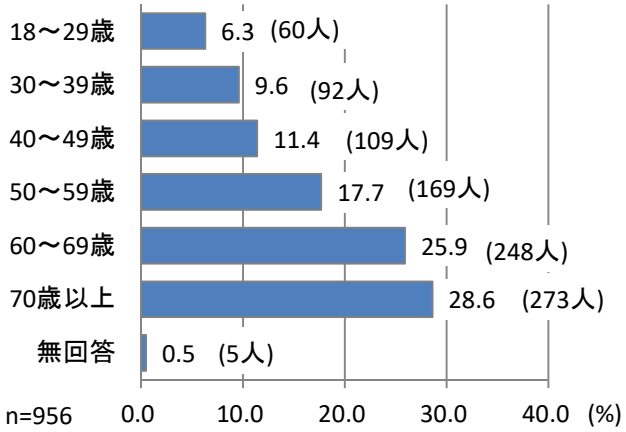
1．属性

問１　性別



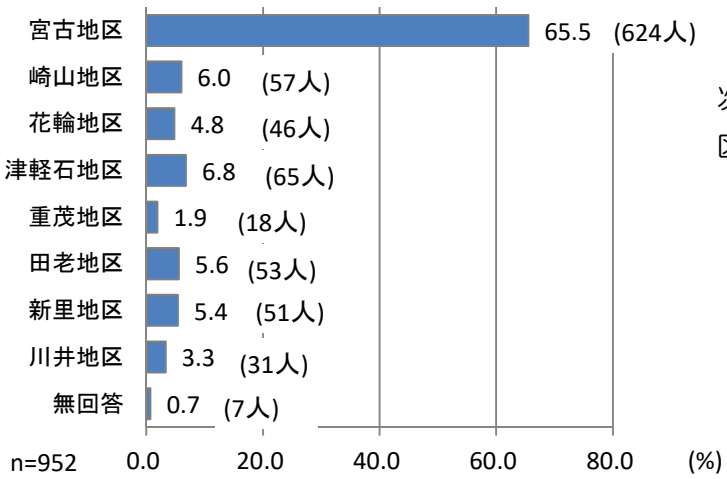
性別については、最も多いのは「女性」（58.6%）が半数以上を占め、次いで「男性」（40.6%）、「無回答」（0.7%）となっています。

問２　年齢



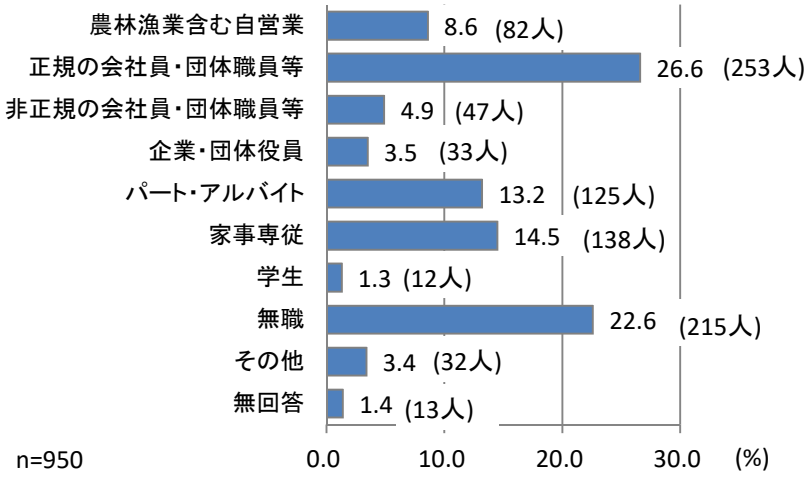
年齢については、最も多いのは「70歳以上」（28.6%）、次いで「60 歳～69 歳」（25.9%）、「50 歳～59 歳」（17.7%）の順で多くなっています。

問３　地区



地区については、「宮古地区」（65.5%）が最も多く半数以上を占め、次いで「津軽石地区」（6.8%）、「崎山地区」（6.0%）の順で多くなっています。

問４　職業



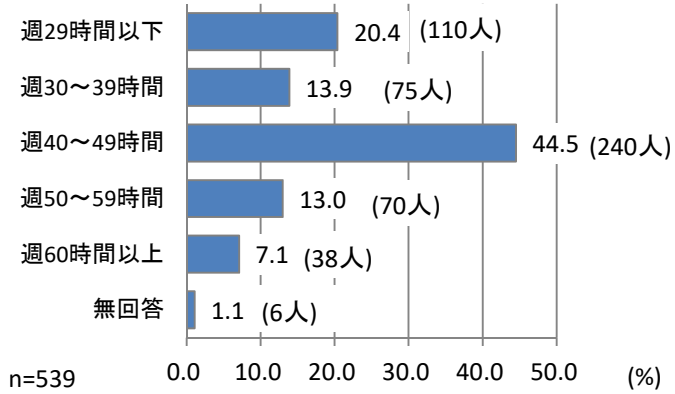
職業については、最も多いのは「正規の会社員・団体職員等」（26.6％）、次いで「無職」（22.6%）、「家事専従」（14.5%）の順で多くなっています。

60 代以上の回答者が半数を占めていることから、「無職」や「家事専従」の回答も高い結果となっています。

「その他」では、「福祉作業所」、「フリーランス」等がみられました。

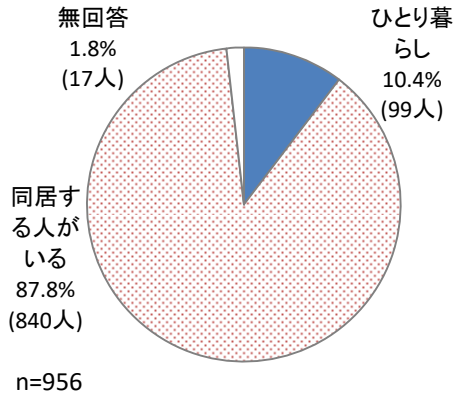
【問４で「１農林漁業含む自営業」～「５パート・アルバイト」と回答した就業中の方】

問５　労働時間（残業時間を含む）



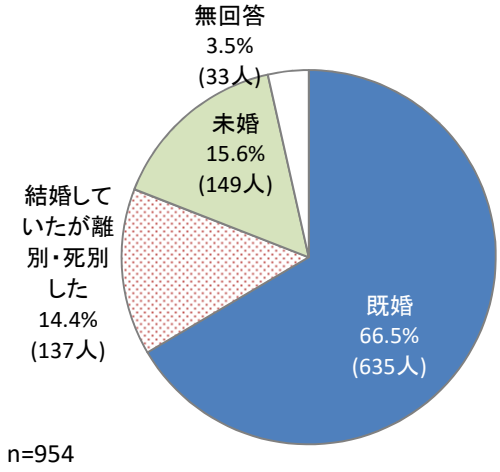
労働時間については、最も多いのは「週 40 時間～49 時間」（44.5%）、次いで「週 29 時間以下」（20.4%）、「週 30 時間～39 時間」（13.9%）の順で多くなっています。

問６　世帯構成



世帯構成については、最も多いのは「同居する人がいる」（87.8%）、次いで「ひとり暮らし」（10.4%）、「無回答」（1.8%）の順で多くなっています。

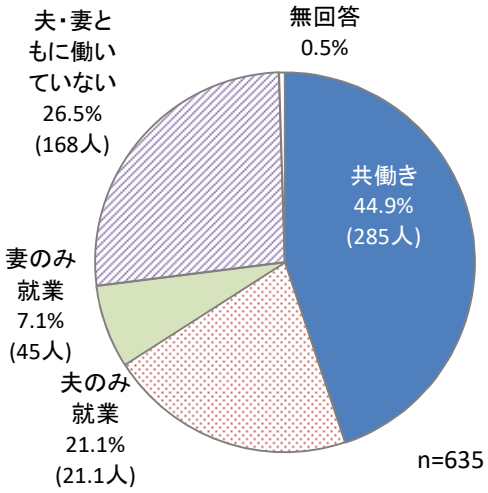
問７　婚姻状況



婚姻状況については、最も多いのは「既婚」（66.5%）が半数以上を占め、次いで「未婚」（15.6%）、「結婚していたが離別・死別した」（14.4%）の順で多くなっています。

【問７で「既婚」と回答した方】

問８　回答者と配偶者の就業状況

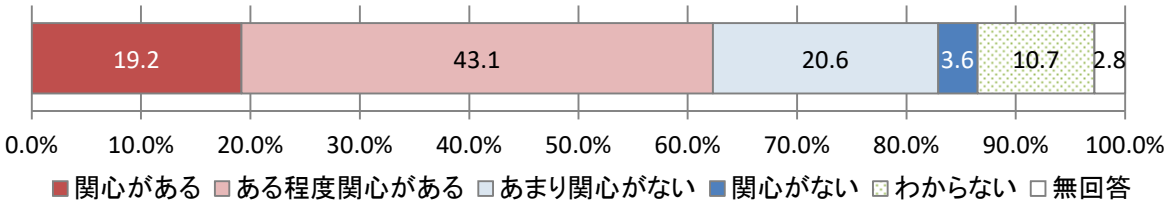


回答者と配偶者の就業状況については、最も多いのは「共働き」（44.9%）、次いで「夫・妻共に働いていない」（26.5%）、「夫のみ就業」（21.1%）の順で多くなっています。

60 代以上の回答者が半数を占めていることから、「夫・妻共に働いていない」の回答が２番目に高い結果となっていると考えられます。

2．男女平等について

問９　あなたは男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について、どの程度関心がありますか。



n=956

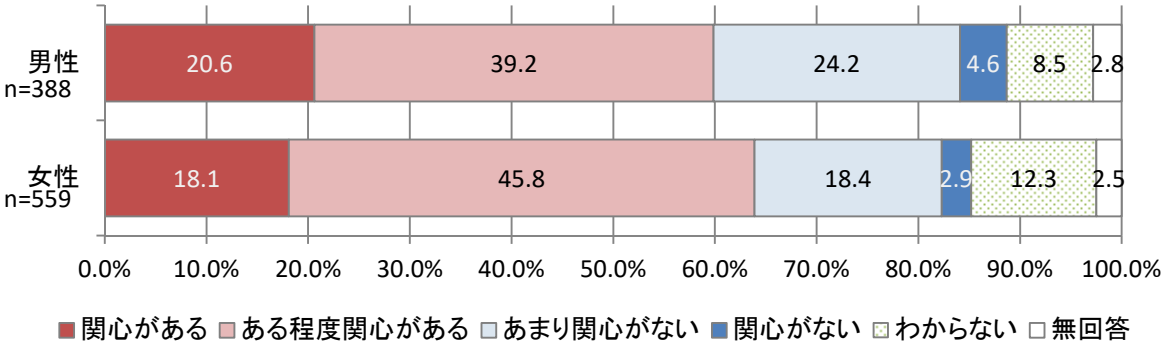
	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	関心がある	184	19.2
2	ある程度関心がある	412	43.1
3	あまり関心がない	197	20.6
4	関心がない	34	3.6
5	わからない	102	10.7
	無回答	27	2.8

有効票数 = 956

男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について、最も多いのは「関心がある・ある程度関心がある」（62.3%）、次いで「関心がない・あまり関心がない」（24.2%）、「わからない」（10.7%）の順で多くなっています。

男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について関心がある回答者の方が 38.1%多くなっています。

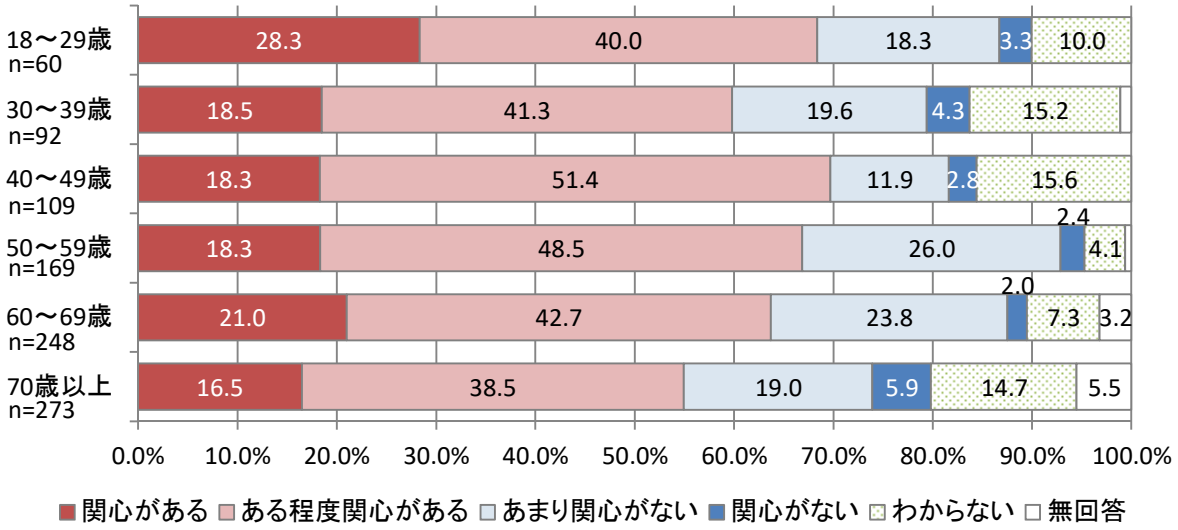
①性別



※性別については「その他」を選んだ回答者が１名だったため、クロス集計からは除外しています。以下、同じ。

“男性”のうち、「関心がある・ある程度関心がある」は 59.8%と半数以上を占めています。“女性”では 63.9%を占め、“男性”より若干“女性”の方が関心が高い結果となっています。

②年齢



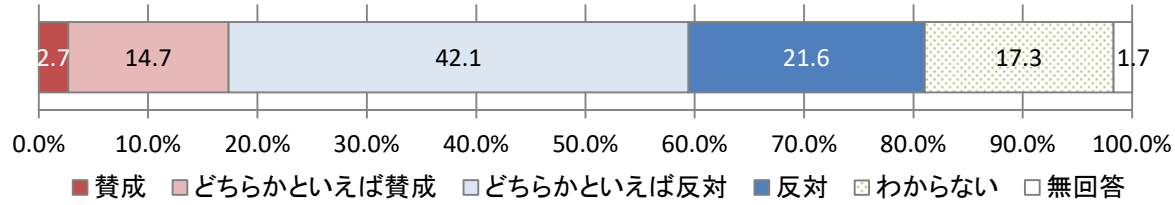
各年代で「関心がある・ある程度関心がある」が５割以上を占めており、特に“40～49 歳”では 69.7%を占めています。

「あまり関心がない・関心がない」は“50～59 歳”が最も高く 28.4%となっています。

全体的には６割以上の方が男女平等や性別にとらわれた役割意識の解消に関心を持っていますが、特に“18～29 歳”、“40～49 歳”ではおよそ７割の方が、関心があると回答しています。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると「あまり関心がない」「関心がない」は 12.4%減少し、「関心がある」が 1.6%上昇しています。

問 10　「男は仕事、女は家庭」という考え方を、あなたはどう思いますか。



n=955

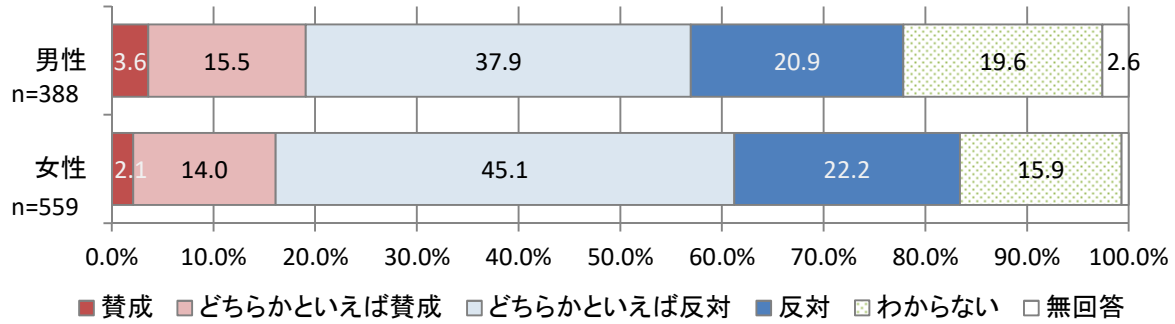
	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	賛成	26	2.7
2	どちらかといえば賛成	140	14.7
3	どちらかといえば反対	402	42.1
4	反対	206	21.6
5	わからない	165	17.3
	無回答	16	1.7

有効票数 = 955

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、最も多いのは「反対・どちらかといえば反対」（63.7%）、次いで「賛成・どちらかといえば賛成」（17.4%）、「わからない」（17.3%）の順で多くなっています。

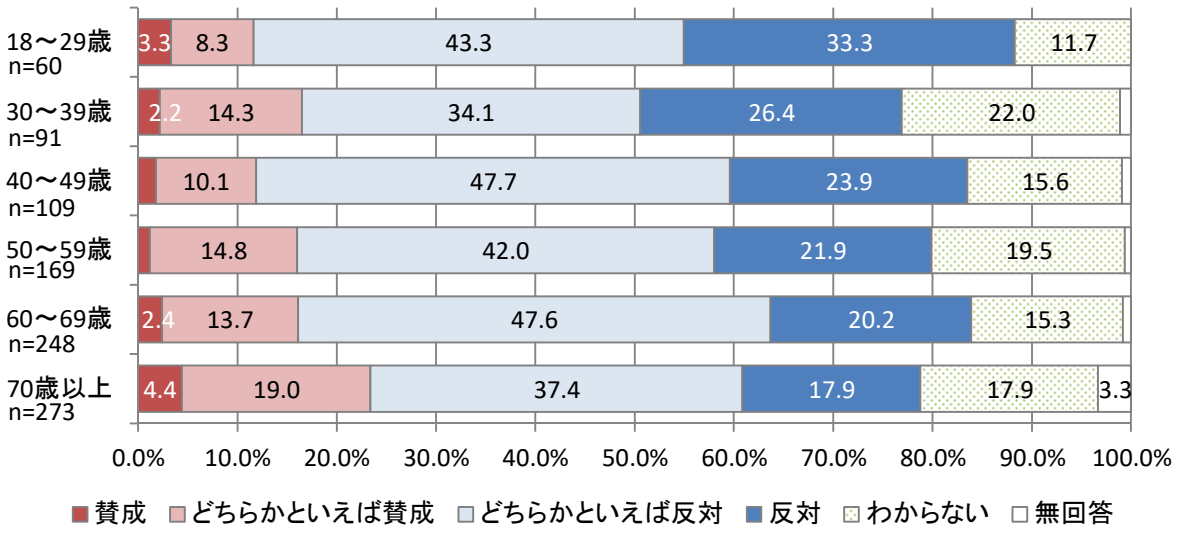
「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対の回答者が賛成の方の３倍以上を占めています。

①性別



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「どちらかといえば反対・反対」は“男性”では 58.8%、“女性”は 67.3%を占め、“女性”の方が 8.5%高い結果となっています。

②年齢

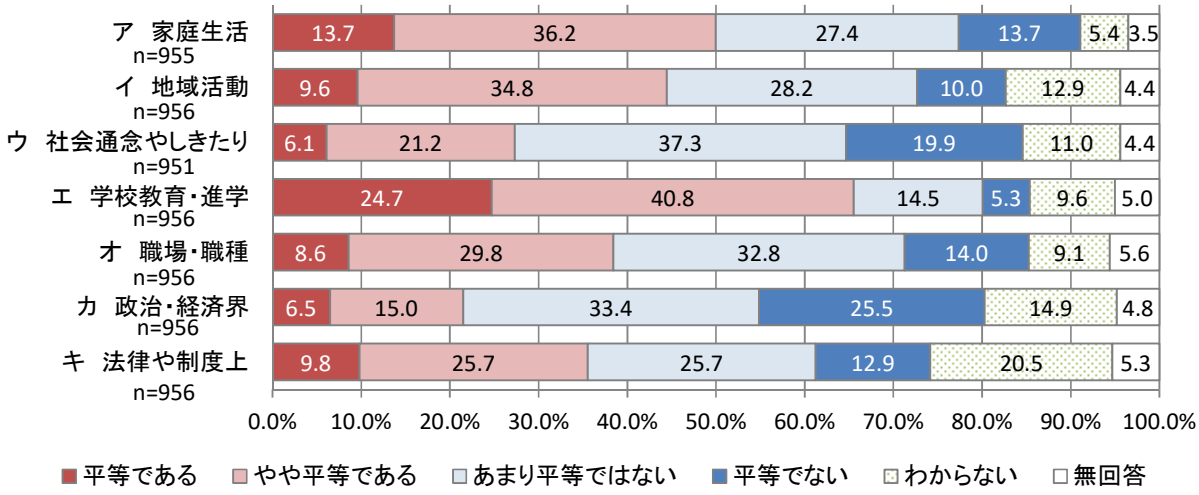


年齢でみると、「どちらかといえば反対・反対」が最も高いのは“18～29 歳”で 76.6%、次いで“40～49 歳”（71.6%）、“60～69 歳”（67.8%）の順となっています。

“70 歳以上”では「賛成・どちらかといえば賛成」が 23.4%と、他の年代に比べ最も高い割合となっています。

全体的には６割以上の方が「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対していますが、特に“女性”、“18～29 歳”、“40～49 歳”、の方が反対の割合が高くなっています。
賛成の方は“70 歳以上”で他に比べて高めの割合となっています。

問 11　次の各分野について、あなたは男女はどの程度平等だと感じていますか。



	平等である	やや平等である	あまり平等ではない	平等でない	わからない	無回答	有効票数
ア　家庭生活	131	346	262	131	52	33	955
	13.7	36.2	27.4	13.7	5.4	3.5	99.9
イ　地域活動	92	333	270	96	123	42	956
	9.6	34.8	28.2	10.0	12.9	4.4	99.9
ウ　社会通念やしきたり	58	202	355	189	105	42	951
	6.1	21.2	37.3	19.9	11.0	4.4	99.9
エ　学校教育・進学	236	390	139	51	92	48	956
	24.7	40.8	14.5	5.3	9.6	5.0	99.9
オ　職場・職種	82	285	314	134	87	54	956
	8.6	29.8	32.8	14.0	9.1	5.6	99.9
カ　政治・経済界	62	143	319	244	142	46	956
	6.5	15.0	33.4	25.5	14.9	4.8	100.1
キ　法律や制度上	94	246	246	123	196	51	956
	9.8	25.7	25.7	12.9	20.5	5.3	99.9

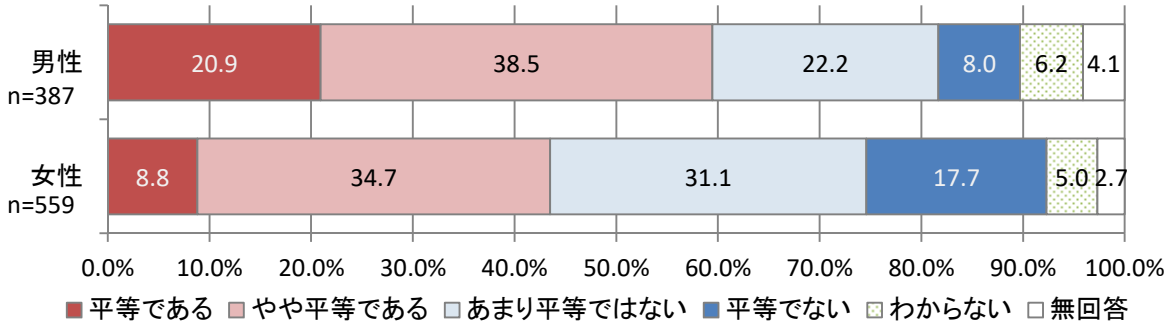
男女平等に関しては、「平等である・やや平等である」が最も多いのは“学校教育・進学”（65.5%）、次いで“家庭生活”（49.9%）、“地域活動”（44.4%）の順で多くなっています。

「平等でない・あまり平等でない」が最も多いのは“政治・経済界”（58.9%）、次いで“社会通念やしきたり”（57.2%）、“職場・職種”（46.8%）の順で多くなっています。

“学校教育・進学”や“家庭生活”では平等が進んでいますが、“社会通念やしきたり”、“政治・経済界”、“法律や制度上”など、社会では男女平等が進んでいないと感じている方が多くなっています。

ア　家庭生活

①性別

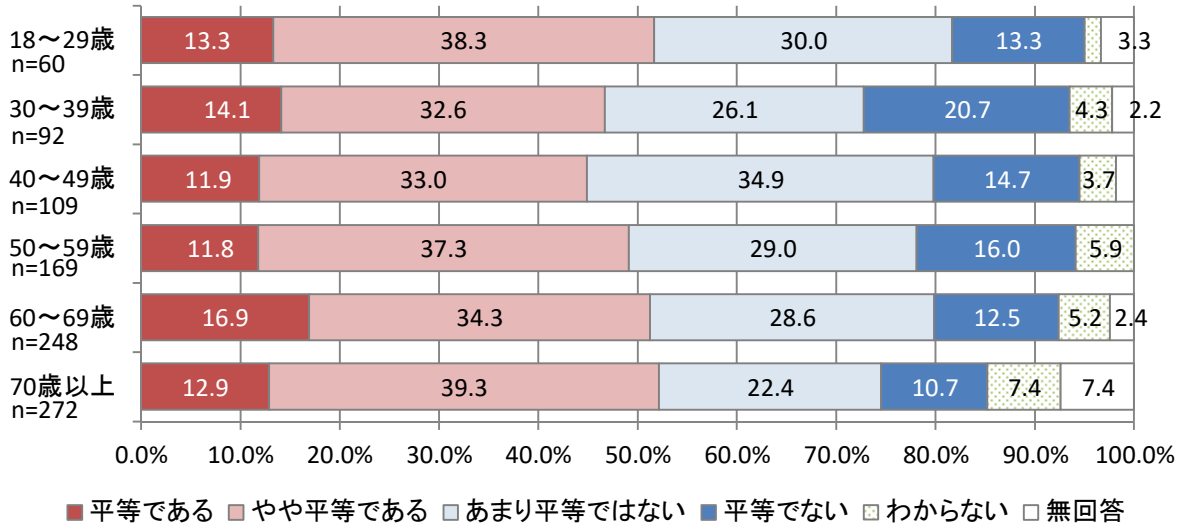


家庭生活については“男性”は「平等である・やや平等である」が 59.4%、“女性”では 43.5%であり、“男性”の方が 15.9%高い結果となっています。

“女性”は「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」の方が高く 48.8%とおよそ半数を占めています。

家庭生活の男女平等については、男女で認識のギャップがみられます。

②年齢

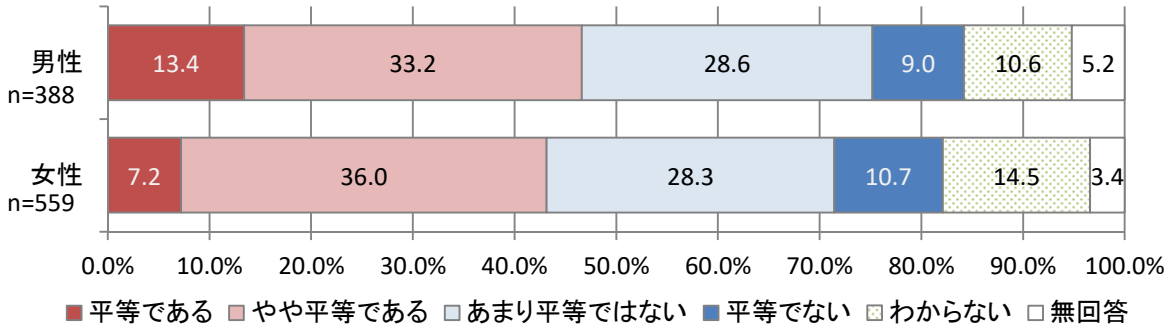


年齢でみると、60 代以上と“18～29 歳”では「平等である・やや平等である」が５割を超えていますが、30 代～50 代では５割を下回っています。

「あまり平等ではない・平等ではない」が最も高いのは“40～49 歳”（49.6%）、次いで“30～39 歳”（46.8%）、“50～59 歳”（45.0%）となっています。

イ　地域活動

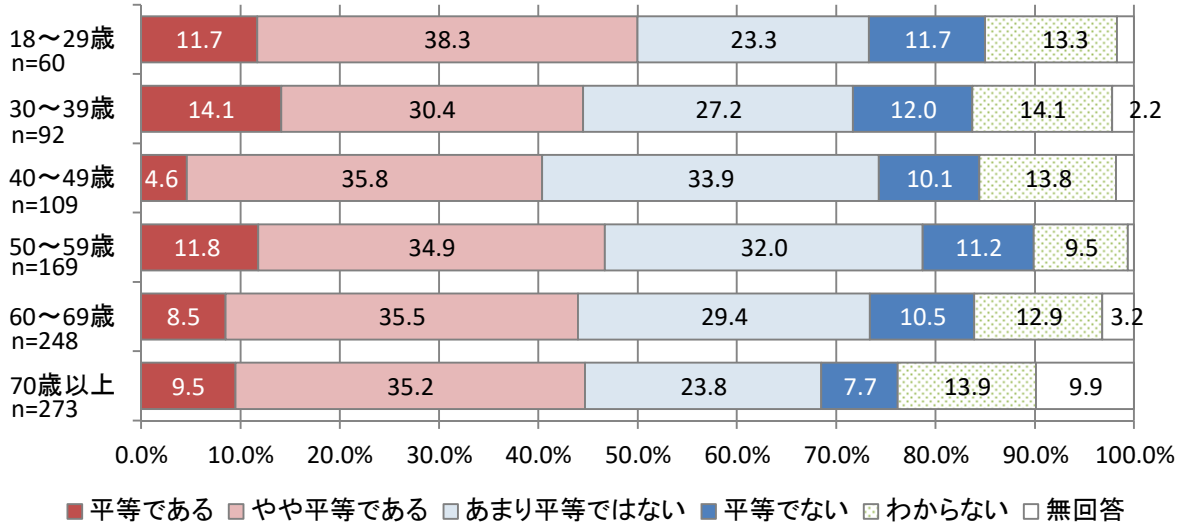
①性別



地域活動では「平等である・やや平等である」が“男性”は 46.6%、“女性”は 43.2%と、僅かに“男性”の方が高くなっています。

「あまり平等ではない・平等ではない」は“女性”が 39.0%、“男性”は 37.6%と、僅かに“女性”の方が高くなっています。

②年齢

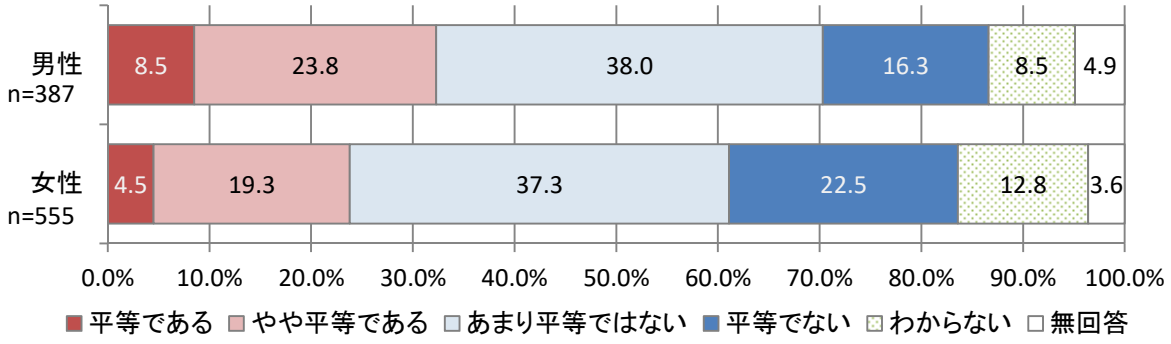


年齢でみると、“18～29 歳”では「平等である・やや平等である」が５割を占め、次いで“50～59 歳”（46.7%）、“70 歳以上”（44.7%）の順で高くなっています。

“40～49 歳”以外では「あまり平等ではない・平等ではない」よりも「平等である・やや平等である」の方が高くなっていますが、“40～49 歳”では「あまり平等ではない・平等ではない」の方が高く 44.0%、「平等である・やや平等である」が 40.4%となっています。

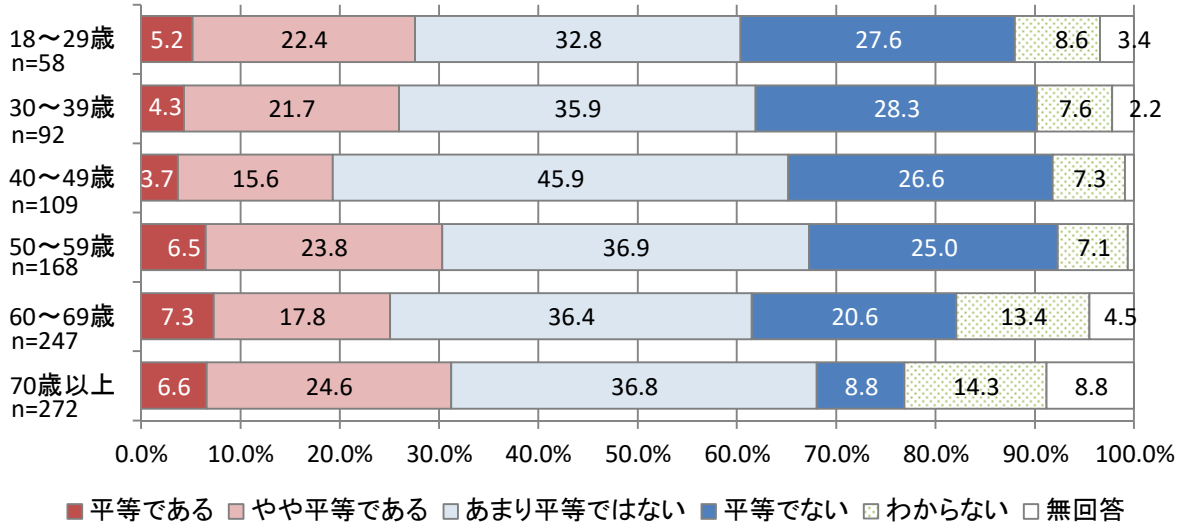
ウ　社会通念やしきたり

①性別



社会通念やしきたりについては、男女ともに「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等でない」の割合が高く５割以上を占めています。特に“女性”では「あまり平等ではない・平等ではない」がおよそ６割を占めています。

②年齢

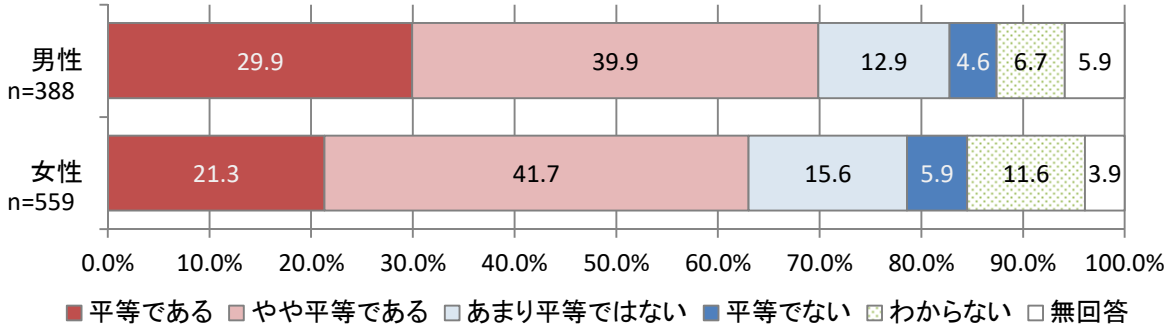


各年齢で「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」が上回っています。

特に“40～49 歳”では「あまり平等ではない・平等ではない」が 72.5%を占めています。

エ　学校教育・進学

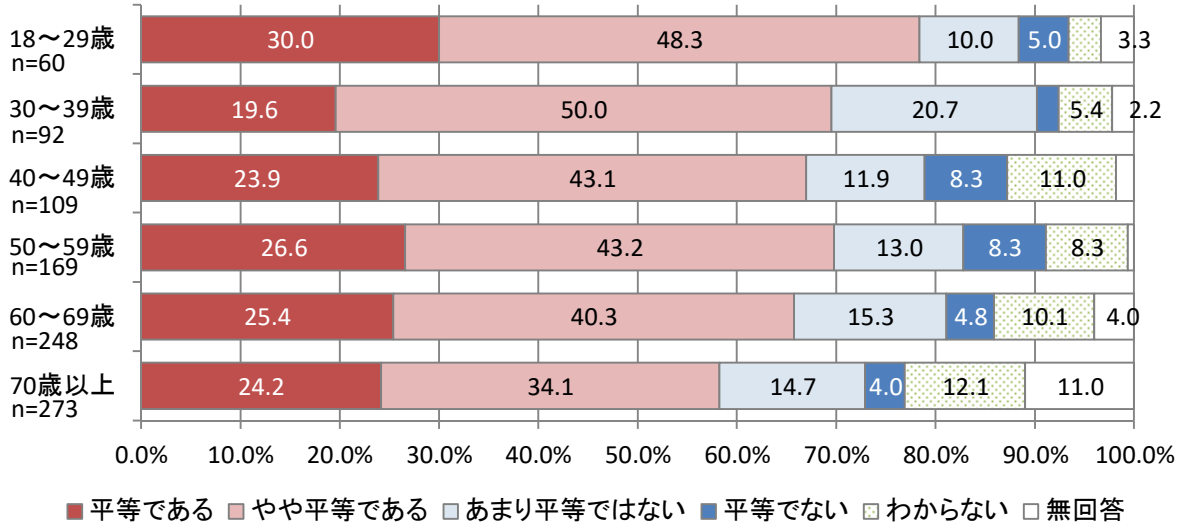
①性別



男女ともに「平等である・やや平等である」が6割以上を占め、“男性”はおよそ7割を占めています。

「あまり平等ではない・平等ではない」は“女性”が21.5%、“男性”は17.5%と、若干“女性”の方が高い割合となっています。

②年齢

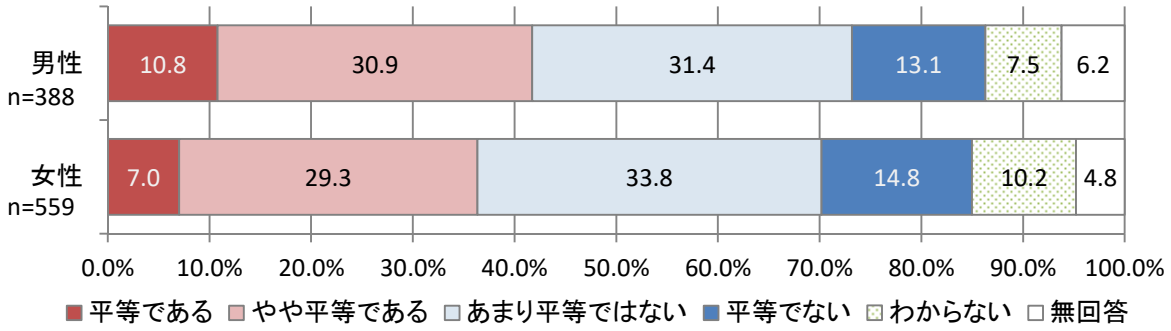


年齢でみると、全ての年代で「平等である・やや平等である」が半数以上を占めています。特に“18～29歳”では78.3%と高い割合となっています。

「あまり平等ではない・平等ではない」は“30～39歳”が22.9%と最も高く、次いで“50～59歳”（21.3%）、“40～49歳”（20.2%）の順で高くなっています。

オ　職場・職種

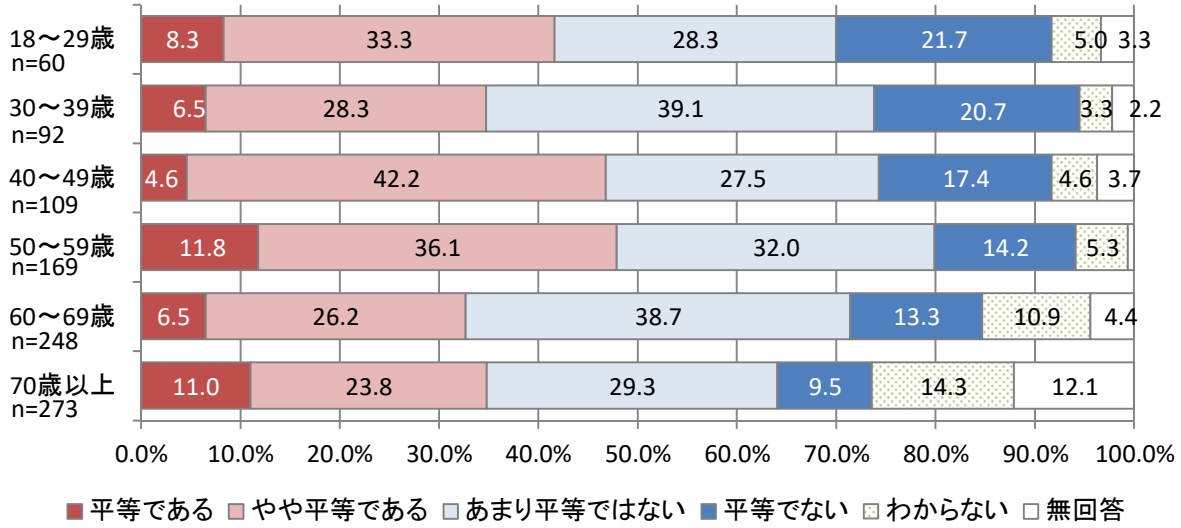
①性別



職場・職種については男女ともに「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」の方が高くなっています。

“男性”は「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」が 2.8%高くなっていますが、“女性”は 12.3%高くなっています。

②年齢

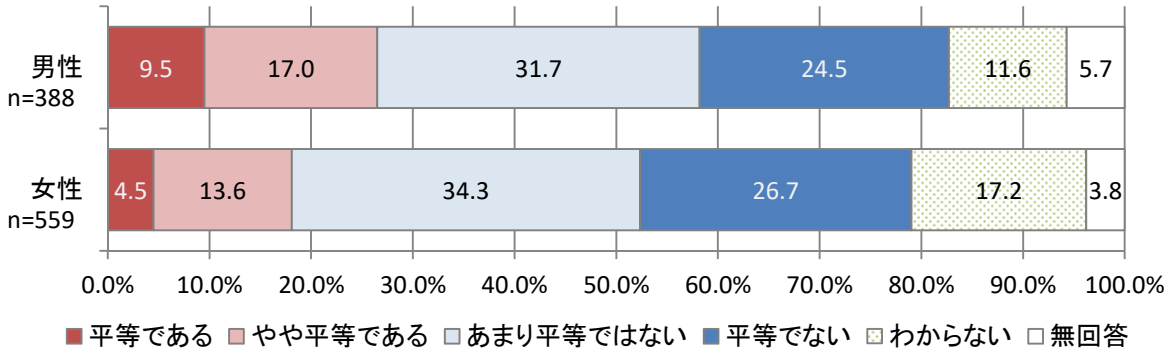


年齢でみると、“40～49 歳”と“50～59 歳”以外では「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」の方が高くなっています。

特に“18～29 歳”、“30～39 歳”、“60～69 歳”は「あまり平等ではない・平等ではない」が半数以上を占めています。

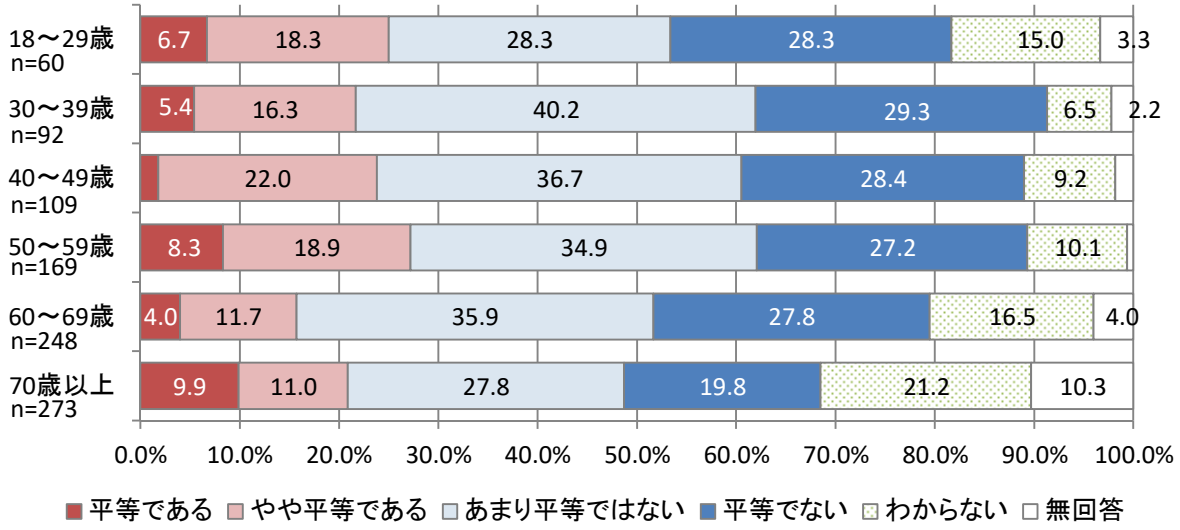
カ　政治・経済界

①性別



男女ともに政治・経済界については「あまり平等ではない・平等ではない」と感じている方が半数以上を占めています。特に“女性”は「あまり平等ではない・平等ではない」が 61.0%を占めています。

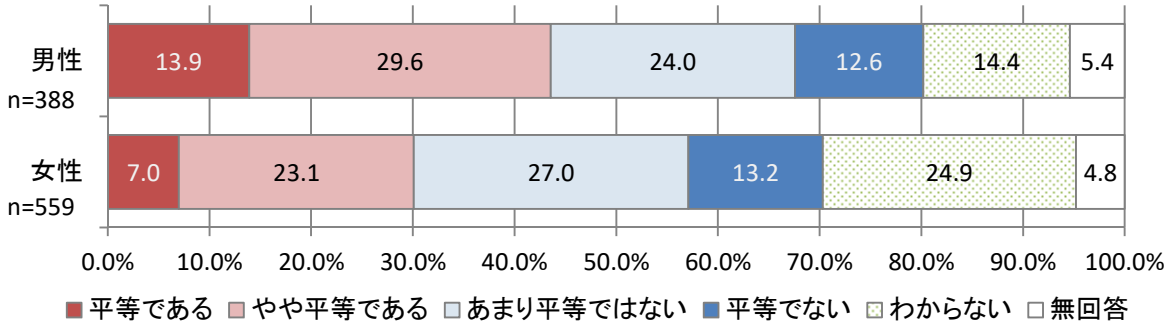
②年齢



全ての年代で「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」の方が高い割合となっており、“70 歳以上”以外では半数以上を占めています。特に“30～39 歳”では 69.5%とおよそ７割を占めています。

キ　法律や制度上

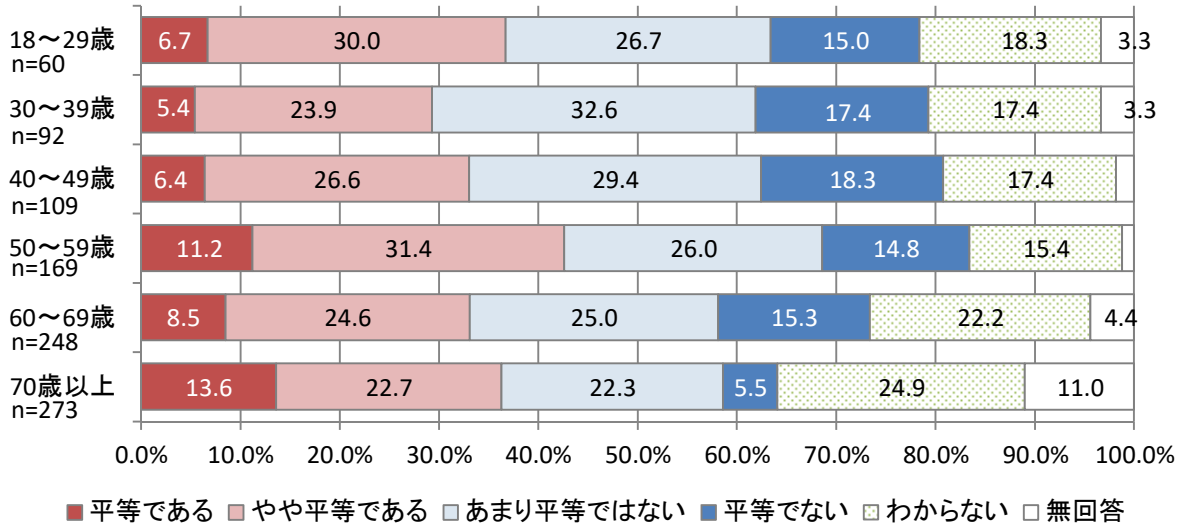
①性別



法律や制度上については、“男性”は「あまり平等ではない・平等ではない」よりも「平等である・やや平等である」の方が高くなっていますが、“女性”は「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」の方が高くなっており、若干男女の認識にギャップがあると推測されます。

また、“女性”は「わからない」が24.9%となっています。

②年齢



年齢別にみると“50～59 歳”と“70 歳以上”以外は「平等である・やや平等である」よりも「あまり平等ではない・平等ではない」が多くなっています。特に“30～39 歳”では 50.0%を占めています。

「学校教育や進学」以外では、平等であると感じている方よりも、平等ではないと感じている方の方が多くなっています。

特に「家庭生活」では“男性”は平等ではないと感じている方よりも、平等であると考えている方が多く５割以上を占めているのに対し、“女性”は平等ではないと感じている方の方が多く、およそ５割を占めています。このことから、「家庭生活」に対する男女平等感には、男女の間にギャップがあり、男性が思っているほど、女性は平等だと思っていないということが分かります。

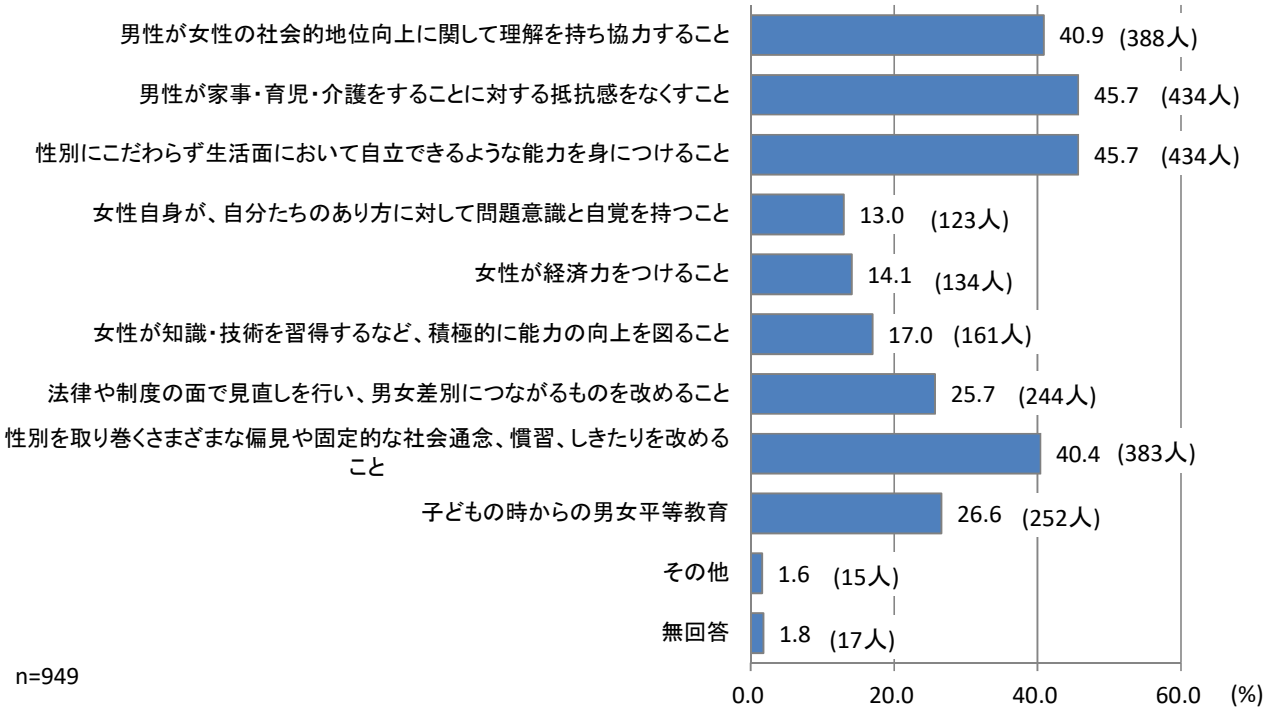
また、「社会通念やしきたり」や「政治・経済界」、「法律や制度上」については平等ではないと感じている方の割合が高く、社会的に男女平等ではないと感じていることが伺えます。

年代でみると、40 代では特に平等ではないと感じている方が多い傾向にあり、仕事と育児、家事が集中し、負担があることが伺えます。

「法律や制度上」や「政治・経済界」では女性や高齢者で「わからない」という回答が他に比べて高くなっています。高齢者であれば、社会との接点が減ることで現在の状況が平等かどうか判断しかねることから「わからない」と回答しているのではないかと考えられますが、女性の場合、社会との接点以外にも、それぞれに、どうなっていれば男女が平等であるのかが、はっきりと示されておらず、「どのような状況になっていれば平等といえるのか」が分からないために判断しかねているのではないかと推測されます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、全体的に「平等である・やや平等である」については、あまり変化はありませんが、「あまり平等ではない・平等ではない」はやや増加している傾向にあります。特に「社会通念やしきたり」については「あまり平等ではない・平等ではない」が 5%ほど上昇しています。

問 12　今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が重要であると思いますか。
（○は３つまで）



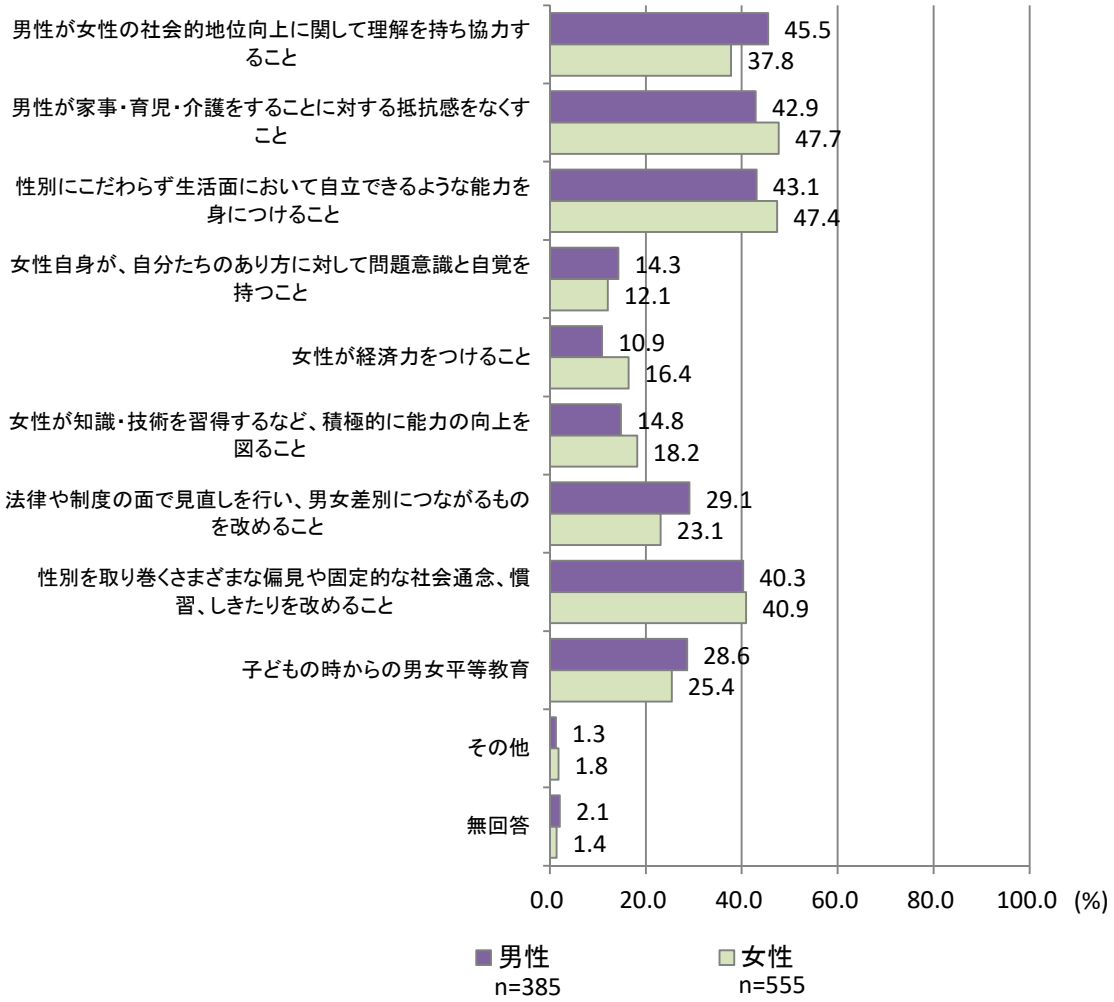
今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要なことについては、「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」（45.7%）・「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」（45.7%）が最も多く、次いで「男性が女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」（40.9%）、「性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」（40.4%）の順で多くなっています。

男女ともに、家庭や生活に関して、能力を身に付け携わるようになることが望まれています。

○その他（抜粋）

- 人権の尊重。
- 育休の取得の取りやすさ。
- 男と女で身体も違うのに全部平等は無理なので、必要なのは歩み寄り。
- 新しくできた法律、制度は使わなければならないと、会社、上司が思い行動し、下の人達も理解して行動する事。
- 女性の政治参加を促進する事。
- そもそも平等が無理だと思っている。
- 何をもって不公平というのでしょうか。
- 男女の理学的な能力差についてもっと社会に認知される事が大事だと思う。男性の有利な点、女性の有利な点を良く理解したうえでないと、何でもかんでも平等にする事がかって不平等になる恐れもある。この論点が全然足りていない。
- どこか他人事になっている自分もいるので個人単位、家庭単位で女はこうあるべきだ、男はこうあるべきだという見方、先入観を振り払っていく努力が必要だと思う。それが幸福感につながっていると思う。

①性別

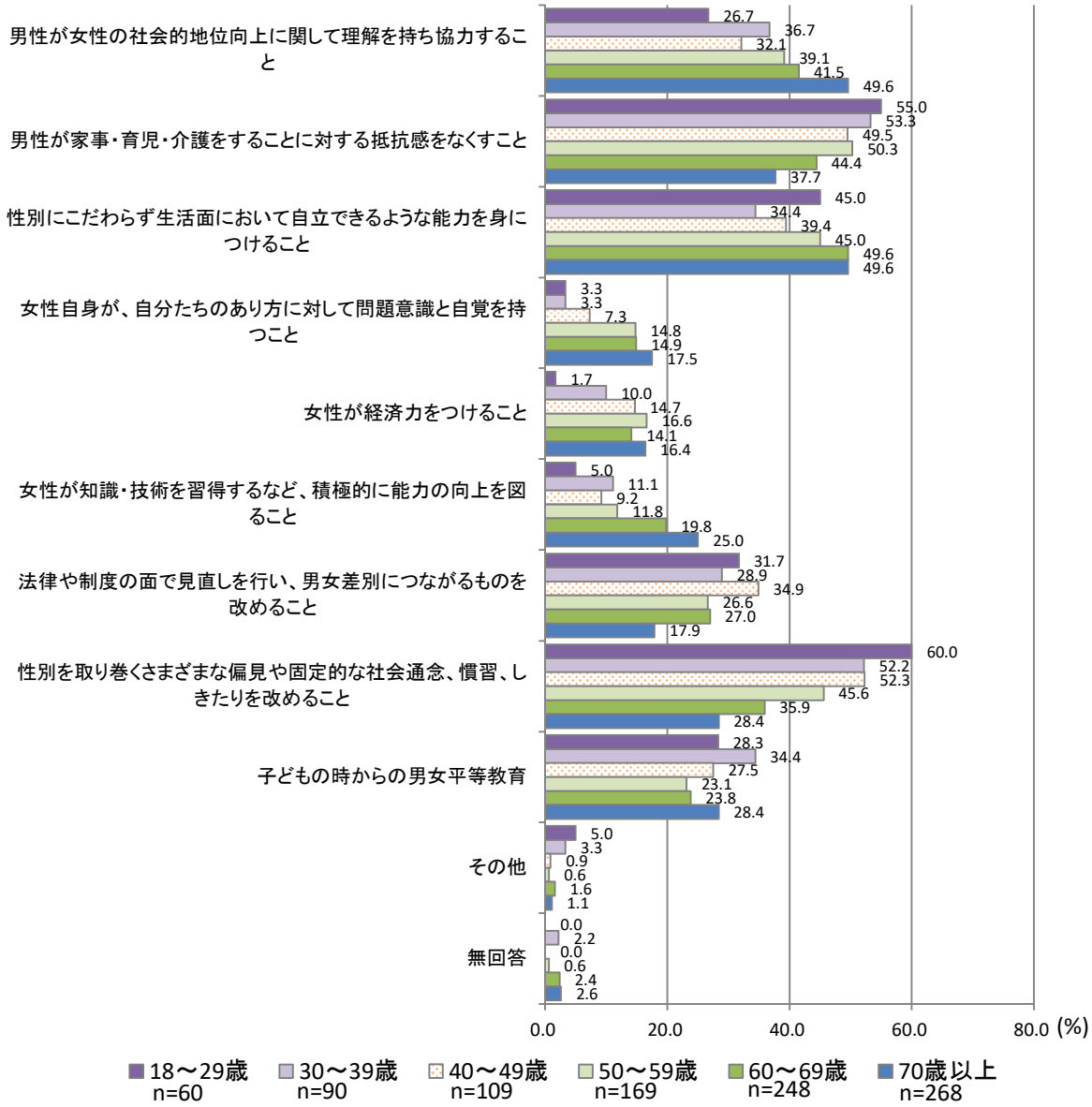


もっと男女が平等になるためには、“男性”は「男性が女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」（45.5%）が最も高く、次いで「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」（43.1%）、「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」（42.9%）の順で高くなっています。

“女性”では「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」（47.7%）が最も高く、次いで「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」（47.4%）、「性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」（40.9%）の順で高くなっています。

“女性”の方が男性に現実の家庭生活にもっと関わってほしいと考えていることが伺えます。

②年齢



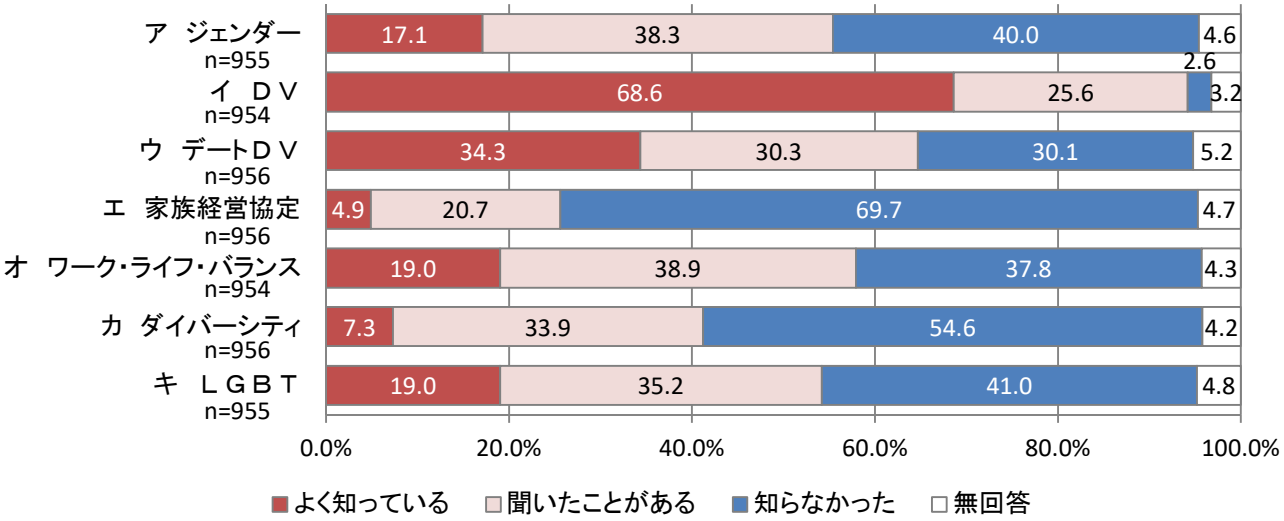
各年齢で「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」と「性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」の割合が高くなっています。次いで「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」や「男性が女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」が高くなっています。

今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、重要なことについては単純集計や各クロス集計でも「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」の割合が高い傾向にあります。

男女でみると、“男性”は「男性が女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」という理念的なことについての割合が最も高いのに対し、“女性”は現実的に男性の家庭生活への協力を重要視しており「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」や「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」の割合が高くなっています。

また、“女性”においては「性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」の割合も高くなっていることから、女性が生きにくい社会であると感じていることが伺えます。

問 13　あなたは次の「ことば」を知っていますか。



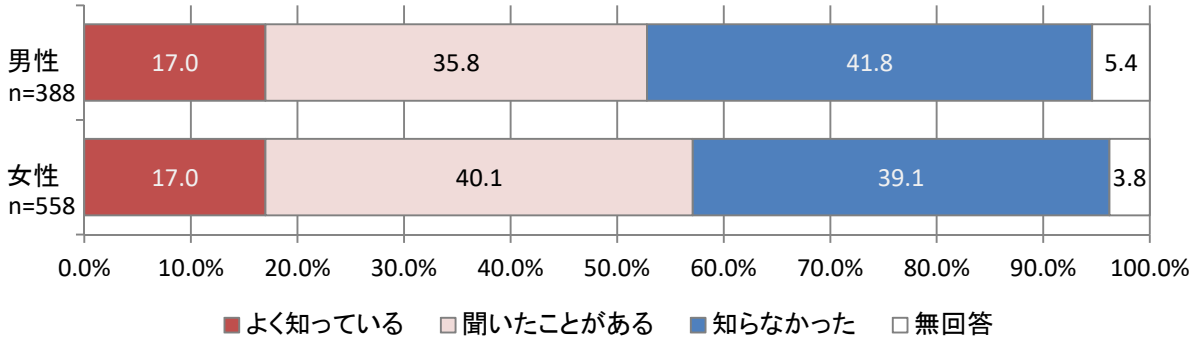
	よく知っている	聞いたことがある	知らなかった	無回答	有効票数
ア　ジェンダー	163	366	382	44	955
	17.1	38.3	40.0	4.6	100.0
イ　DV	654	244	25	31	954
	68.6	25.6	2.6	3.2	100.0
ウ　デートDV	328	290	288	50	956
	34.3	30.3	30.1	5.2	99.9
エ　家族経営協定	47	198	666	45	956
	4.9	20.7	69.7	4.7	100.0
オ　ワーク･ライフ･バランス	181	371	361	41	954
	19.0	38.9	37.8	4.3	100.0
カ　ダイバーシティ	70	324	522	40	956
	7.3	33.9	54.6	4.2	100.0
キ　LGBT	181	336	392	46	955
	19.0	35.2	41.0	4.8	100.0

用語については、「よく知っている・聞いたことがある」が最も多いのは“DV”（94.2%）、次いで“デート DV”（64.6%）、“ワーク・ライフ・バランス”（57.9%）の順で多くなっています。

「知らなかった」が最も多いのは“家族経営協定”（69.7%）、次いで“ダイバーシティ”（54.6%）、“LGBT”（41.0%）の順で多くなっています。

ア　あなたは「ジェンダー」という言葉を知っていますか。

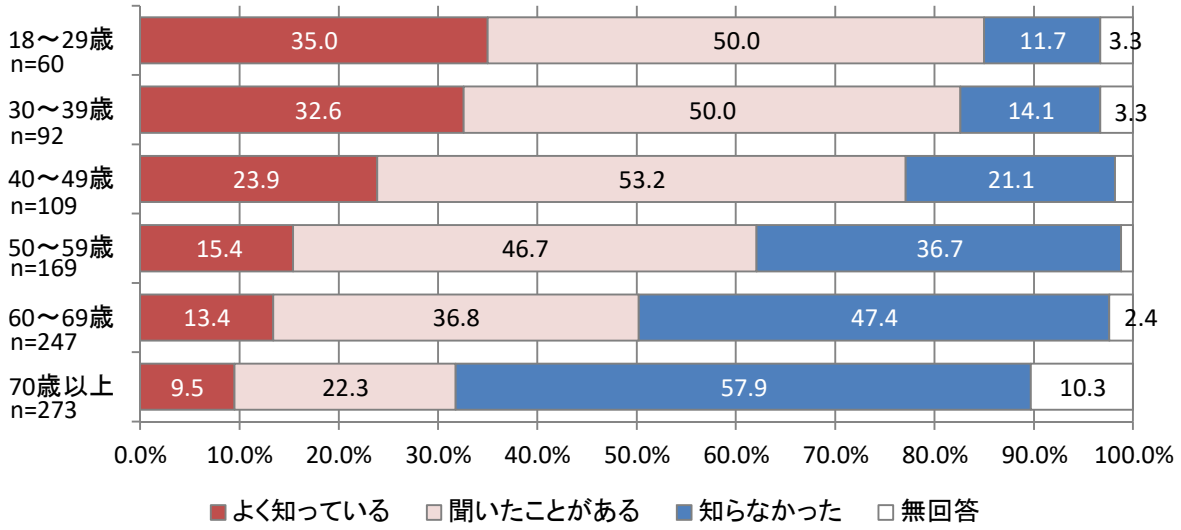
①性別



「ジェンダー」については、男女とも、およそ４割が「知らなかった」と回答しています。

“男性”は「知らなかった」が最も高く、次いで「聞いたことがある」、「よく知っている」の順となっていますが、“女性”は「聞いたことがある」が最も高く、次いで「知らなかった」、「よく知っている」の順となっています。

②年齢

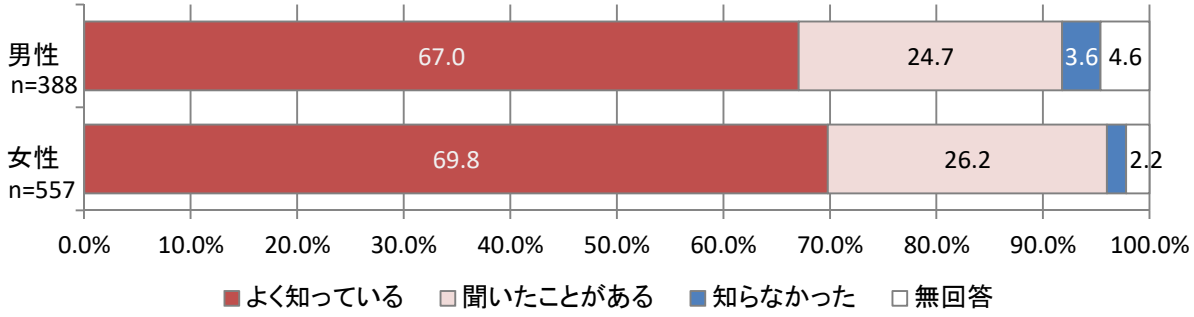


年齢別にみると、年齢が上がるに連れて「知らなかった」の割合が増加しています。特に“70歳以上”では 57.9%を占めています。

40 代以下では「聞いたことがある」が５割以上、「よく知っている」と合わせると７割以上を占めていることから、一般的に普及していることが伺えます。

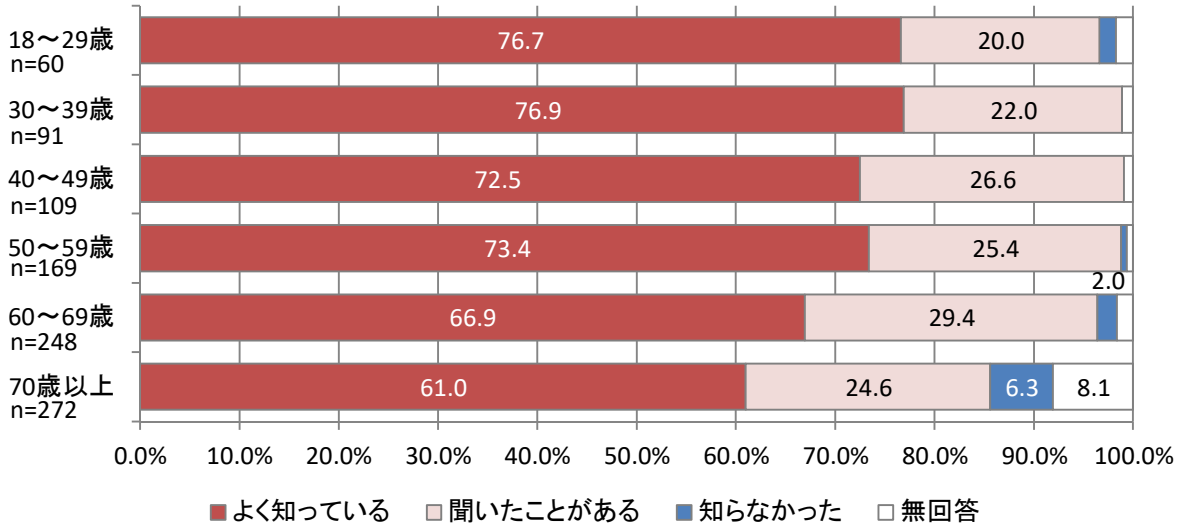
イ　あなたは「ＤＶ」という言葉を知っていますか。

①性別



「ＤＶ」については、男女とも「よく知っている」がおよそ７割を占めています。「聞いたことがある」を合わせると９割以上となっています。

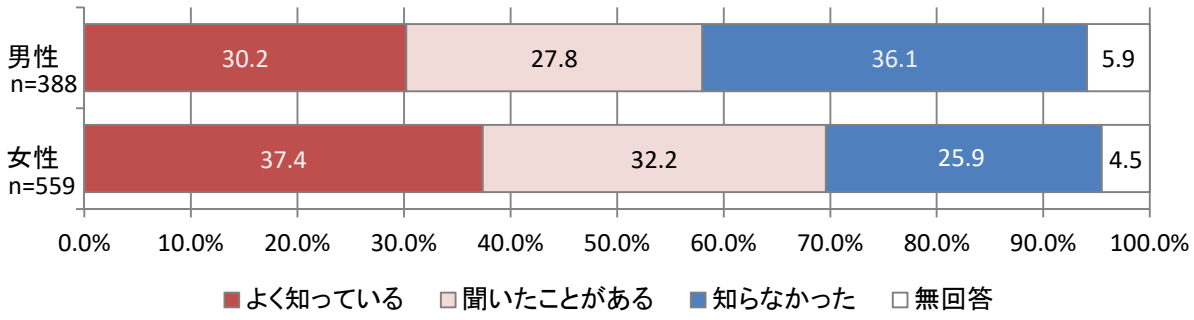
②年齢



各年代で「よく知っている」が６割以上を占めており、特に“30～39 歳”では 76.9%を占めています。「よく知っている」と「聞いたことがある」を合わせると 60 代以下では９割以上、“70 歳以上”でも８割以上となっています。

ウ　あなたは「デートＤＶ」という言葉を知っていますか。

①性別



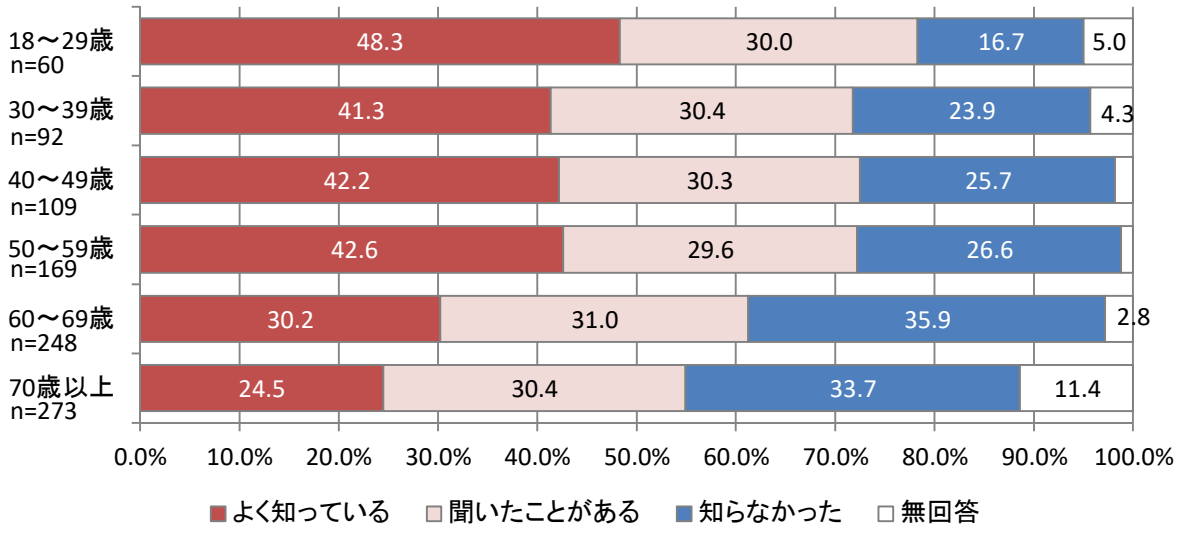
「デートＤＶ」については男女とも３割以上が「よく知っている」と回答しています。

“男性”は「知らなかった」が最も高く 36.1%、次いで「よく知っている」（30.2%）、「聞いたことがある」（27.8%）の順となっています。

“女性”は「よく知っている」が最も高く 37.4%、次いで「聞いたことがある」（32.2%）、「知らなかった」（25.9%）の順となっています。

「知らなかった」については“女性”より“男性”の方が 10.2%高くなっています。

②年齢

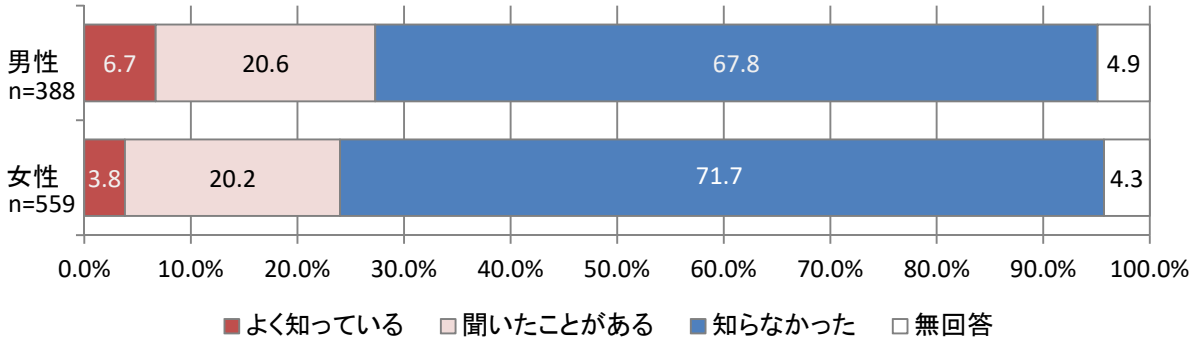


50 代以下では「よく知っている」が４割以上となっており、「聞いたことがある」と合わせると７割以上となっています。特に“18～29 歳”では「よく知っている」が 48.3%とおよそ半数を占め、「聞いたことがある」と合わせるとおよそ８割を占めています。

“60～69 歳”と“70 歳以上”では「知らなかった」が最も高く、次いで「聞いたことがある」、「よく知っている」の順で高くなっています。

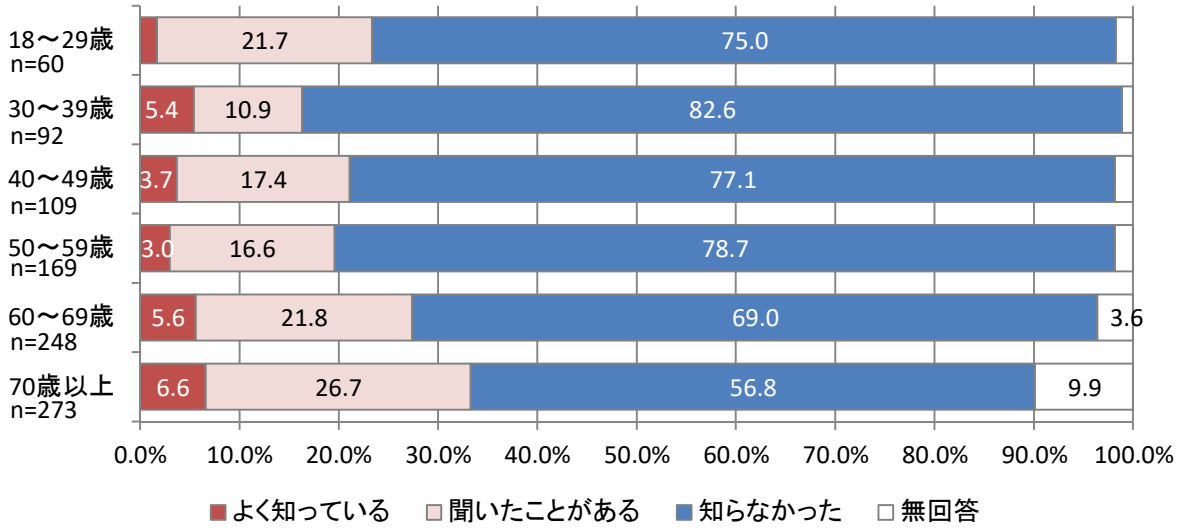
エ　あなたは「家族経営協定」という言葉を知っていますか。

①性別



「家族経営協定」については男女ともに「知らなかった」がおよそ７割を占めています。「よく知っている」は男女とも１割未満となっています。

②年齢

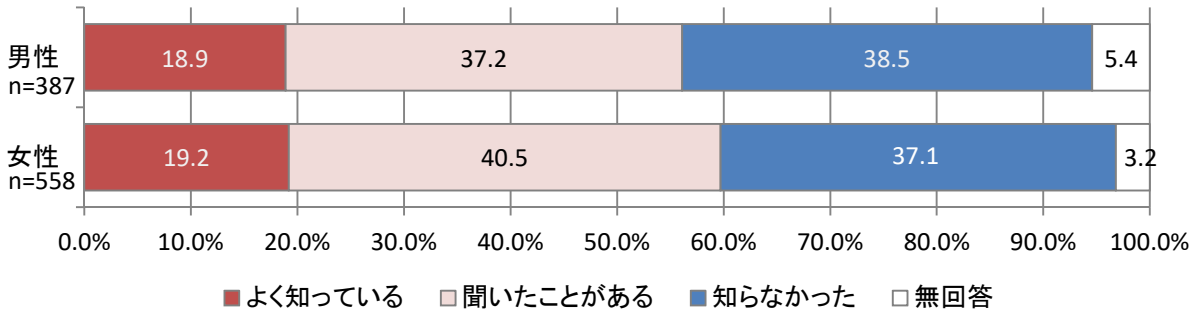


各年齢で「よく知っている」は１割未満ですが、“70 歳以上”では「よく知っている」と「聞いたことがある」を合わせると 33.3%となっています。

「知らなかった」は“30～39 歳”で最も高く 82.6%、次いで“50～59 歳”（78.7%）、“40～49 歳”（77.1%）が高くなっています。

オ　あなたは「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。

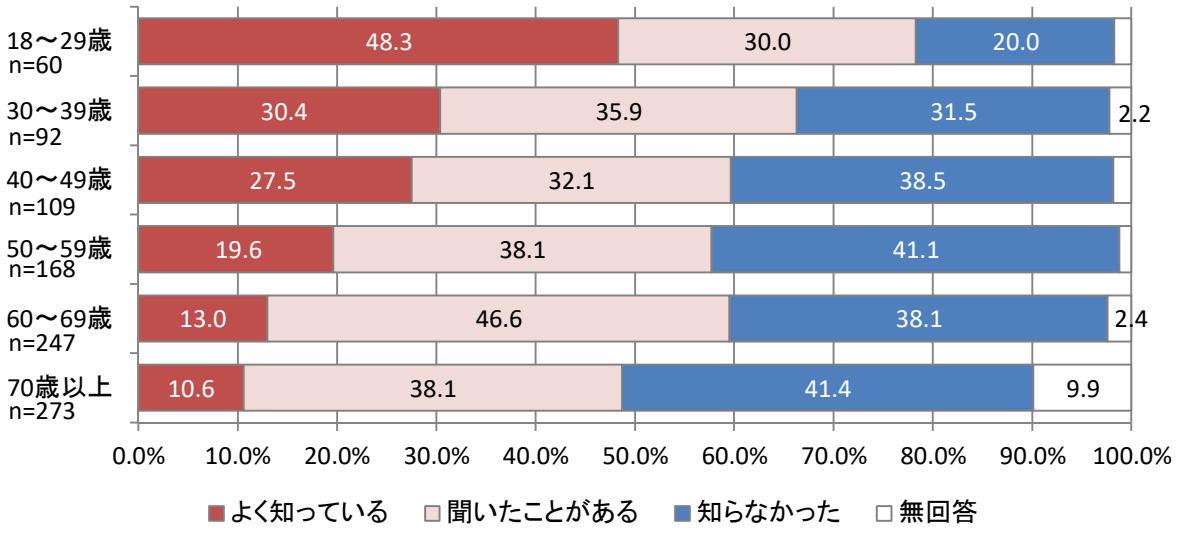
①性別



「ワーク・ライフ・バランス」は男女ともに「よく知っている」が２割未満となっていますが、「聞いたことがある」と合わせると半数以上を占めています。

「知らなかった」は“男性”で 38.5%、“女性”で 37.1%となっています。

②年齢

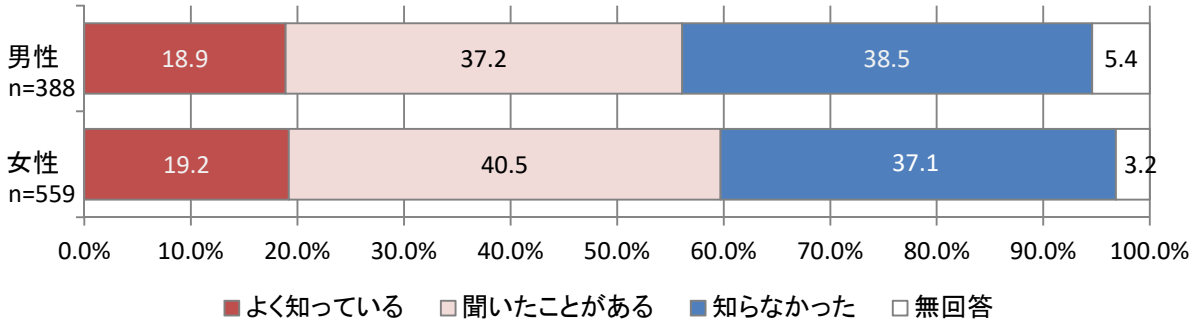


年齢が下がるに連れて「よく知っている」の割合が高くなっています。特に“18～29 歳”では「よく知っている」と「聞いたことがある」を合わせると 78.3%を占めています。

“50～59 歳”と“70 歳以上”では「知らなかった」が４割以上を占めています。

カ　あなたは「ダイバーシティ」という言葉を知っていますか。

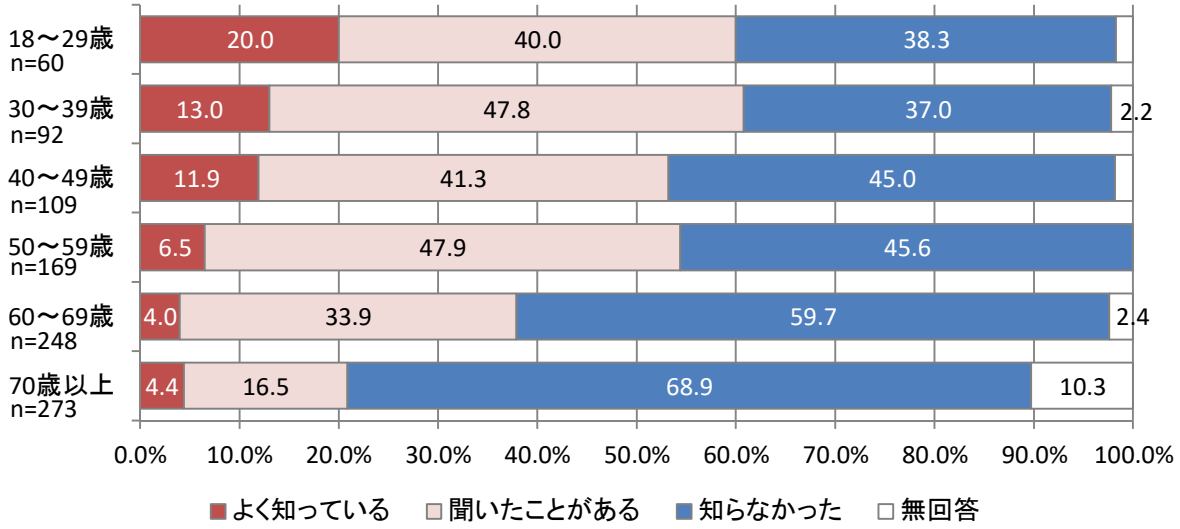
①性別



「ダイバーシティ」については、男女とも「よく知っている」は２割未満で、「よく知っている」と「聞いたことがある」を合わせると５割以上となっています。

「知っている」と「知らなかった」は男女に大きな差は見られません。

②年齢

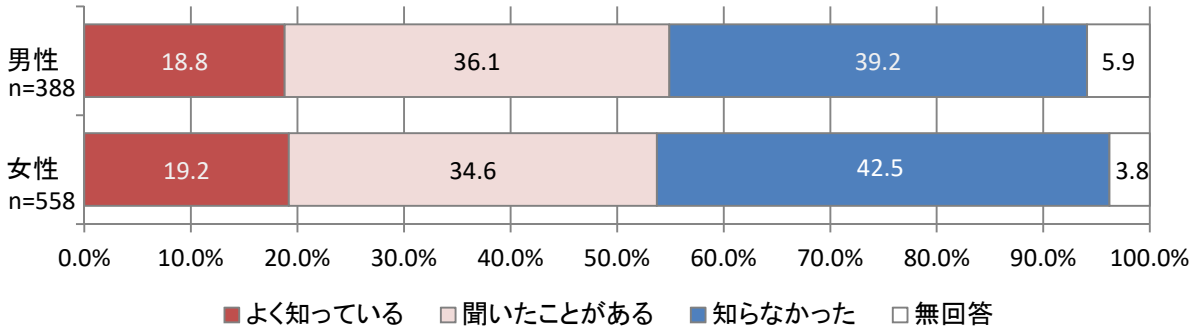


「よく知っている」は“18～29 歳”が最も高く 20.0%、次いで“30～39 歳”（13.0%）、“40～49 歳”（11.9%）、50 代以上は１割未満となっています。

“70 歳以上”では「知らなかった」が 68.9%を占め、“60～69 歳”ではおよそ６割を占めています。高年齢層には、あまり知られていないことが伺えます。

キ　あなたは「ＬＧＢＴ」という言葉を知っていますか。

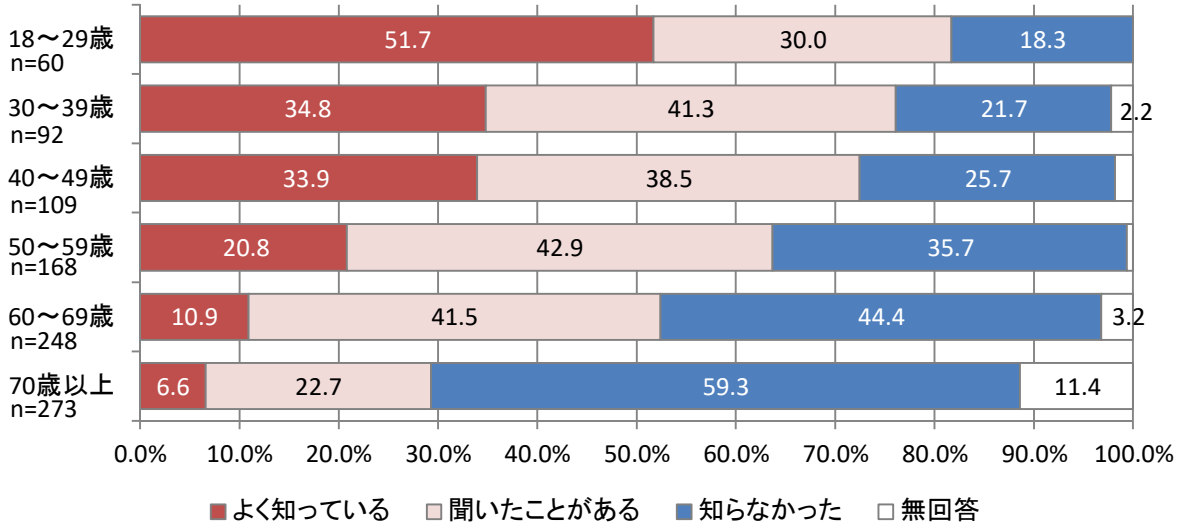
①性別



男女ともに「知らなかった」が最も高く、“男性”では 39.2%、“女性”では 42.5%となっています。

「知っている」はそれぞれ２割未満、「知っている」と「聞いたことがある」を合わせると５割以上となっています。

②年齢



年齢が下がるに連れ「よく知っている」の割合が高くなっています。特に“18～29 歳”では半数以上を占め、「よく知っている」と「聞いたことがある」を合わせると 81.7%となっています。

“70 歳以上”では「知らなかった」が 59.3%を占め、「聞いたことがある」は 22.7%、「よく知っている」は 6.6%、となっています。

おおむね、年齢が上がるに連れて「知らなかった」の割合が高くなり、高齢者で「知らなかった」の割合が最も高くなる傾向にあります。

なかでも「ワーク・ライフ・バランス」や「ダイバーシティ」は全年齢でみても「よく知っている」がおよそ１割から２割であり、「知らなかった」は高齢者層で割合が高い傾向にあります。

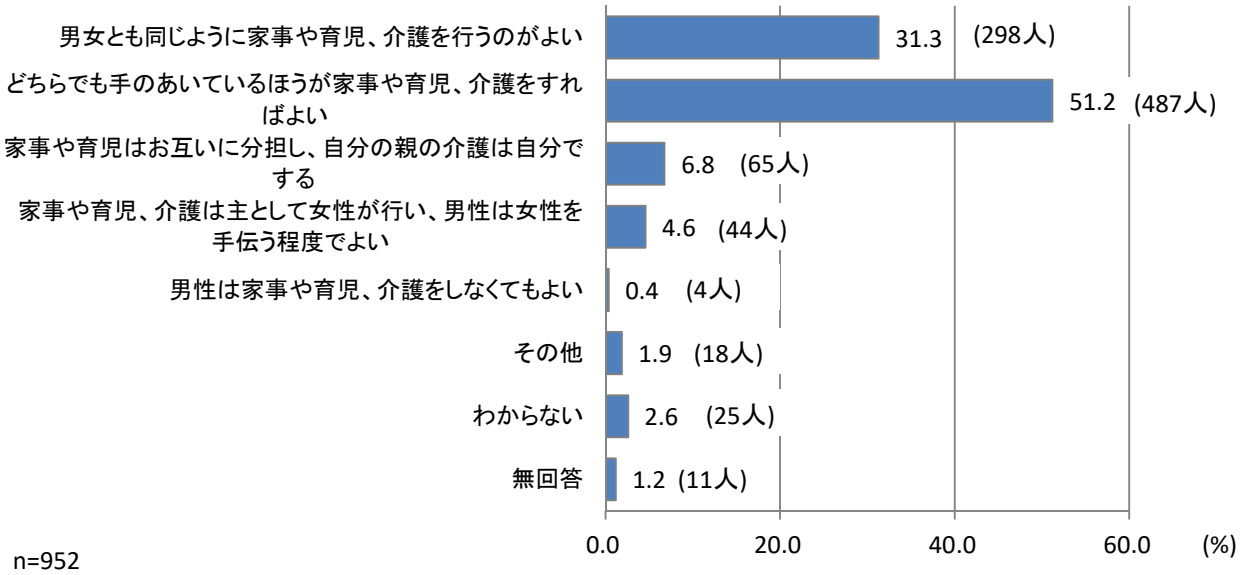
「ＤＶ」については高齢者でも８割以上知られていますが、「デートＤＶ」は 60 代以上の高齢者層で「知らなかった」が最も高い割合を占めています。また、「デートＤＶ」については「知らなかった」が女性より男性の方が 10.2%高く、男女差が現れています。

「家族経営協定」はあまり知られておらず、「知らなかった」がおよそ７割となっています。個人事業主や農業や漁業等以外の方には、特に接することがない言葉であることから、知られていないと考えられます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、変化が大きかったのは「ジェンダー」と「ダイバーシティ」です。平成 27 年度では「知らなかった」が半数以上を占めていましたが、本年度は「よく知っている」「聞いたことがある」がそれぞれ増加し、「知らなかった」は「ジェンダー」「ダイバーシティ」ともに 20%ほど減少しています。

３．性別役割分担について

問 14　あなたは家庭生活の中で家事や育児等の役割分担について、どのように考えますか。



家庭生活の中で家事や育児等の役割分担について、最も多いのは「どちらでも手のあいているほうが家事や育児、介護をすればよい」（51.2%）が半数以上を占め、次いで「男女とも同じように家事や育児、介護を行うのがよい」（31.3%）、「家事や育児はお互いに分担し、自分の親の介護は自分でする」（6.8%）の順で多くなっています。

「家事や育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」、「男性は家事や育児、介護をしなくてもよい」という回答も計 5.0%ほどみられました。

○その他（抜粋）

「よく話し合い、お互いに協力することが大事」（６人）

- 一人では大変な仕事でありますので、夫婦で良く話合い、育児、介護にしても方向性を１つにして協力しお互いをいたわり合いながら進めて行くべきと思います。
- 生活をする上で互いが理解する事が必要なので、互いに話し合いをして決めた方が良い。

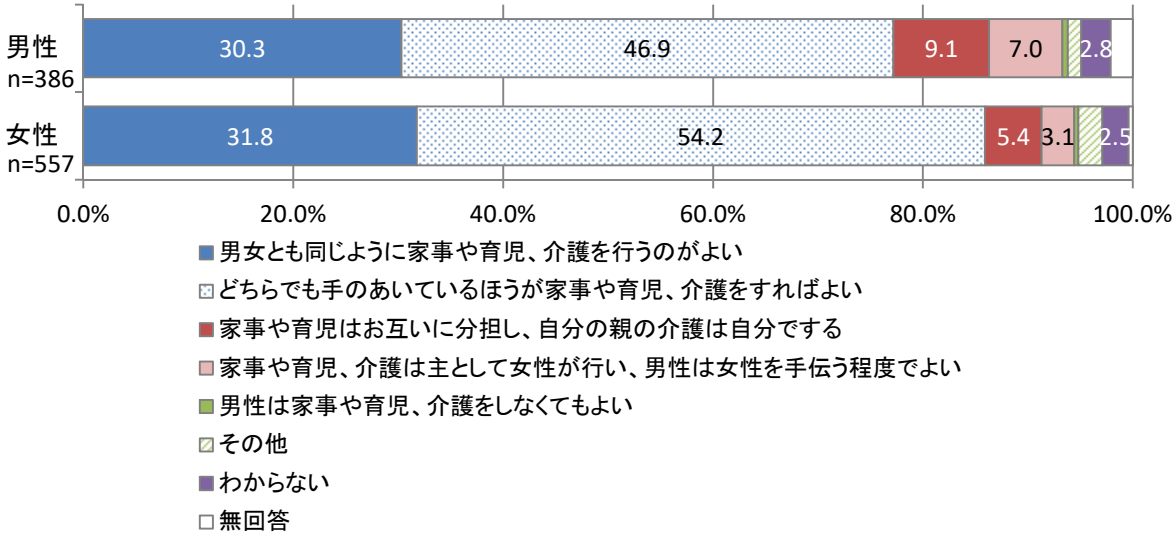
「家庭や個人の状況に合わせて行うのが良い」（５人）

- 各家庭で状況は全く違うので「何がよい」ではなく、各家庭で取れる体制をとればいいと思う。まわりの社会がそれについて良い悪いと判断すべきではない。理解する事が大事。
- その家庭によっても違うので何とも言えない。家事を出来ない男性が多すぎる。

「その他」（４人）

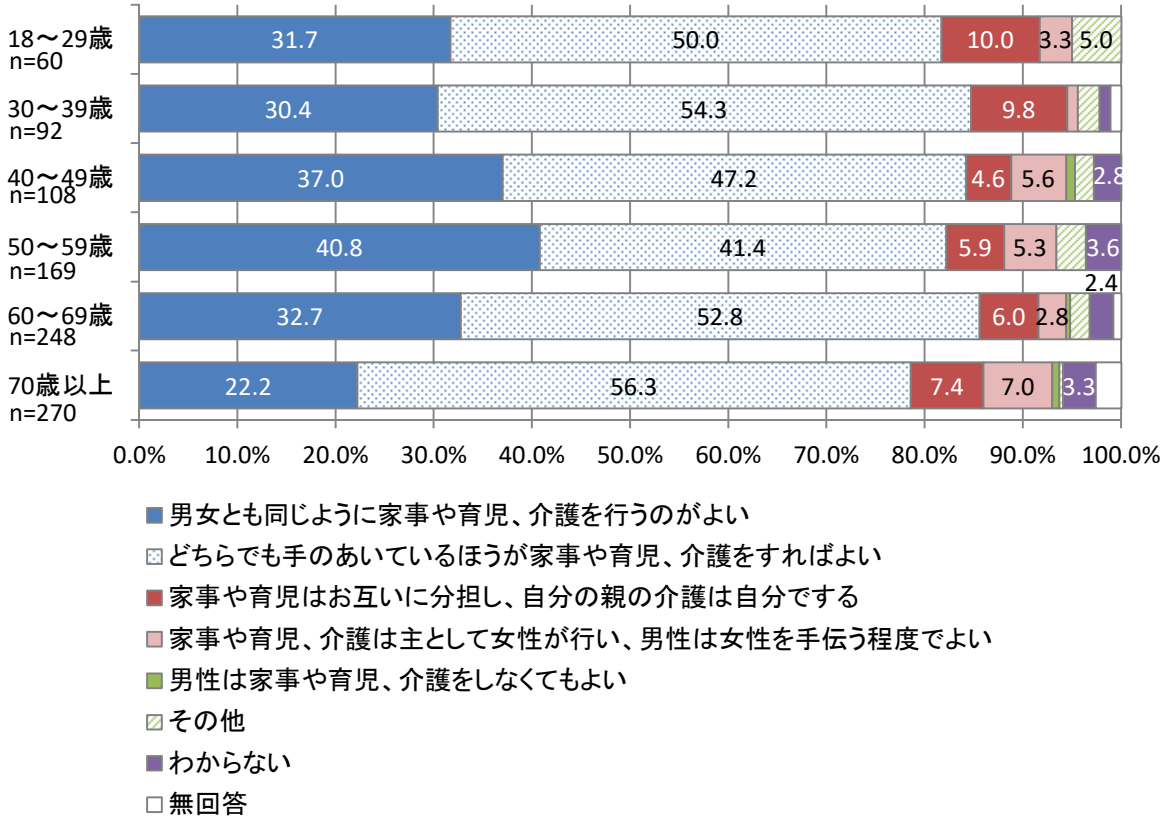
- 若い人にも自分の人生があるので、介護は施設でやった方がいい。
- 産めるのは女性だからこそ出来る事。根本的に男女平等ではない。子どもが小さいうちは家事、育児の役割は女性に比率が多くなるのは自然。

①性別



家庭の中での役割分担について、男女ともに「どちらでも手のあいているほうが家事や育児、介護をすればよい」が最も高く、次いで「男女ともに同じように家事や育児、介護を行うのがよい」、「家事や育児はお高いに分担し、自分の親の介護を自分でする」の順で高くなっています。

②年齢

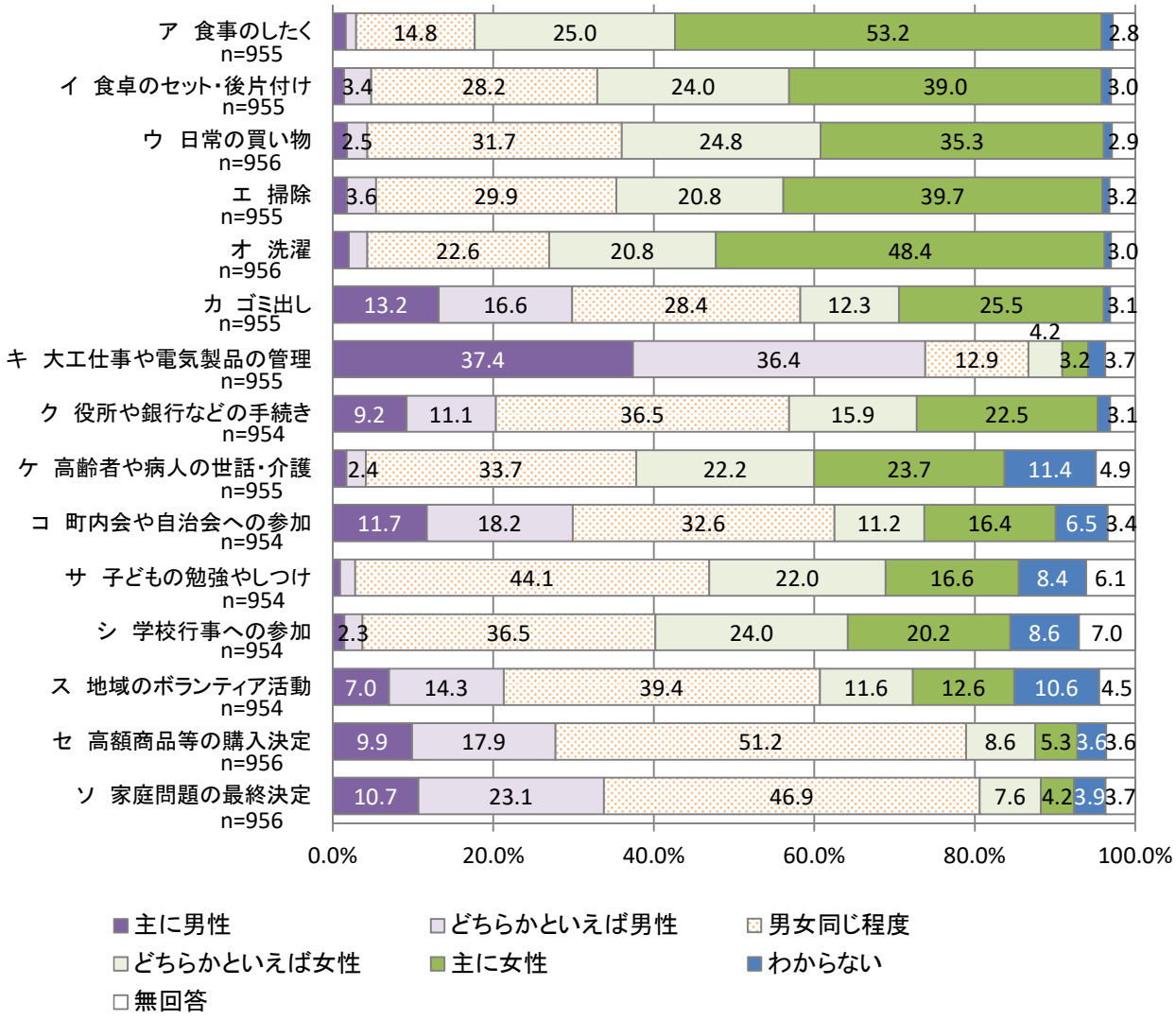


各年齢で「どちらでも手のあいているほうが家事や育児、介護をすればよい」が最も高く、次いで「男女ともに同じように家事や育児、介護を行うのがよい」の順で高くなっています。

単純集計、各クロス集計をみても「どちらでも手のあいているほうが家事や育児、介護をすればよい」最も高く、次いで「男女とも同じように家事や育児、介護を行うのがよい」、「家事や育児はお互いに分担し、自分の親の介護は自分でする」の順で高くなっています。

「家事や育児、介護は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」や「男性は家事や育児、介護をしなくてもよい」と回答した方が老若男女関係なく数名みられました。

問 15　あなたの家では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっていますか。一人暮らしの方は、どちらの役割がふさわしいとお考えになっているかを記載してください。



家庭での役割について、「主に男性・どちらかといえば男性」が最も多いのは「大工仕事や電気製品の管理」（73.8%）、次いで「家庭問題の最終決定」（33.8%）、「町内会や自治会への参加」（29.9%）の順で多くなっています。

「男女同じ程度」が最も多いのは「高額商品等の購入決定」（51.2%）、次いで「家庭問題の最終決定」（46.9%）、「子どもの勉強やしつけ」（44.1%）の順で多くなっています。

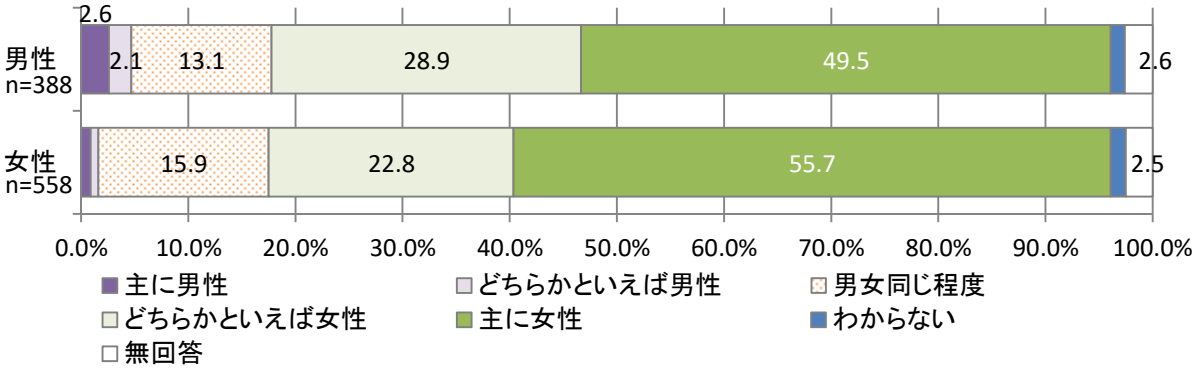
「主に女性・どちらかといえば女性」が最も多いのは「食事のしたく」（78.2%）、次いで「洗濯」（69.2%）、「食卓のセット・後片付け」（63.0%）の順で多くなっています。

男性は力のいるものの役割が高く、女性は家事の役割が高くなっています。

	主に男性	どちらかといえば男性	男女同じ程度	どちらかといえば女性	主に女性	わからない	無回答	有効票数
ア 食事のしたく	15	12	141	239	508	13	27	955
	1.6	1.3	14.8	25.0	53.2	1.4	2.8	100.1
イ 食卓のセット・後片	13	32	269	229	372	11	29	955
	1.4	3.4	28.2	24.0	39.0	1.2	3.0	100.2
ウ 日常の買い物	17	24	303	237	337	10	28	956
	1.8	2.5	31.7	24.8	35.3	1.0	2.9	100.0
エ 掃除	17	34	286	199	379	9	31	955
	1.8	3.6	29.9	20.8	39.7	0.9	3.2	99.9
オ 洗濯	19	22	216	199	463	8	29	956
	2.0	2.3	22.6	20.8	48.4	0.8	3.0	99.9
カ ゴミ出し	126	159	271	117	244	8	30	955
	13.2	16.6	28.4	12.3	25.5	0.8	3.1	99.9
キ 大工仕事や電気製品の管理	357	348	123	40	31	21	35	955
	37.4	36.4	12.9	4.2	3.2	2.2	3.7	100.0
ク 役所や銀行などの手続き	88	106	348	152	215	15	30	954
	9.2	11.1	36.5	15.9	22.5	1.6	3.1	99.9
ケ 高齢者や病人の世話・介護	16	23	322	212	226	109	47	955
	1.7	2.4	33.7	22.2	23.7	11.4	4.9	100.0
コ 町内会や自治会への参加	112	174	311	107	156	62	32	954
	11.7	18.2	32.6	11.2	16.4	6.5	3.4	100.0
サ 子どもの勉強やしつけ	9	18	421	210	158	80	58	954
	0.9	1.9	44.1	22.0	16.6	8.4	6.1	100.0
シ 学校行事への参加	13	22	348	229	193	82	67	954
	1.4	2.3	36.5	24.0	20.2	8.6	7.0	100.0
ス 地域のボランティア活動	67	136	376	111	120	101	43	954
	7.0	14.3	39.4	11.6	12.6	10.6	4.5	100.0
セ 高額商品等の購入決定	95	171	489	82	51	34	34	956
	9.9	17.9	51.2	8.6	5.3	3.6	3.6	100.1
ソ 家庭問題の最終決定	102	221	448	73	40	37	35	956
	10.7	23.1	46.9	7.6	4.2	3.9	3.7	100.1

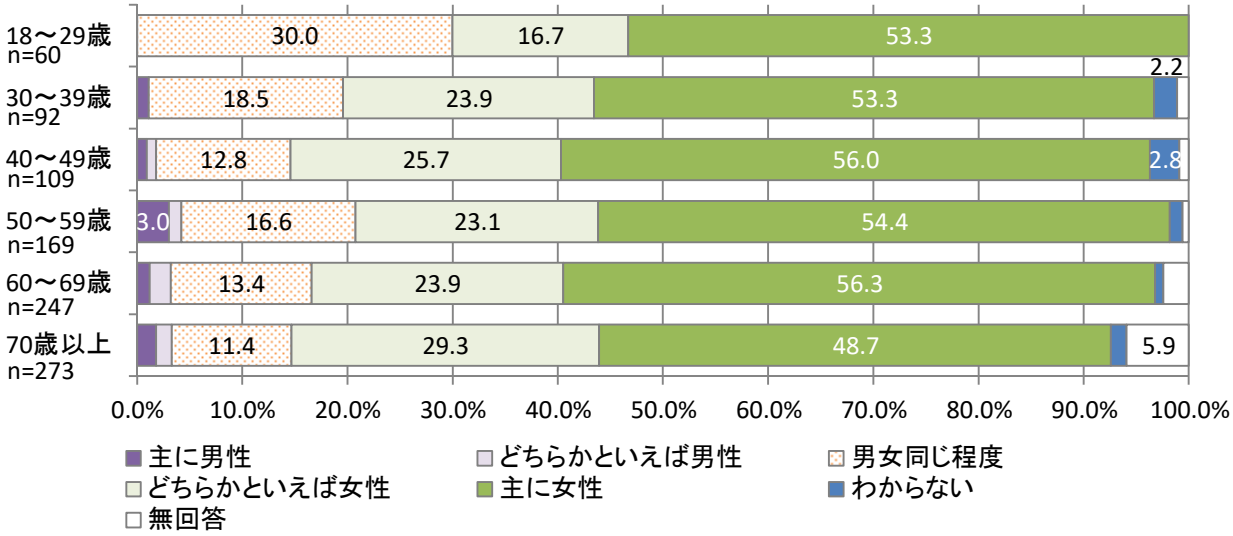
ア　食事のしたく

①性別



男女ともに食事のしたくは「どちらかといえば女性・主に女性」がおよそ８割を占めています。

②年齢



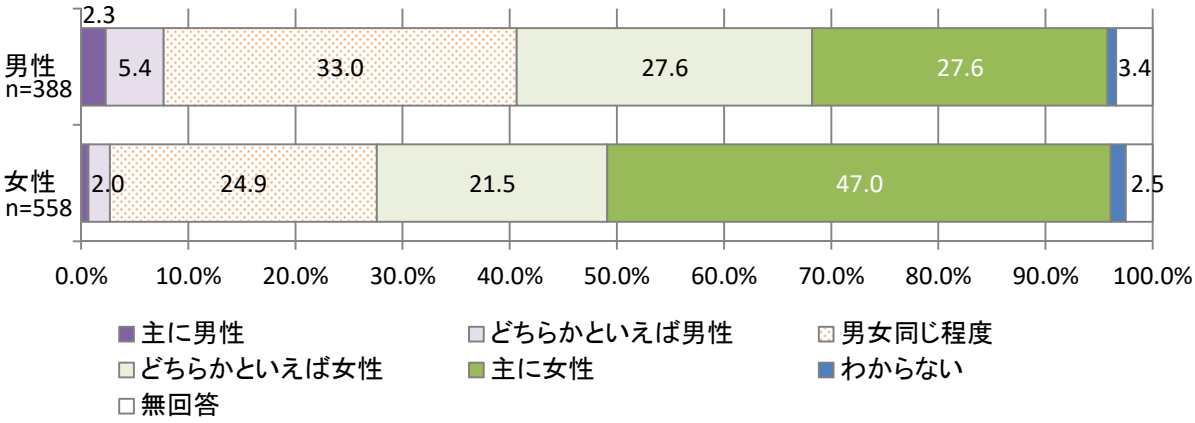
“70 歳以上”以外で「主に女性」が５割以上を占めています。

“18～29 歳” 以外では「どちらかといえば女性・主に女性」がおよそ８割を占めています。

“18～29 歳” では「主に女性」（53.3%）の次に「男女同じ程度」（30.0%）が高くなっています。

イ　食卓のセット・後片付け

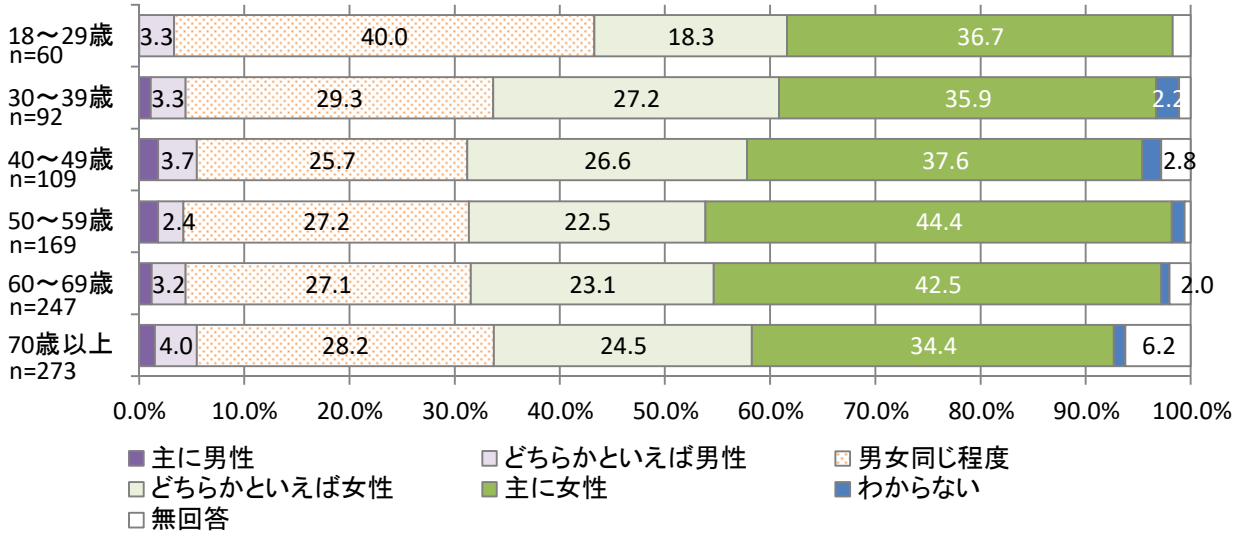
①性別



食事のセット・後片付けは“男性”は「男女同じ程度」が最も高くなっていますが、“女性”では「主に女性」が最も高く、次いで「男女同じ程度」が高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”で 55.2%、“女性”は 68.5%で、“女性”の方が 13.3%高くなっており、男女で認識の差が若干みられます。

②年齢

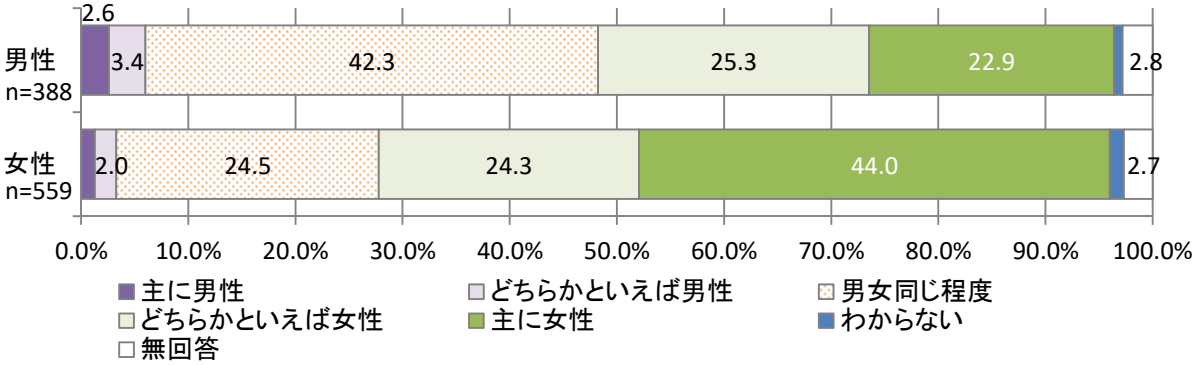


“18～29 歳”では「男女同じ程度」が 40.0%と最も高くなっていますが、他の年代では「主に女性」が最も高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は 30 代～60 代では６割以上を占めています。

ウ　日常の買い物

①性別

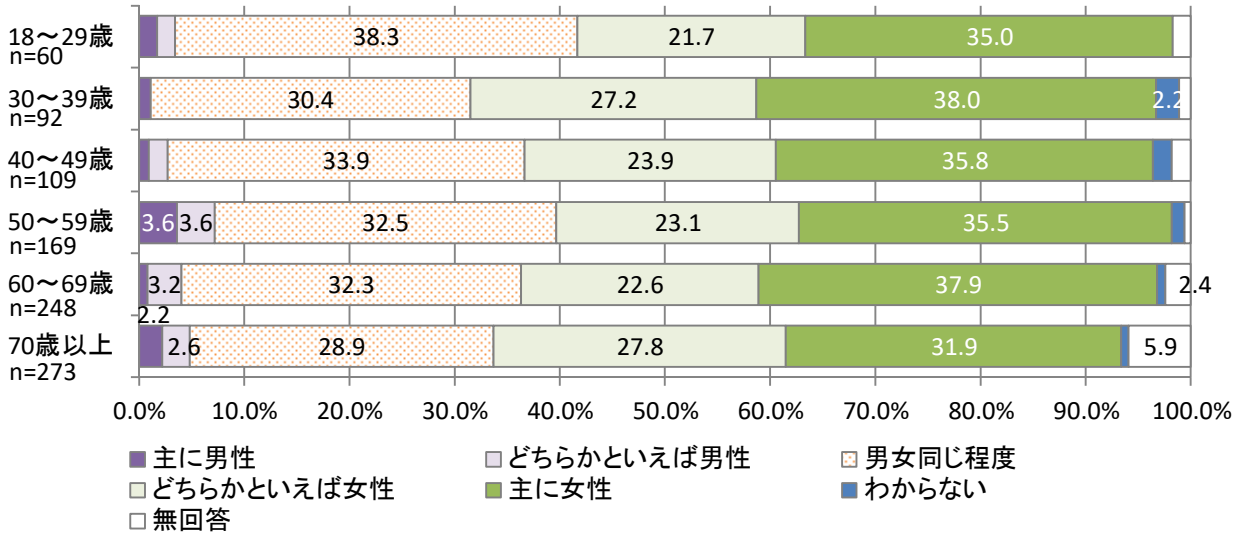


日常の買い物については、“男性”では「男女同じ程度」が 42.3%と最も高くなっていますが、“女性”では「主に女性」が 44.0%と最も高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”ではおよそ５割、“女性”はおよそ７割を占めています。

“男性”は男女同じくらいやっていると感じている方が最も多く、“女性”は自分が担っていると感じている方が最も多いため、男女の認識にギャップがあると考えられます。

②年齢



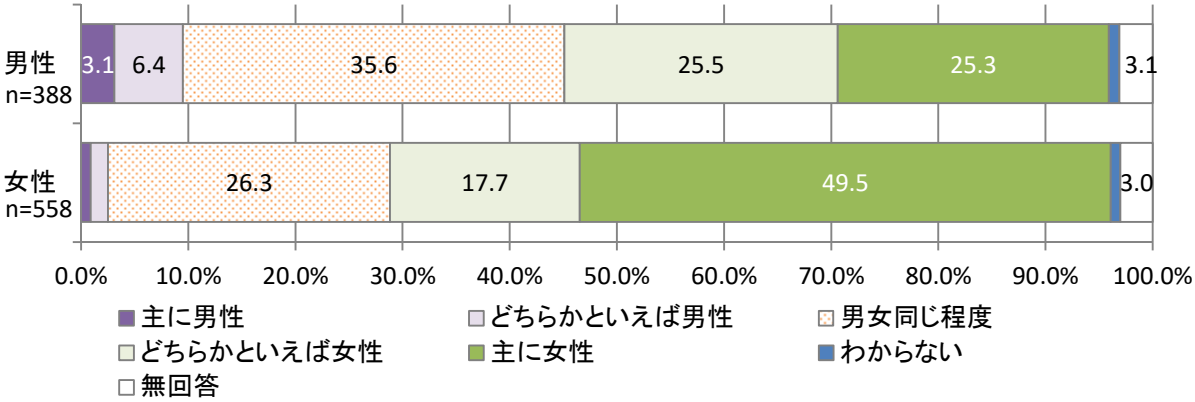
全ての年代で「どちらかといえば女性・主に女性」が約６割を占め、次いで「男女同じ程度」、「どちらかといえば女性」の順となっています。

また、各年齢で「男女同じ程度」が３割前後となっています。

“18～29 歳”では「男女同じ程度」が最も高く 38.3%、次いで「主に女性」（35.0%）、「どちらかといえば女性」（21.7%）の順で高くなっています。

エ　掃除

①性別

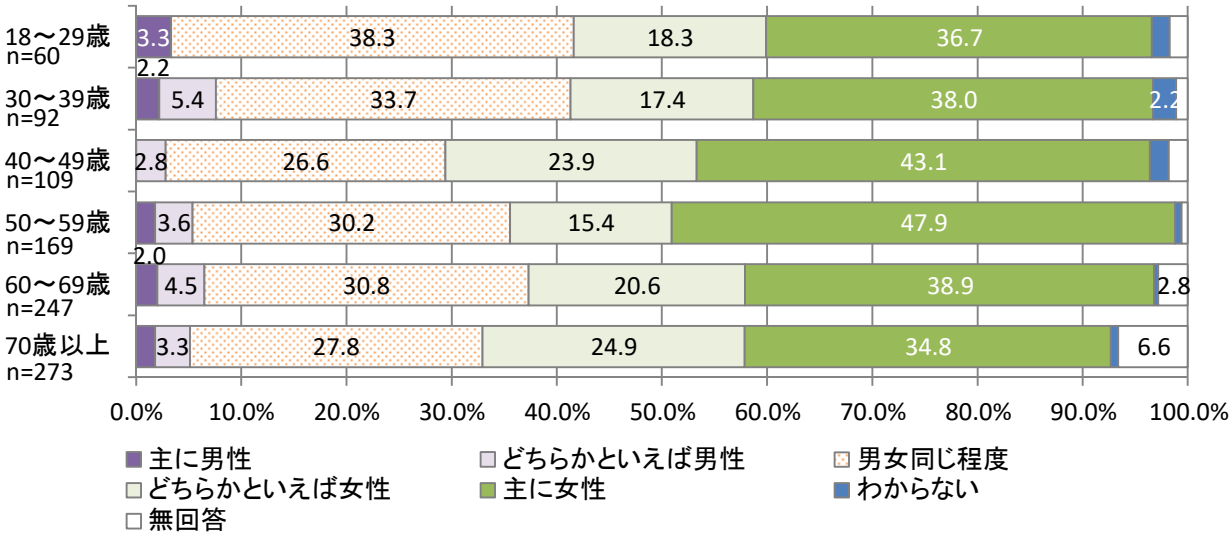


掃除は、“男性”では「男女同じ程度」が 35.6%で最も高く、次いで「どちらかといえば女性」（25.5%）、「主に女性」（25.3%）の順で高くなっています。

“女性”では「主に女性」が最も高く 49.5%、次いで「男女同じ程度」（26.3%）、「どちらかといえば女性」（17.7%）の順で高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”では 50.8%、“女性”では 67.2%となっています。男女で認識のギャップがあると考えられます。

②年齢

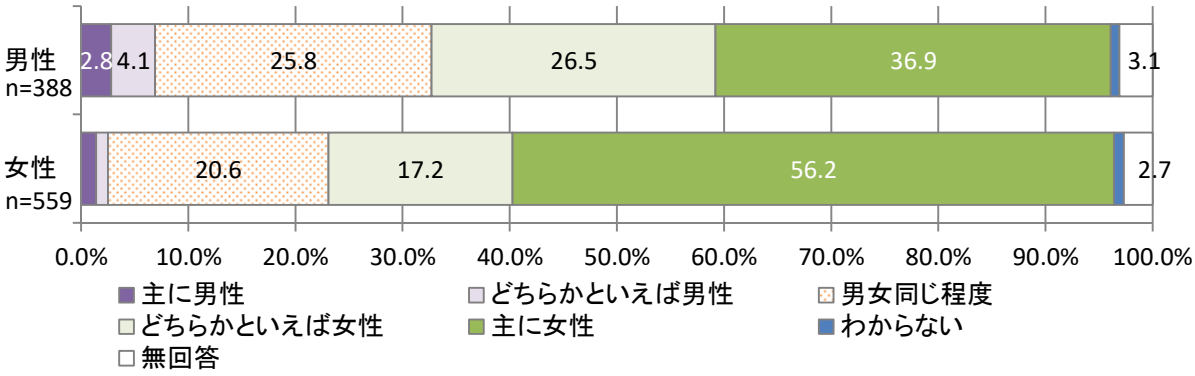


“18～29 歳”以外では「主に女性」が最も高く、次いで「男女同じ程度」が高くなっています。“18～29 歳”では「男女同じ程度」が最も高く、次いで「主に女性」の順で高くなっています。

全ての年代とも「どちらかといえば女性・主に女性」が約６割を占め、30 代以下が若干低くなっています。

オ　洗濯

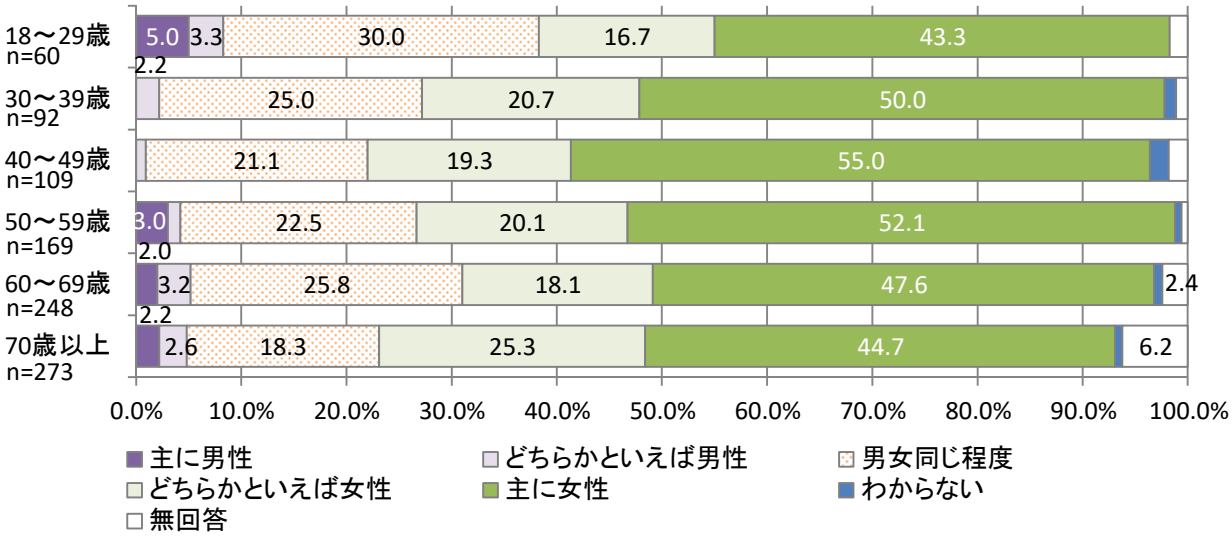
①性別



洗濯は、“男性”では「主に女性」が最も高く 36.9%、次いで「どちらかといえば女性」（26.5%）、「男女同じ程度」（25.8%）の順で高くなっています。

“女性”では「主に女性」が半数以上を占め 56.2%、次いで「男女同じ程度」（20.6%）、「どちらかといえば女性」（17.2%）の順で高くなっています。

②年齢

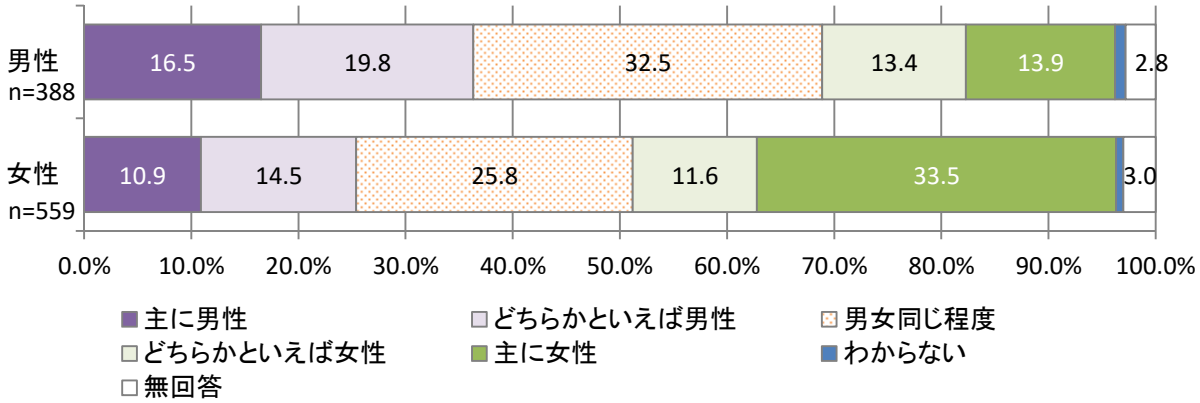


全ての年代で「主に女性」が最も高く、“70 歳以上”以外では、次いで「男女同じ程度」、「どちらかといえば女性」の順で高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」が最も高いのは“40～49 歳”で、次いで“50～59 歳”、“30～39 歳”、“70 歳以上”の順で、すべて７割以上となっています。

カ　ゴミ出し

①性別

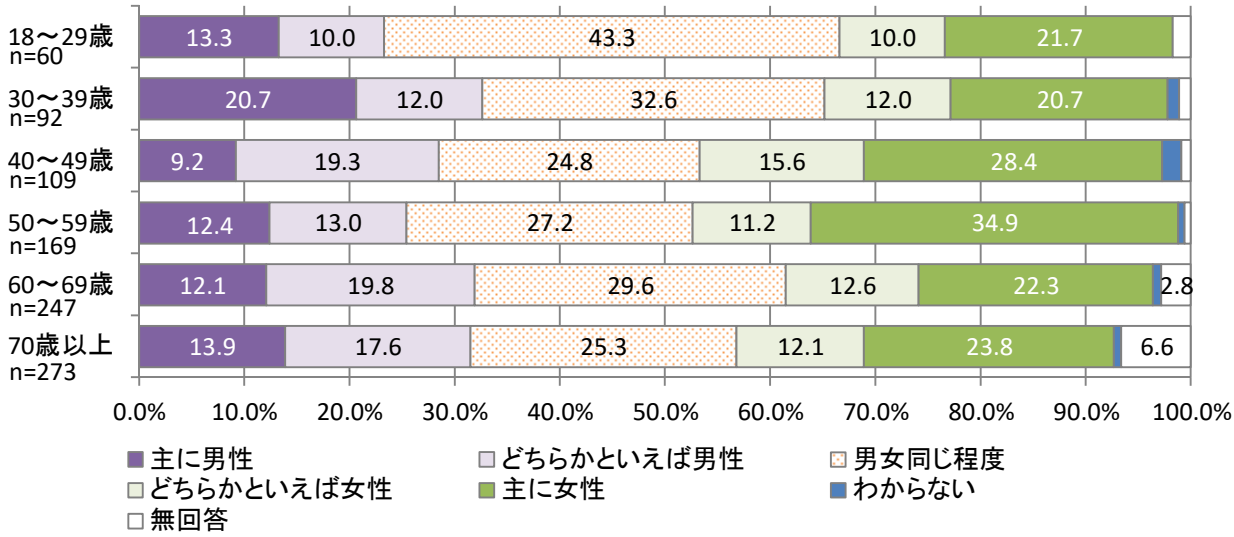


ゴミ出しは“男性”では「男女同じ程度」が最も高く 32.5%、次いで「どちらかといえば男性」（19.8%）、「主に男性」（16.5%）の順で高くなっています。

“女性”では「主に女性」が最も高く 33.5%、次いで「男女同じ程度」（25.8%）、「どちらかといえば男性」（14.5%）の順で高くなっています。

“男性”は「男女同じ程度」が最も高く、次いで男性が担当していると認識していますが“女性”では「主に女性」が最も高く、次いで「男女同じ程度」の順で高くなっていることから、男女の間に認識にギャップがあると考えられます。

②年齢

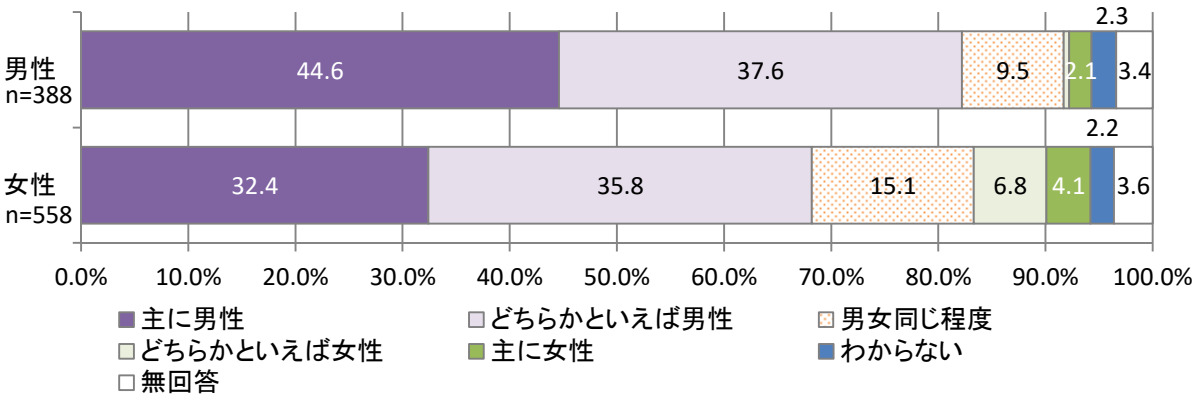


“40～49 歳”と“50～59 歳”以外では「男女同じ程度」が最も高くなっています。“40～49 歳”と“50～59 歳”では「主に女性」が最も高くなっています。

“主に男性”は“30～39 歳”で 20.7%と他の年代に比べて高くなっています。

キ　大工仕事や電気製品の管理

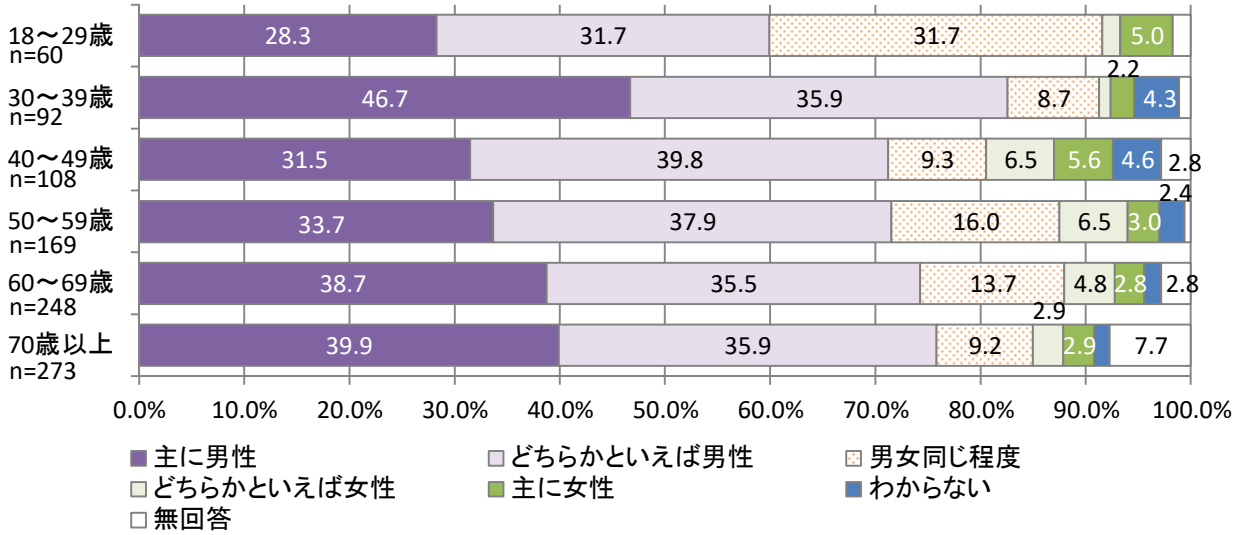
①性別



大工仕事や電気製品の管理は、“男性”では「主に男性」が最も高く 44.6%、次いで「どちらかといえば男性」（37.6%）が高くなっています。「主に男性・どちらかといえば男性」は82.2%を占めています。

“女性”では「どちらかといえば男性」が 35.8%、次いで「主に男性」（32.4%）が高くなっています。「主に男性・どちらかといえば男性」は 68.2%を占めています。

②年齢

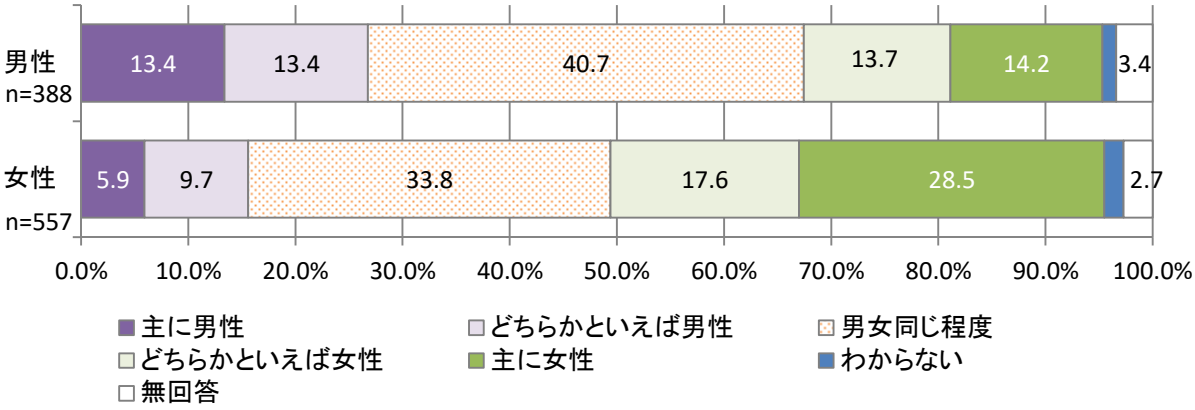


各年代で「主に男性・どちらかといえば男性」が６割以上を占めています。特に“30～39歳”では 82.6%を占めています。

“18～29 歳”では他の年代に比べ「男女同じ程度」が高く 31.7%となっています。

ク　役所や銀行などの手続き

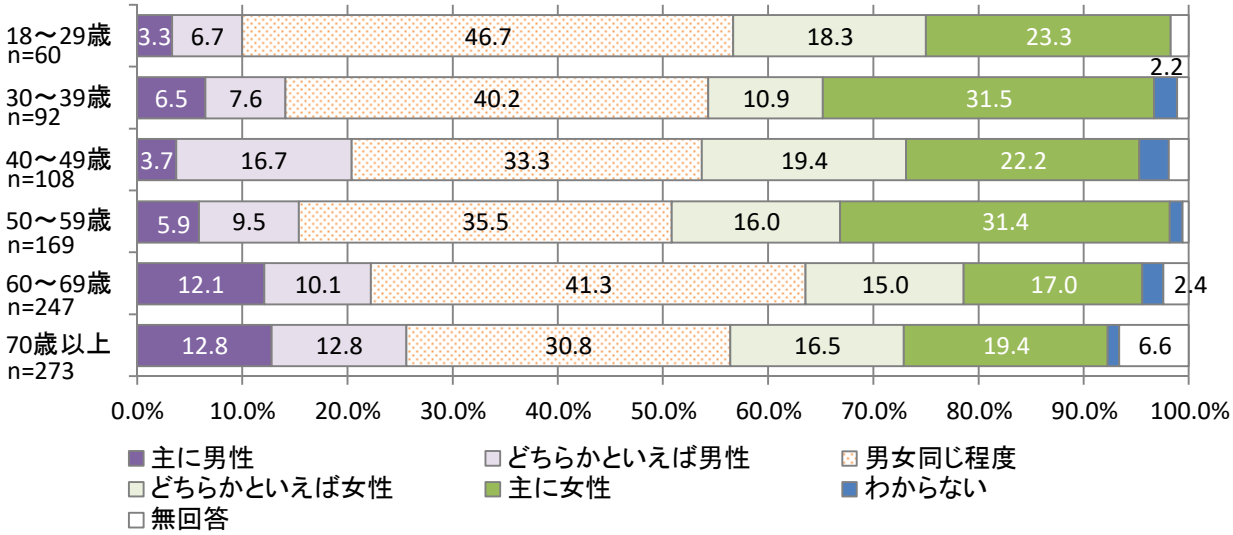
①性別



役所や銀行などの手続きは、男女ともに「男女同じ程度」が最も高く、次いで「主に女性」が最も高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”では 27.9%、“女性”では 46.1%となっており、男女で認識のギャップがあると考えられます。

②年齢

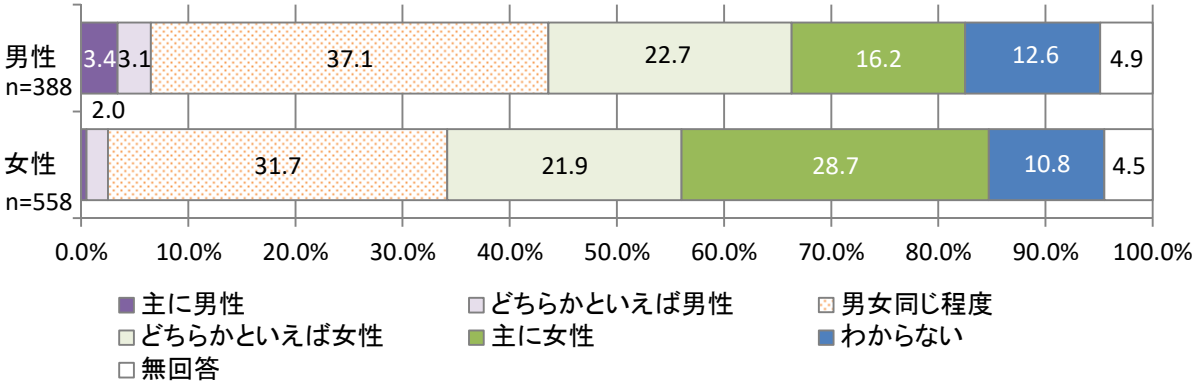


各年代で「男女同じ程度」が最も高く、次いで「主に女性」、「どちらかといえば女性」の順で高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は、50 代以下で４割以上、60 代以上では３割以上となっています。

ケ　高齢者や病人の世話・介護

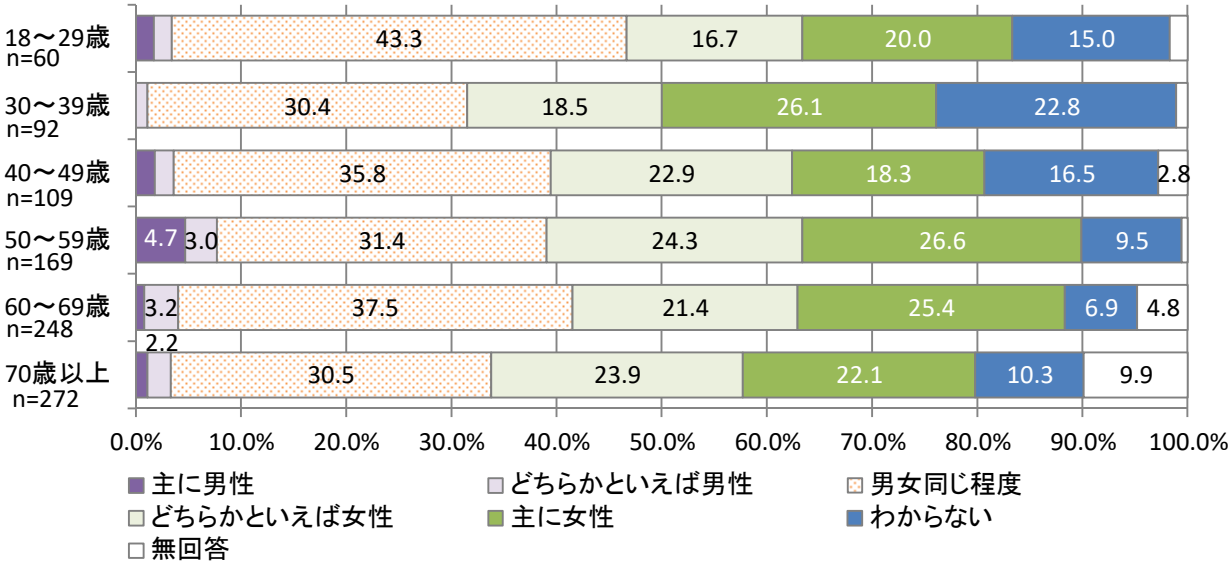
①性別



高齢者や病人の世話・介護は、男女ともに「男女同じ程度」が最も高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”では 38.9%、“女性”では 50.6%を占めています。

②年齢

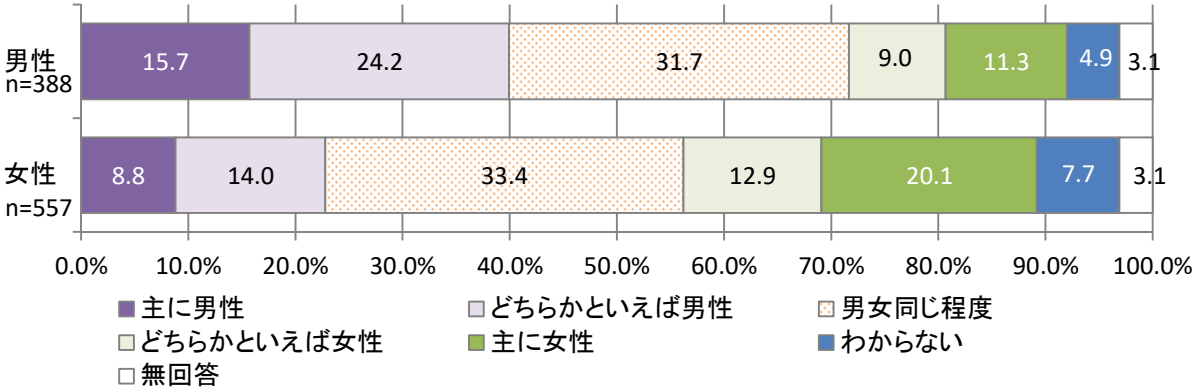


各年齢で「男女同じ程度」が最も高くなっています。特に“18～29 歳”は 43.3%と高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“50～59 歳”で 50.9%を占め、次いで“60～69 歳”（46.8%）、“70 歳以上”（46.0%）が高くなっています。

コ　町内会や自治会への参加

①性別

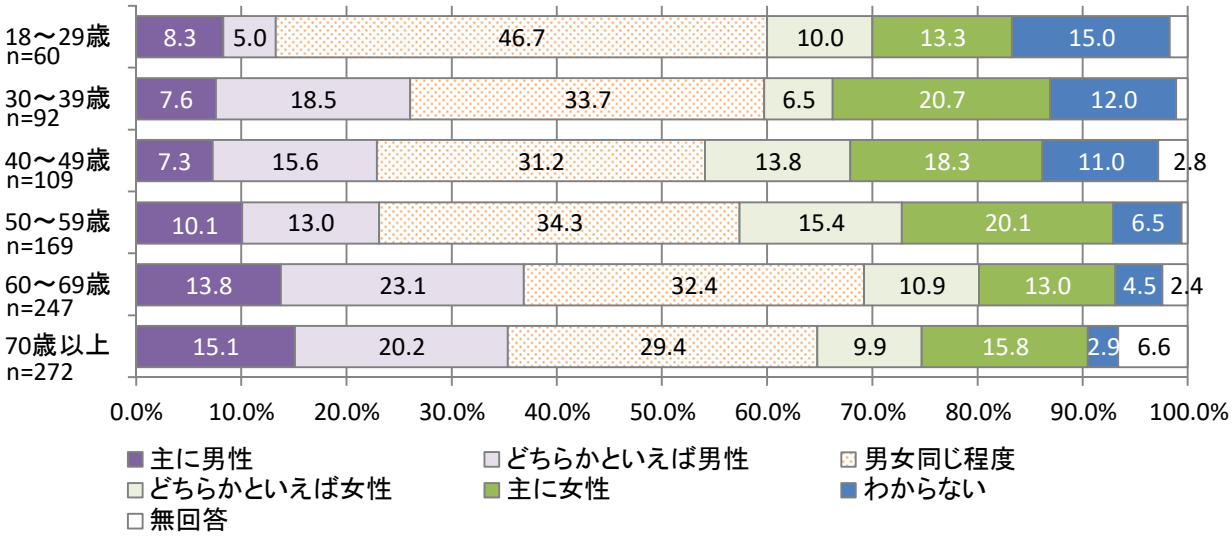


町内会や自治会への参加は、男女とも「男女同じ程度」が最も高くなっています。

“男性”では２番目に「どちらかといえば男性」が高く、“女性”では「主に女性」が高くなっています。

“男性”は「主に男性・どちらかといえば男性」が「どちらかといえば女性・主に女性」よりも高くなっていますが、“女性”は「どちらかといえば女性・主に女性」の方が高くなっています。

②年齢

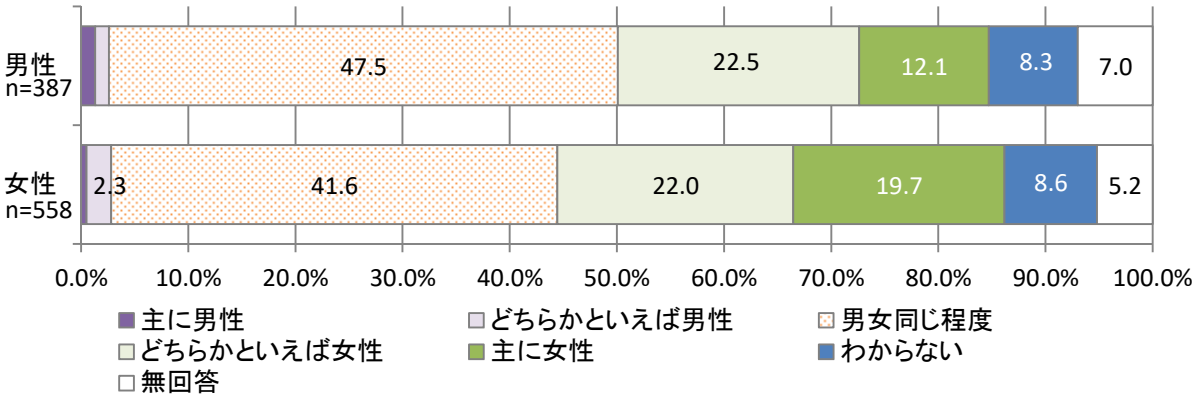


各年代で「男女同じ程度」が最も高くなっています。

50 代以下では「主に男性・どちらかといえば男性」よりも「どちらかといえば女性・主に女性」の方が高くなっていますが、60 代以上では「主に男性・どちらかといえば男性」の方が高くなっています。

サ　子どもの勉強やしつけ

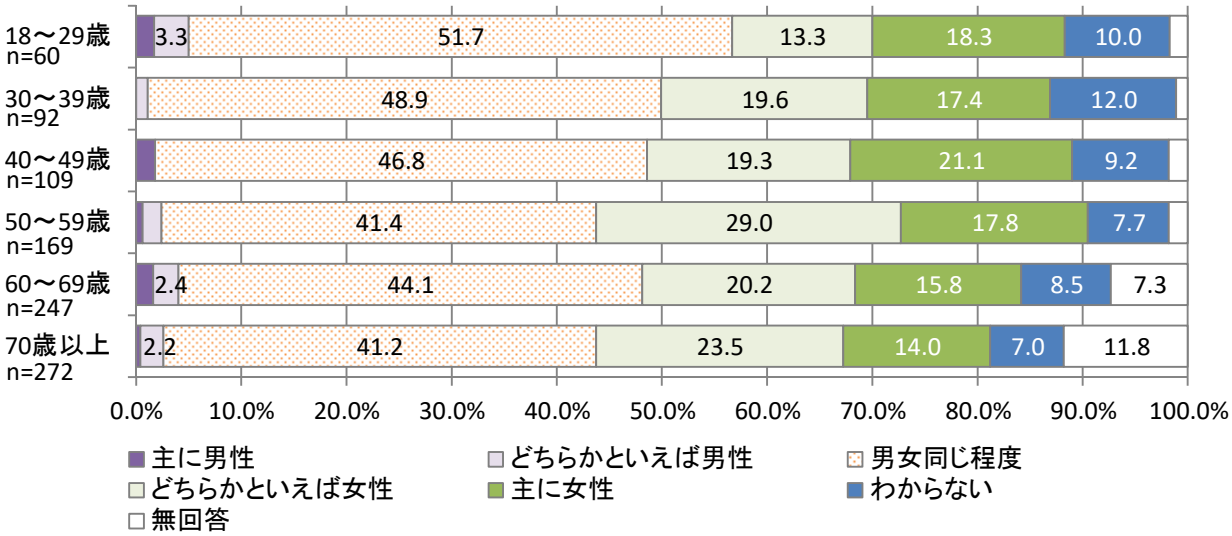
①性別



子どもの勉強やしつけは、男女ともに「男女同じ程度」が最も高く４割以上を占めています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”では 34.6%、“女性”が 41.7%を占めています。

②年齢

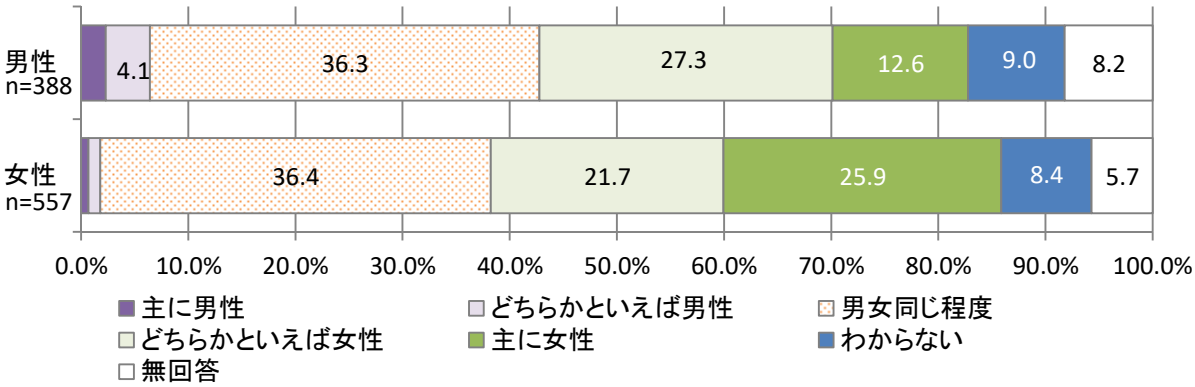


各年代で「男女同じ程度」が最も高く４割以上を占め、特に“18～29 歳”は 51.7%を占めています。

「どちらかといえば女性・主に女性」が最も高いのは“50～59 歳”（46.8%）、次いで“40～49 歳”（40.4%）が高くなっています。

シ　学校行事への参加

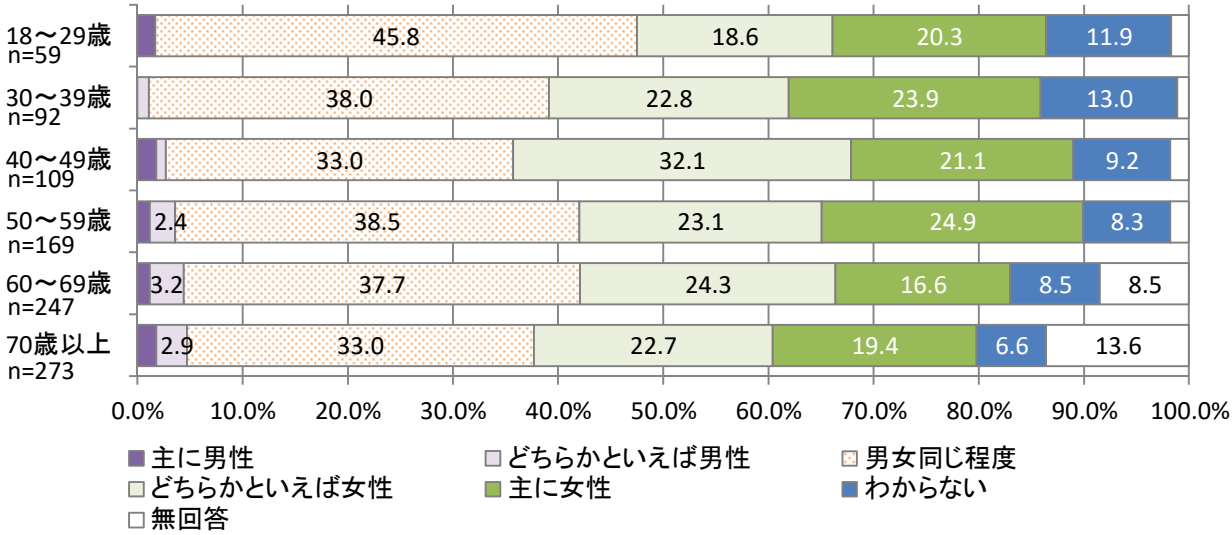
①性別



学校行事への参加は、男女ともに「男女同じ程度」が最も高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“男性”で 39.9%、“女性”は 47.6%となっています。

②年齢

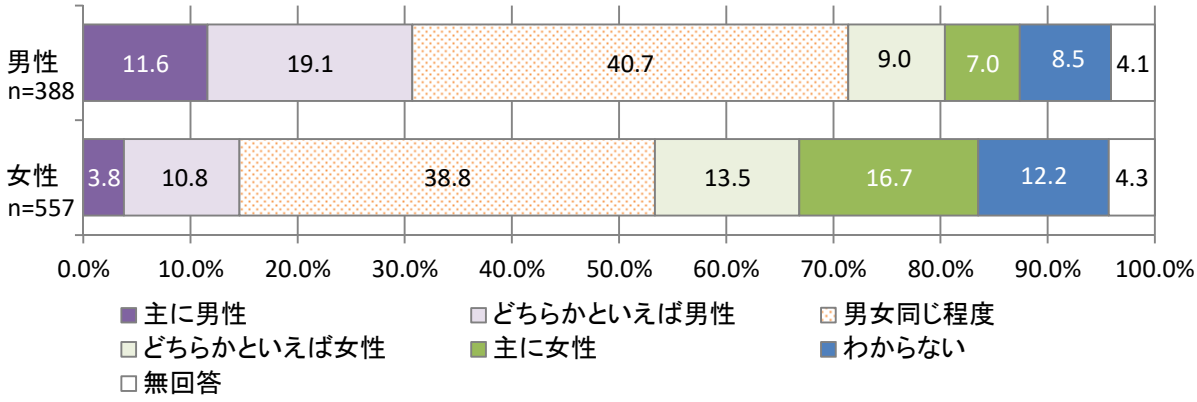


各年代で「男女同じ程度」が最も高くなっています。

「どちらかといえば女性・主に女性」は“40～49 歳”では 53.2%を占め、“50～59 歳”（48.0%）、“30～39 歳”（46.7%）が高くなっています。

ス　地域のボランティア活動

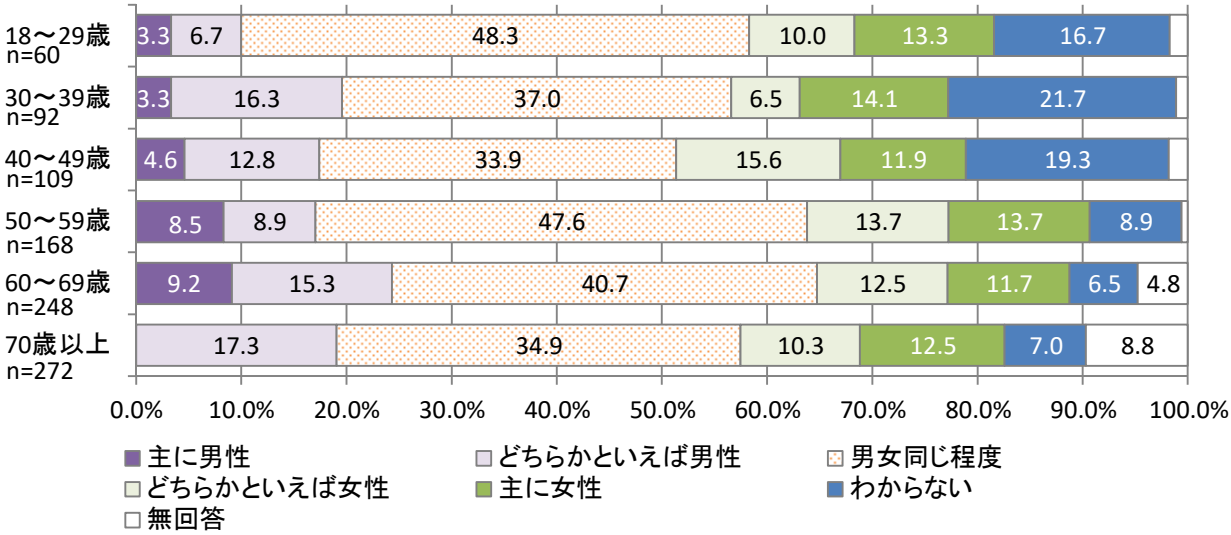
①性別



地域のボランティア活動は、男女ともに「男女同じ程度」が最も高くなっています。

“男性”は「どちらかといえば女性・主に女性」よりも「主に男性・どちらかといえば男性」の方が高くなっていますが、“女性”は「どちらかといえば女性・主に女性」の方が高くなっています。

②年齢

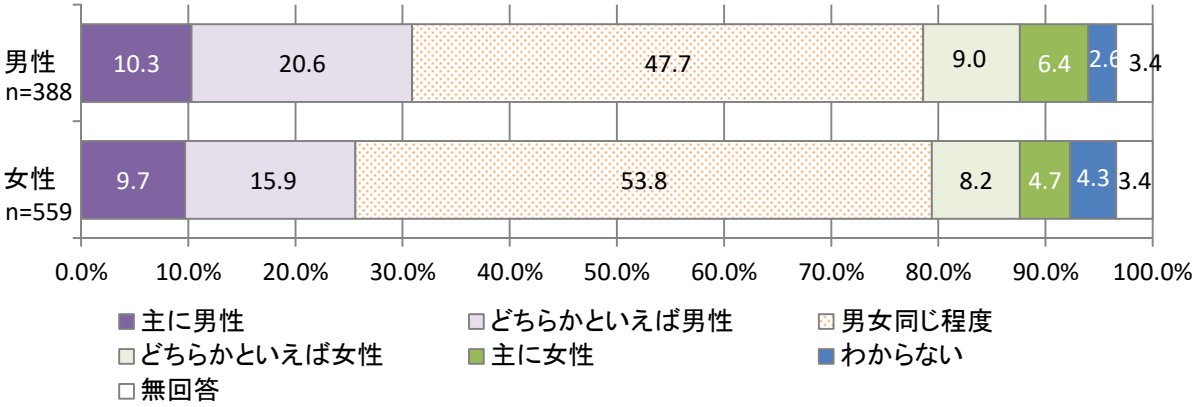


各年代で「男女同じ程度」が最も高くなっています。

“70 歳以上”以外では「主に男性・どちらかといえば男性」よりも「どちらかといえば女性・主に女性」の方が高くなっています。

セ　高額商品等の購入決定

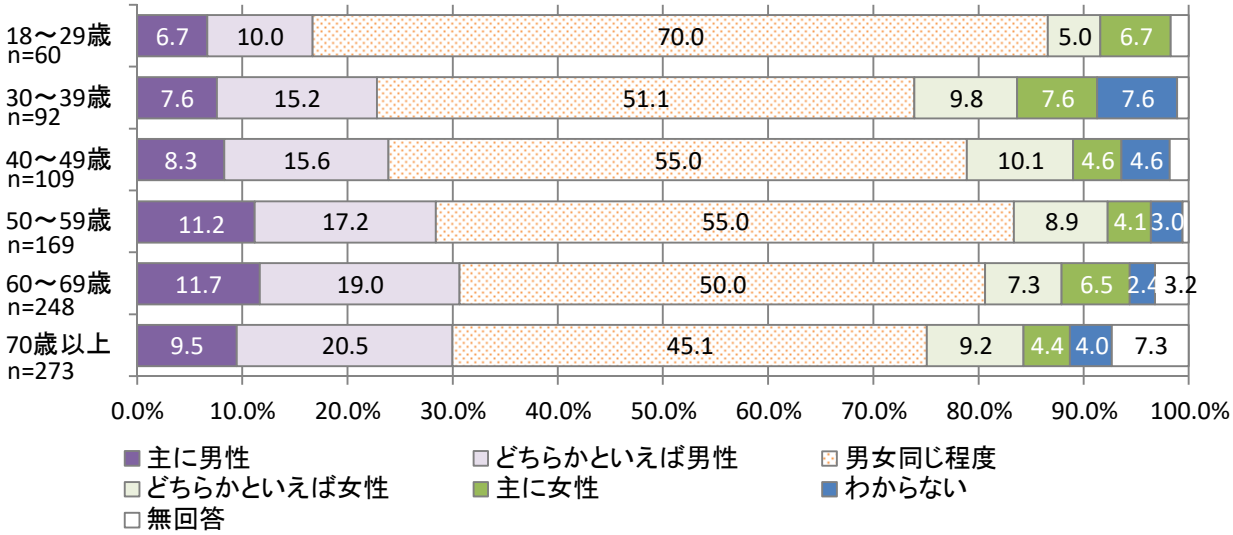
①性別



高額商品等の購入決定は、男女ともに「男女同じ程度」が最も高く、“女性”では５割以上を占めています。

男女ともに「どちらかといえば女性・主に女性」よりも「主に男性・どちらかといえば男性」の方が高くなっています。

②年齢

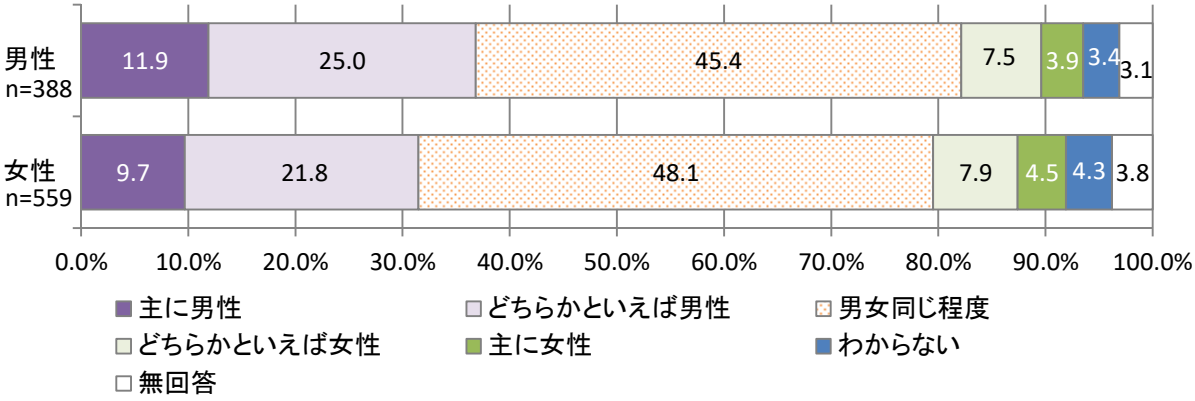


各年代で「男女同じ程度」が最も高く、60 代以下では５割以上を占め、特に“18～29 歳”では 70.0%を占めています。

また、各年代で「どちらかといえば女性・主に女性」よりも「主に男性・どちらかといえば男性」の方が高い割合となっています。

ソ　家庭問題の最終決定

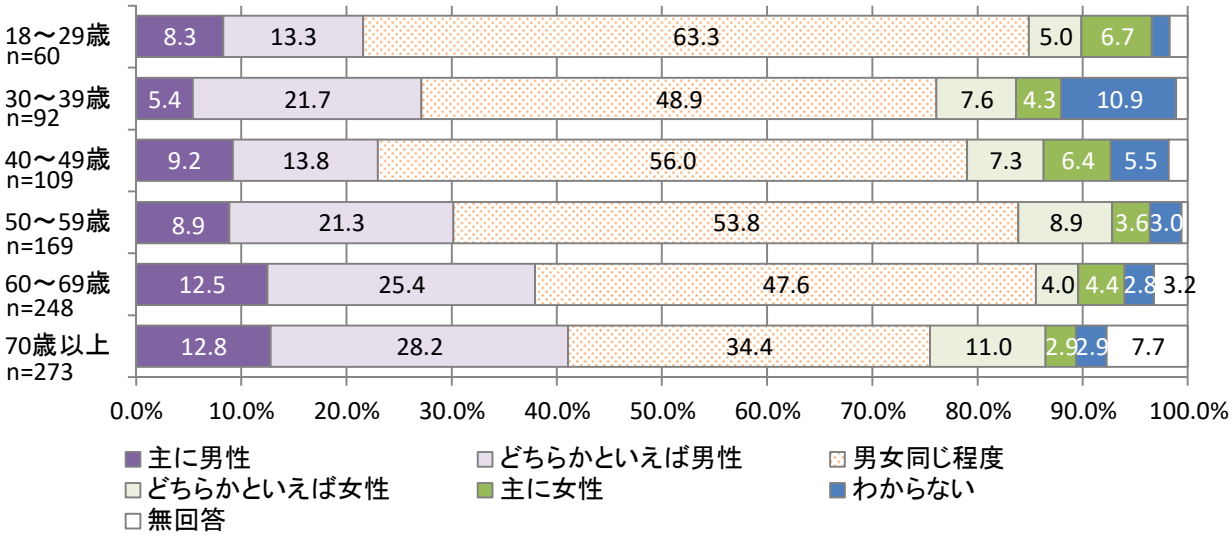
①性別



家庭問題の最終決定は、男女ともに「男女同じ程度」が最も高く４割以上を占めています。

また、男女ともに「どちらかといえば女性・主に女性」よりも「主に男性・どちらかといえば男性」の方が高くなっています。

②年齢



各年齢で「男女同じ程度」が最も高くなっています。特に“18～29 歳”では 63.3%を占めています。

各年齢で「どちらかといえば女性・主に女性」よりも「主に男性・どちらかといえば男性」の方が高くなっています。特に“70 歳以上”では 41.0%を占めています。

「役所や銀行などの手続き」、「高齢者や病人の世話・介護」、「町内会や自治会への参加」、「子どもの勉強やしつけ」、「学校行事への参加」、「地域のボランティア活動」、「高額商品等の購入決定」、「家庭問題の最終決定」については、男女ともに各年齢で「男女同じ程度」が最も高くなっています。

「食事のしたく」と「洗濯」は男女ともに女性が主、「大工仕事や電気製品の管理」は男性が主であると回答しています。

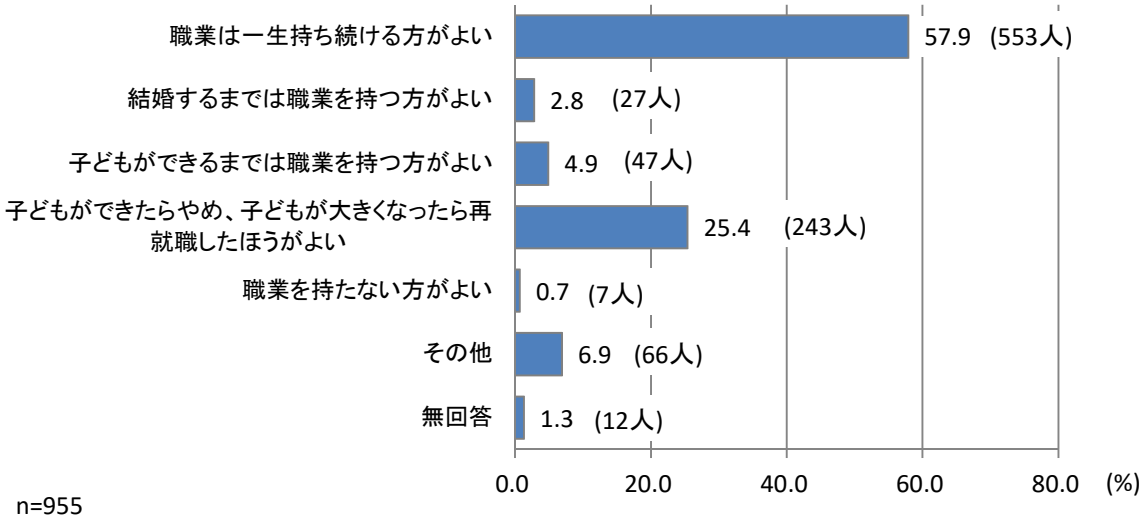
しかし、「食事のセット・後片付け」、「日常の買い物」、「掃除」、「ゴミ出し」については、男性は「男女同じ程度」が最も高く、女性は「主に女性」が最も高くなっており、男女間での認識のギャップがみられます。これらについて、男性も担っていることは確かだけれども、男性には見えない家事を女性が担っており、男女間での認識のギャップに繋がっているのではないかと考えられます。

年齢でみると“18～29 歳”では他の年代に比べて「男女同じ程度」が高い傾向がみられます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、全体的に「主に男性」及び「主に女性」の割合が減少し「男女同じ程度」が増加している傾向にあります。特に「高齢者や病人の世話・介護」「子どもの勉強やしつけ」「学校行事への参加」「地域のボランティア活動」は「男女同じ程度」が 15%以上上昇しています。

４．女性の社会進出について

問 16　女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。



女性が職業を持つことについて、最も多いのは「職業は一生持ち続ける方がよい」（57.9%）が半数以上を占め、次いで「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」（25.4%）、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」（4.9%）の順で多くなっています。

半数以上は一生職業を持ち続けることに賛同していますが、子どもの出産のタイミングで離職した方が良いと回答している方が 30.3%となっています。

〇その他（抜粋）

「各人の希望や環境によって決めればよい。」（32 人）

- 就業の自由は万全に確保しながら、主婦専業を望む場合はフレキシブルな選択が可能な制度である事が望ましい。
- 本人の意思によると思うので希望通りに選択すればよい。

「女性が働くために出産や子育て、職場復帰の支援が充実すればよい。」（６人）

- 男と違い、女性は制約が多く、その中でどう働いていくのかという点で今の社会の仕組みでは不十分である。個人的には仕事で男より能力があっても出産、育児で中断されるので、ものすごく勿体ない人がいるので、働き方、社会の考え方、社会の仕組み等の見直しが必要だと思う。
- 仕事も持たなければ生活できないので働く事は大事。しかし、出産等、育児休業等に対する経済的支援は必要だと思う。

「経済的に働かなければならないのであれば働けばよい。」（４人）

- その家族の経済状況によると思う。

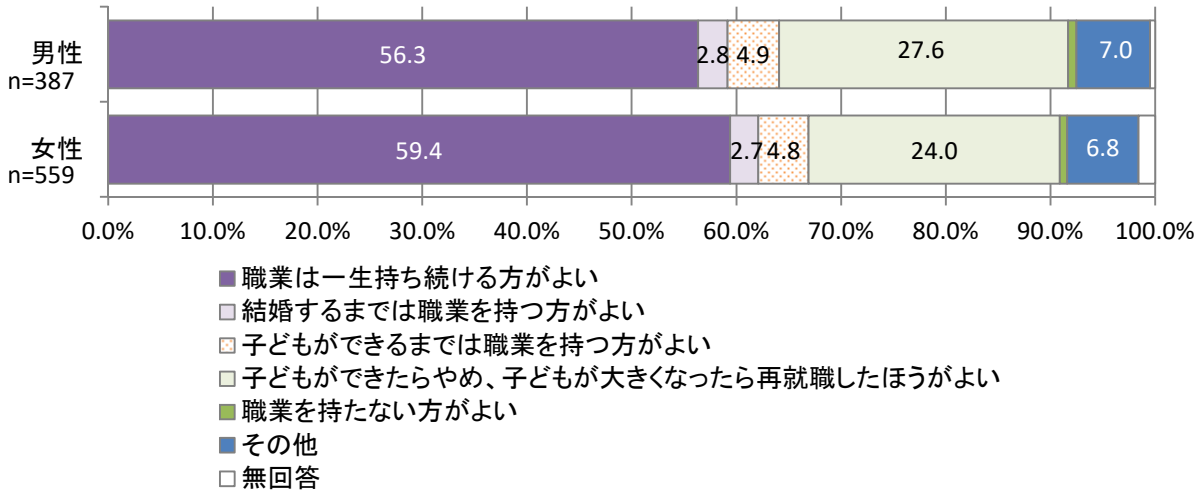
・働きたい人は働けばいい。生活が大変なら働くしかない。

「子育てや家庭は基本的に女性の役割だと思う。」（４人）
・経済的に生活できる時は、女性は家庭にいた方がよい。
・養っていく事が前提にあり働かなくても食べていけるなら働かなくてもよい。女性が働きたいと考えるならば働いてもよい。

「就職、再就職、離職が女性の出産等タイミングによってできるようになればよい。」（３人）
・自分の好きなタイミングで就職や再就職、離職ができればよい。
・女性は結婚、出産、育児の負担が多いので臨機応変に働ける環境をつくるべき。

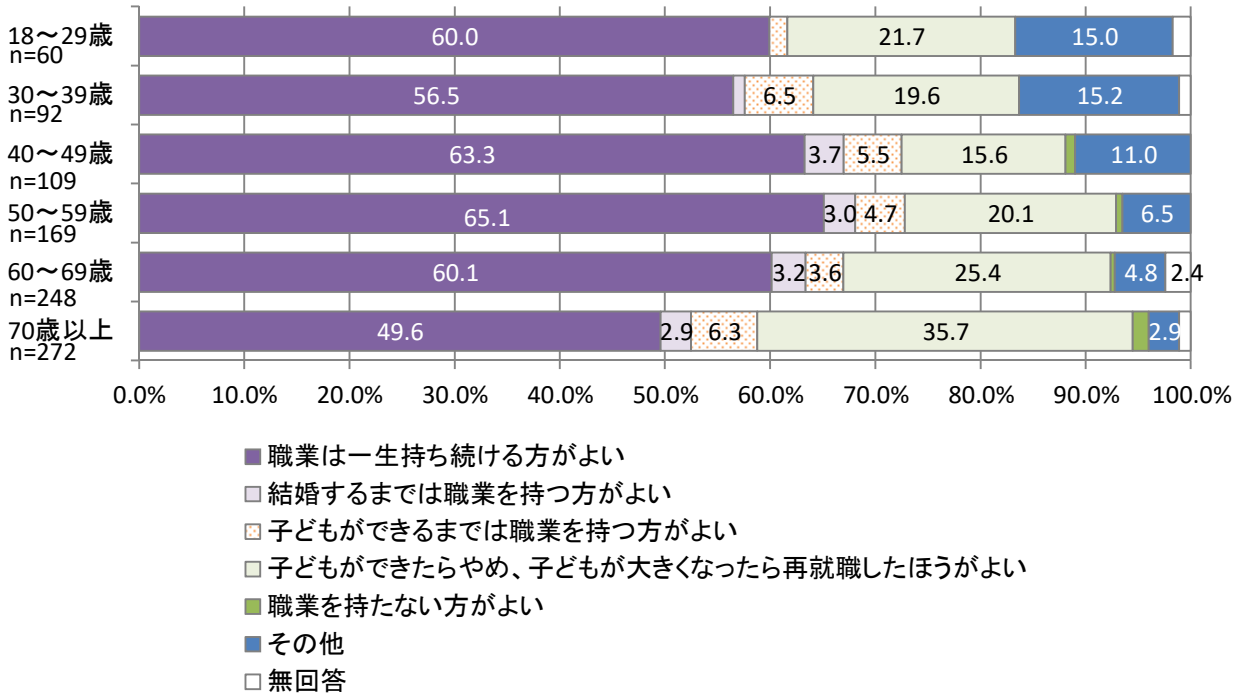
「その他」（６人）
・人それぞれ幸せの形があるので、私はこだわらない。
・職業もいろいろで、男だろうが女だろうが働くとは生きる事だと思う。

①性別



男女ともに「職業は一生持ち続ける方がよい」が最も高く半数以上を占め、次いで「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」が高くなっています。

②年齢



各年代で「職業は一生持ち続ける方がよい」が最も高く半数以上を占め、次いで「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」が高くなっています。

「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」は“70 歳以上”で 35.7%を占めています。

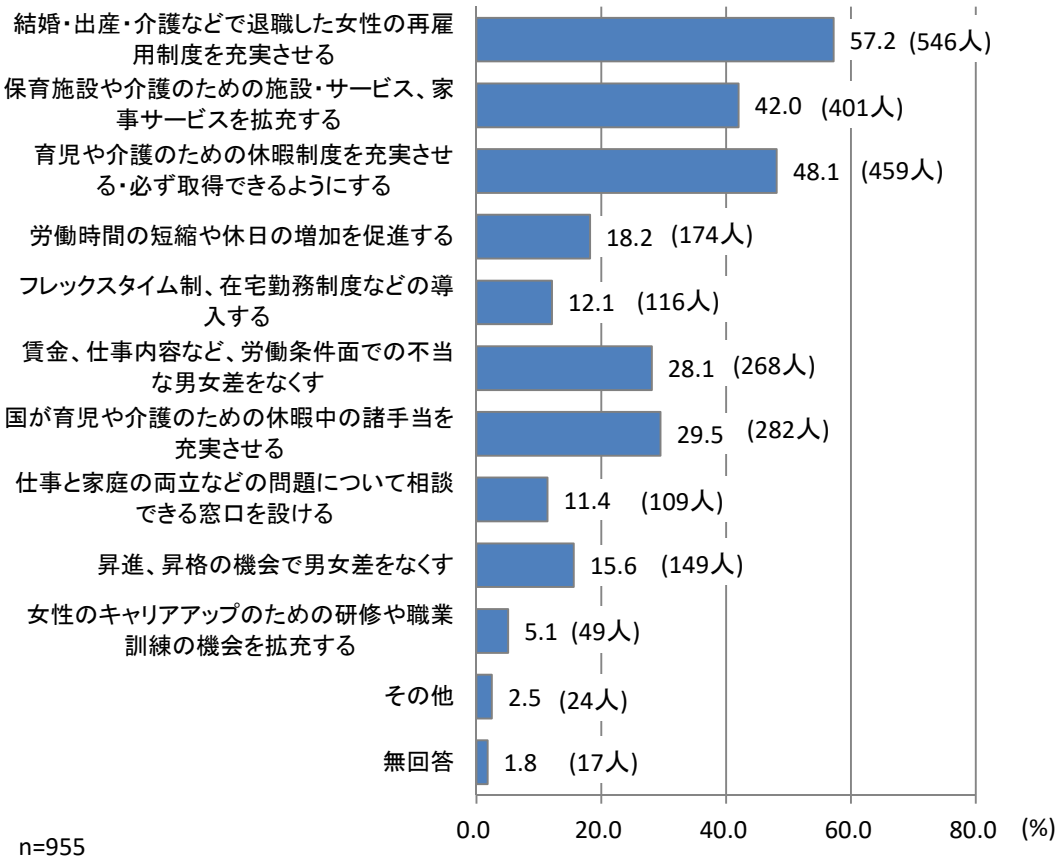
女性が職業を持つことについては、単純集計でも各クロス集計でも「職業は一生持ち続ける方がよい」が半数以上を占め、最も高い割合となっています

次いで「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」が高くなっています。

男女別でみると「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」と「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」の女性は子どもが出来たら仕事をやめるべきだという意見は“男性”では 32.5%、“女性”では 28.8%みられます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再就職したほうがよい」が若干減少し、「職業は一生持ち続ける方がよい」が６%上昇しています。

問 17　女性が働きやすくなるために必要なことは、何だと思いますか。　（○は３つまで）



女性が働きやすくなるために必要なことは、最も多いのは「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」（57.2%）が半数以上を占め、次いで「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」（48.1%）、「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」（42.0%）の順で多くなっています。

○その他（抜粋）

「職場での改善」（４人）
- 職場内での性差別をなくす。
- 男性が育児休暇やそのための休日を取りやすくする。取りやすいような世の中にして欲しいです。

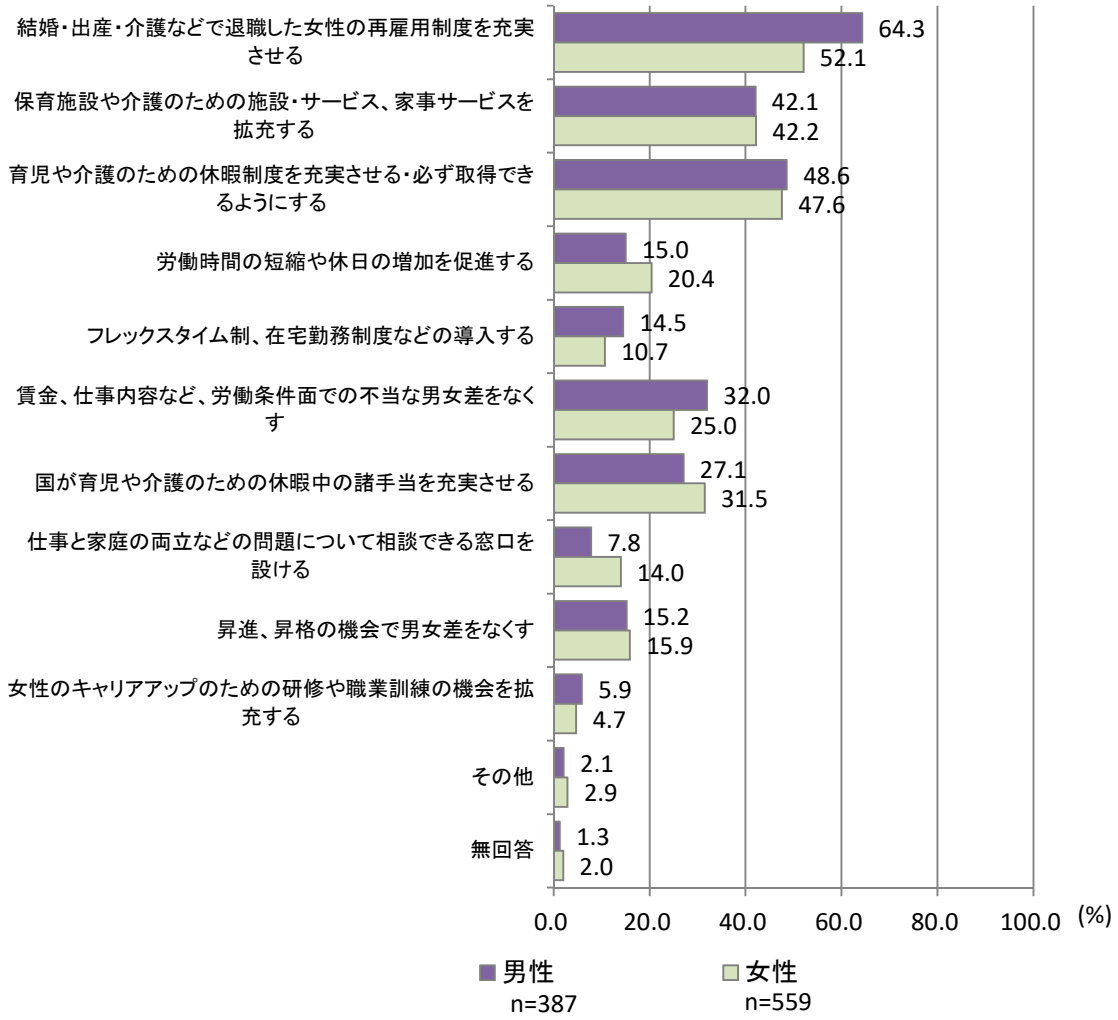
「家庭の理解と協力」（３人）
- 夫の協力。
- 家庭での男女差別を見直し、考え直す。

「男性の理解と協力」（２人）
- 男性の理解。
- 男性側の意識改革。

「自身でも改善する」（２人）
- 自分自身、回りが働きやすい環境をつくる。
- 男性と同様に、自身で働きやすい環境をつくる。

「その他」（７人）
- 企業は働いて欲しくても意外に女性は全体的に仕事の幅が狭い感じもするので、使い方に困る。これ以上、時間短縮や休日多いと会社潰れます。
- 男女にはそれぞれ性差があり、全てが平等となる訳ではないので、それぞれの長所を活かせる社会となる事が大事だと思う。

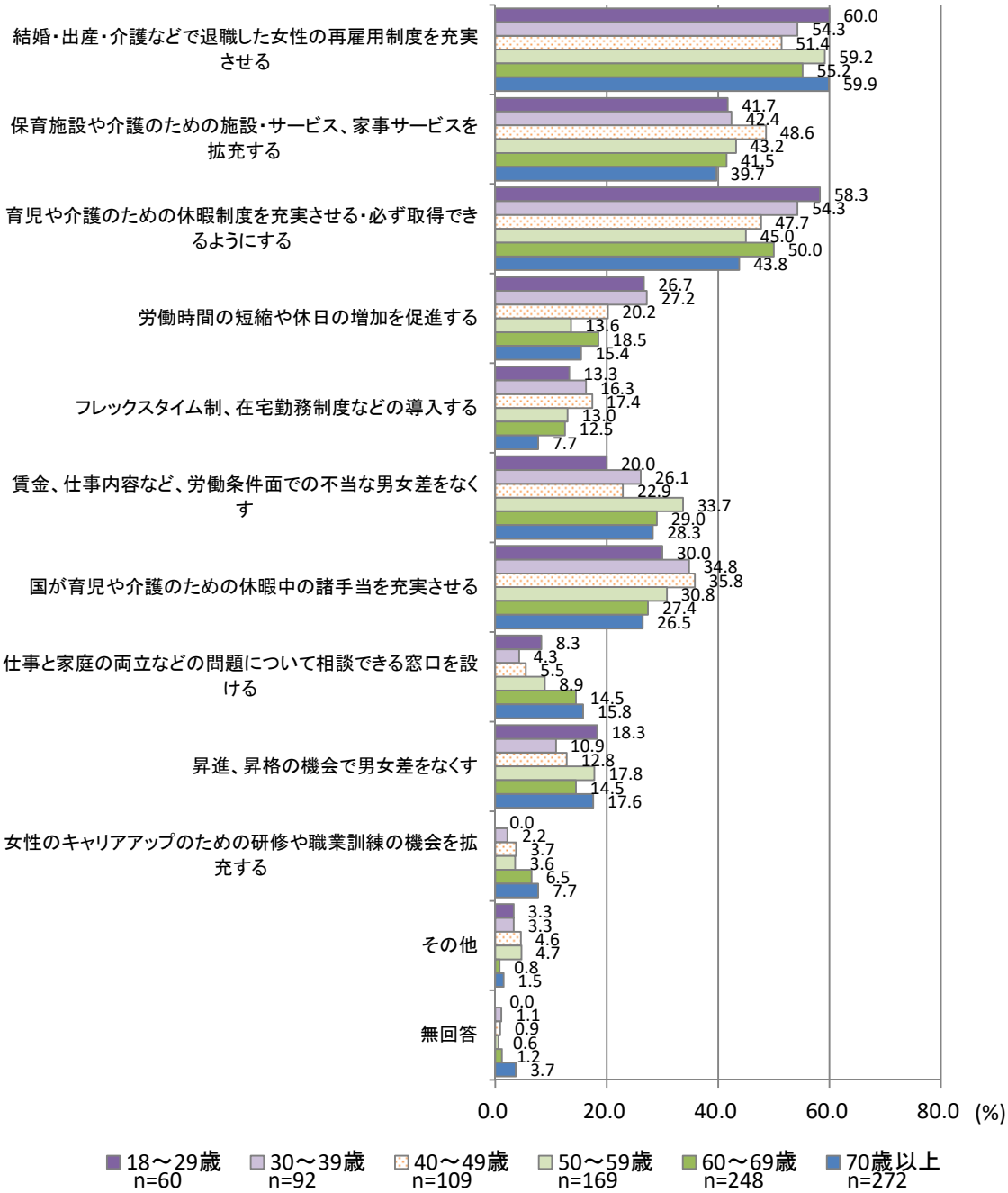
①性別



男女ともに「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」が最も高く、次いで「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」、「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」の順で高くなっています。

特に“男性”では「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」が64.3%と高くなっています。

②年齢



各年代で「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」が最も高くなっています。

次いで「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」や「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」が高い割合となっています。

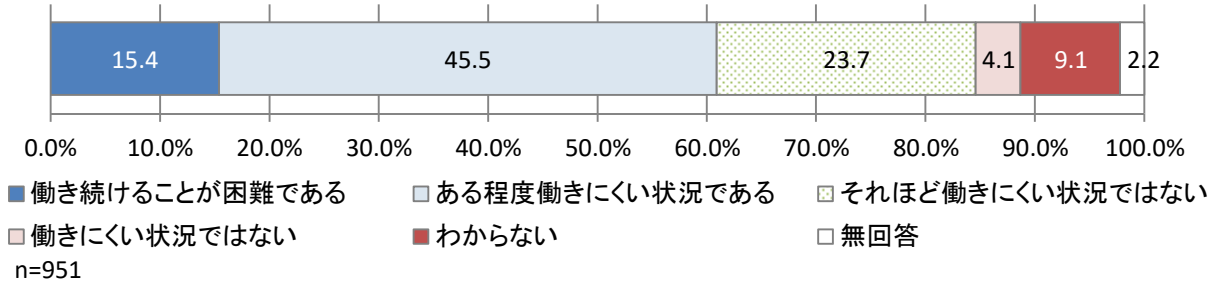
女性が働きやすくなるために必要なことについては、単純集計でも各クロス集計でも「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」が最も高い割合となっています。

次いで概ね「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」、「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」の順で高い割合となっています。現実的に直面している問題として、再雇用、育児・介護休暇、保育・介護施設や各サービスの拡充が必要だということが回答から伺えます。

女性のキャリアアップや、昇進・昇給の男女差の解消については低い割合となっていますが、労働条件等の男女格差解消については２割から３割の回答となっています。「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」へのニーズが高いことからも、現状では昇進・昇給すると家事や育児への差し障りがあるため、キャリアアップや昇進昇給の格差解消はあまり求めないのではないかと考えられます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、今年度も割合は高いものの「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」は減少し、「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」「賃金、仕事内容など、労働条件面での不当な男女差をなくす」「国が育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる」といった、企業や国が実施すべきことについての割合が高くなっています。

問 18　男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思いますか。



n=951

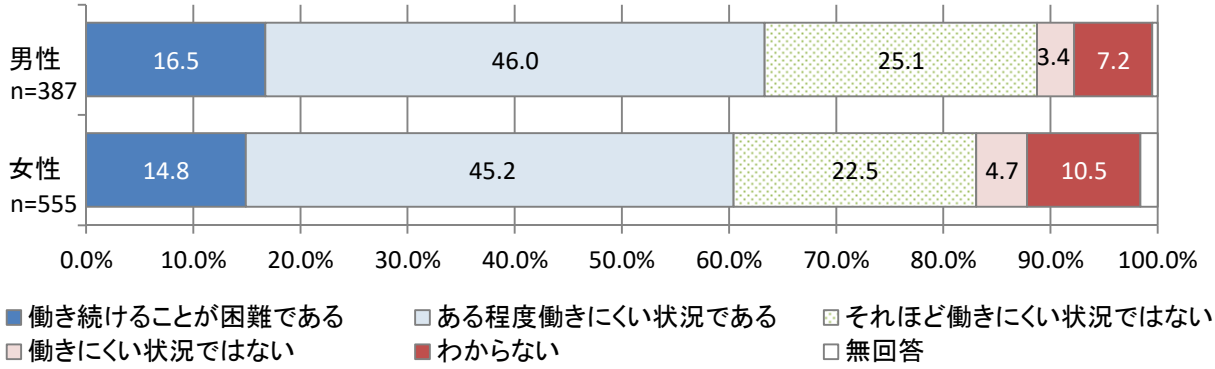
	選択肢	回答数(人)	比率(%)
1	働き続けることが困難である	146	15.4
2	ある程度働きにくい状況である	433	45.5
3	それほど働きにくい状況ではない	225	23.7
4	働きにくい状況ではない	39	4.1
5	わからない	87	9.1
	無回答	21	2.2

有効票数 = 951

女性が働き続けることが難しい社会かどうかについて、最も多いのは「働き続けることが困難である・ある程度働きにくい状況である」（60.9%）が半数以上を占め、次いで「働きにくい状況ではない・それほど働きにくい状況ではない」（27.8%）、「わからない」（9.1%）の順で多くなっています。

回答者の半数以上が、女性にとって働き続けることが難しい社会であると感じています。

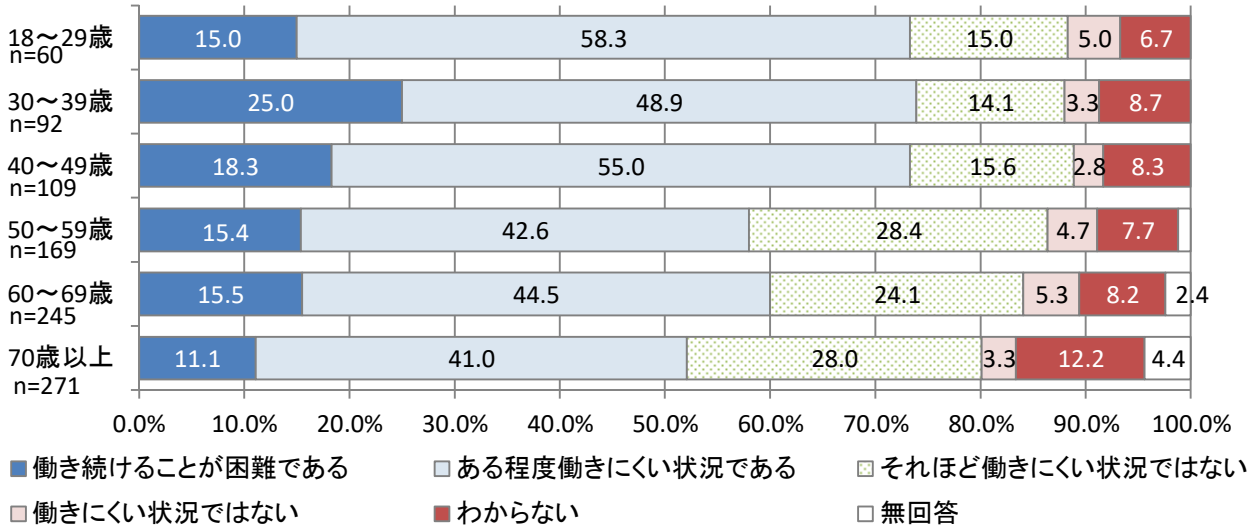
①性別



男女ともに「ある程度働きにくい状況である」が最も高く、次いで「それほど働きにくい状況ではない」、「働き続けることが困難である」の順で高くなっています。

「働き続けることが困難である・ある程度働きにくい状況である」は“男性”では 62.5%、“女性”では 60.0%を占めています。

②年齢



各年代で「ある程度働きにくい状況である」が最も高くなっています。

40 代以下では「働き続けることが困難である・ある程度働きにくい状況である」が７割以上を占め、50 代以上では５割から６割となっています。

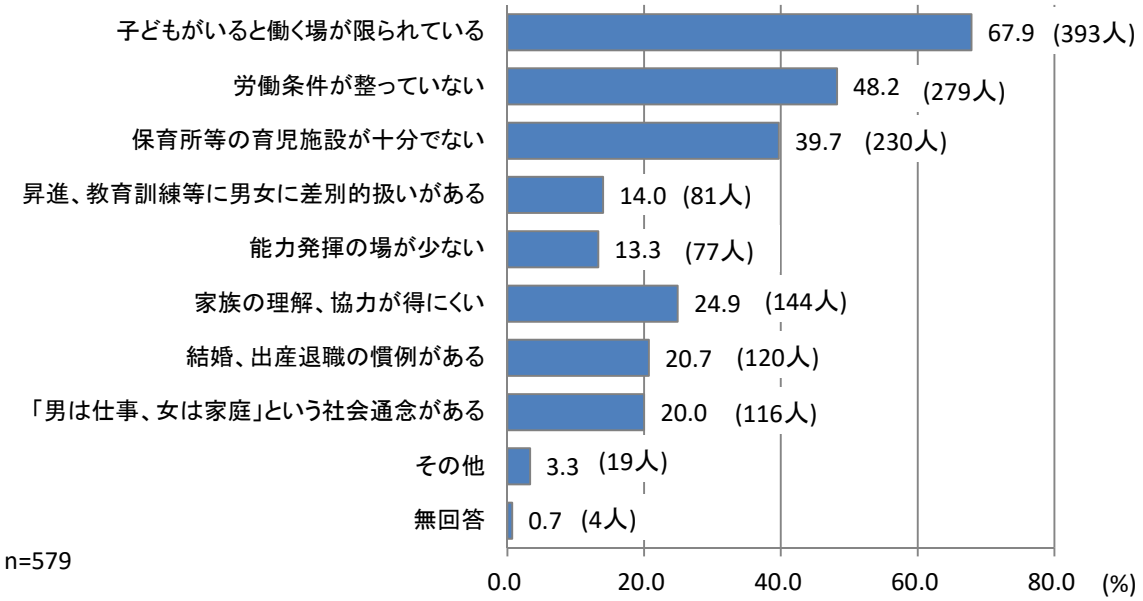
「それほど働きにくい状況ではない・働きにくい状況ではない」は“50～59 歳”で最も高く 33.1%、次いで“70 歳以上”が 31.3%となっています。

女性が働き続けることが難しい社会かどうかについては、単純集計や各クロス集計をみても「働き続けることが困難である・ある程度働きにくい状況である」が半数以上を占めています。

特に 40 代以下の年代では「働き続けることが困難である・ある程度働きにくい状況である」が７割以上を占めていますが、50 代以上では「働き続けることが困難である・ある程度働きにくい状況である」の割合が減少し、「それほど働きにくい状況ではない・働きにくい状況ではない」が３割を超えています。50 代以上の年代としては、昔に比べると改善しているという意識が反映されているのではないかと考えられます。

【問 18 で「１働き続けることが困難である」又は「２ある程度働きにくい状況である」と回答した方】

問 19　女性が働きにくい状況にあると思う理由は何ですか。（○は３つまで）



女性が働きにくい状況にあると思う理由について、最も多いのは「子どもがいると働く場が限られている」（67.9%）、次いで「労働条件が整っていない」（48.2%）、「保育所等の育児施設が十分でない」（39.7%）の順で多くなっています。

○その他（抜粋）

「職場の理解が足りない。」（６人）

・経営者と上司の理解がない。

・子育てのため出勤できない時間があるのは当然だと思うが、それをグチグチ言う人がいる事。

「社会にも、本人も社会的通念が障害になっている。」（３人）

・子どもの学校行事や病院は母親でなければ、という考えがあるうちは働きにくい。

・女性は妊娠や出産で能力があってもキャリアがストップし、職場に迷惑をかけるという概念はなかなか拭えない社会だと思う。

「公的支援が不足、未対応である。」（３人）

・急病の時等、預ける人がいないと急に休まなければならない。

・保育所も土日、祝祭日に対応していない。

「就業時間の長さや残業により、家庭や子育ての時間が削られ、辞めざるをえない。」（３人）

・残業が必ずあるので、その場合、子どもが居ると長時間働けないのではないかと思う。それがきっかけで精神的にくるものがあると思う。

・残業多く家庭生活を守るための時間が少なく、その為退職せざるを得ない状況がある。

「再就職が難しい。」（２人）

・一度、辞めると再就職が難しい。

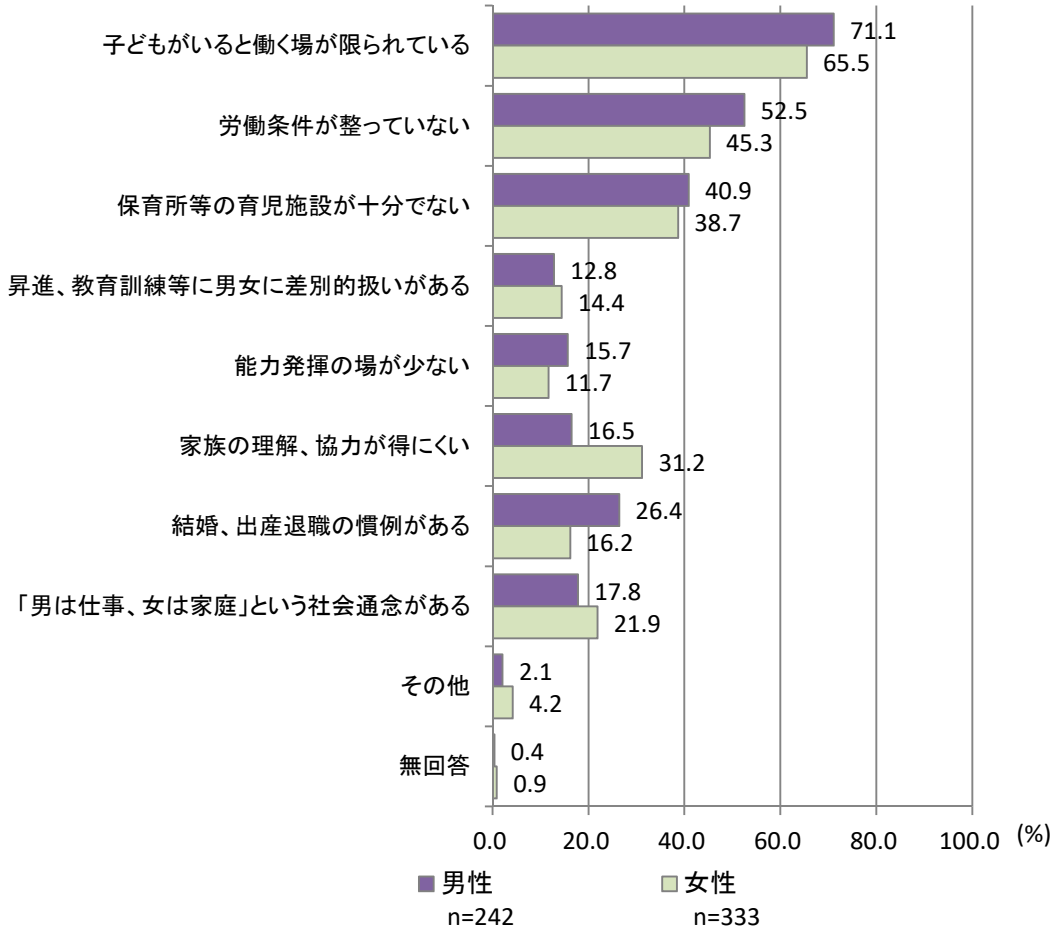
・出産後の再就職などのケースで正規雇用の枠が狭い。

「その他」（２人）

・男性の多い会社で働く女性は特に、家で身の回りの事をしてくれる女性に支えられている事が多く、女性はその男性との競争する事になる為。

・難しい。

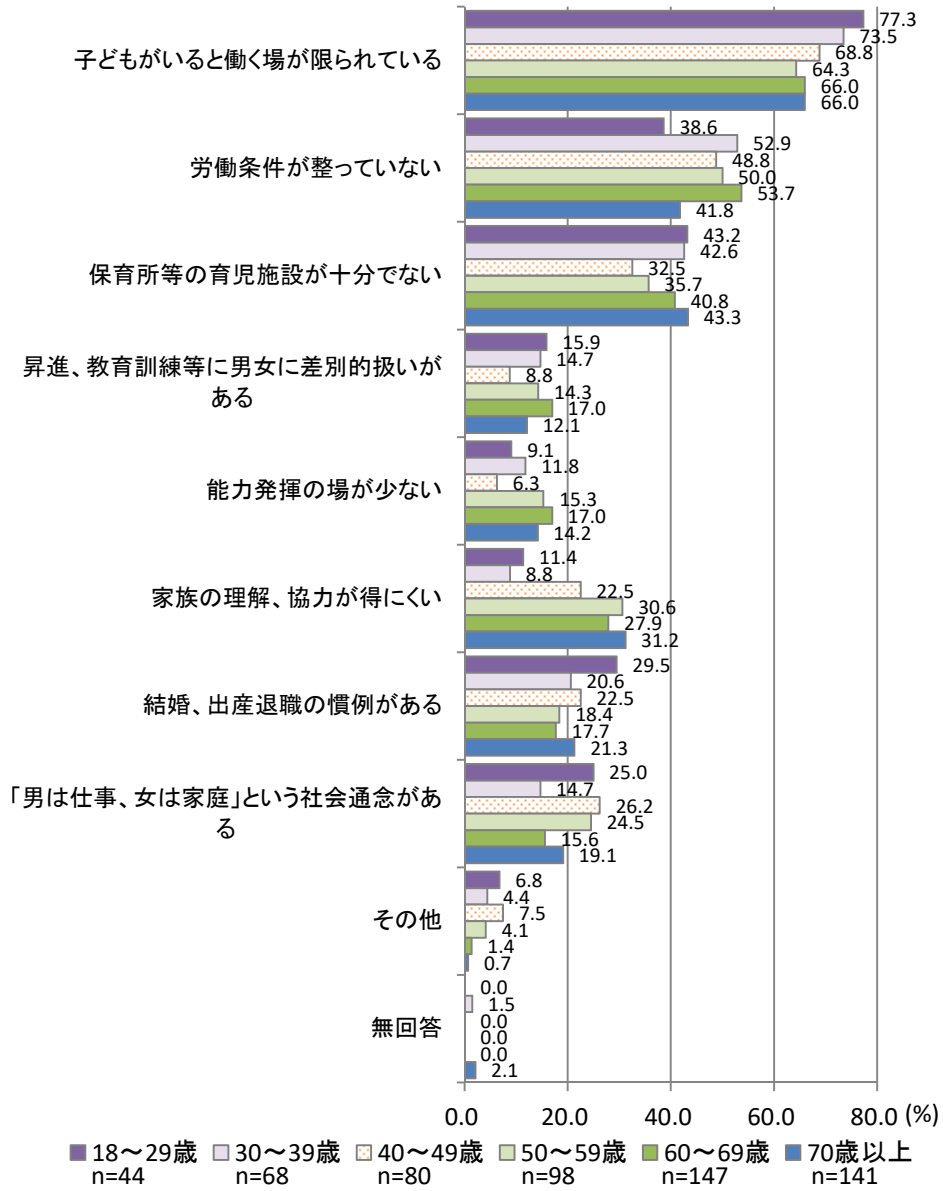
①性別



男女ともに「子どもがいると働く場が限られている」が最も高く６割以上を占め、次いで「労働条件が整っていない」、「保育所等の育児施設が十分でない」の順で高くなっています。

“男性”に比べて“女性”が高いのは「家族の理解、協力が得にくい」で 31.2%、“女性”に比べて“男性”で高いのは「結婚、出産退職の慣例がある」で 26.4%となっています。

②年齢



各年代で「子どもがいると働く場が限られている」が最も高く６割以上を占めています。

２番目には“18～29 歳”と“70 歳以上”では「保育所等の育児施設が十分でない」、「労働条件が整っていない」の順で高く、それ以外の年代では「労働条件が整っていない」、「保育所等の育児施設が十分でない」の順で高くなっています。

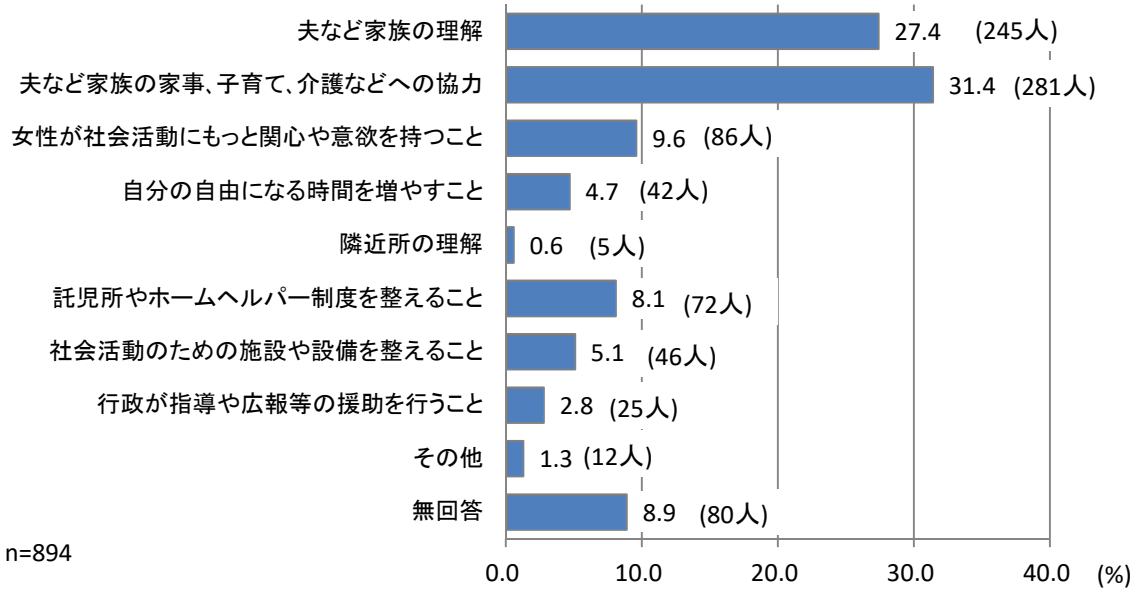
４番目に高いのは 30 代以下では「結婚、出産退職の慣例がある」が高く、40 代では「「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある」、50 代以上では「家族の理解、協力が得にくい」となっています。

女性が働きにくい状況にあると思う理由については、単純集計や各クロス集計をみても「子どもがいると働く場が限られている」が６割以上を占め最も高く、次いで「労働条件が整っていない」、「保育所等の育児施設が十分でない」の順で高くなっています。

多くの方が、未だに、男性が働き女性が家庭で家事や子育てをするようなスタイルの社会であるため、子どもがいると働く場が限られ、労働条件が合わず、子どもを預ける保育施設等が十分足りていないと感じていると考えられます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、「保育所等の育児施設が十分でない」以外は大きな差は見られません。「保育所等の育児施設が十分でない」は９％ほど減少しており、市による子ども・子育て支援事業計画の実施結果が反映されているものと考えられます。

問 20　女性が社会活動に参加するために必要なことは、何だと思いますか。



女性が社会活動に参加するために必要なことは、最も多いのが「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」（31.4%）、次いで「夫など家族の理解」（27.4%）、「女性が社会活動にもっと関心や意欲を持つこと」（9.6%）の順で多くなっています。上位２つについては、夫の理解と協力となっています。

〇その他

「１つの選択肢だけではない。」（３人）

・答えは１つに絞れません。

・1～8 の項目すべてで必要なことだと思う。令和になり保育料無償化、児童手当、医療費無料と、昭和や平成時代に比べると働きやすくなっていると思う。仕事と家庭の両立は体力的に大変なので健康第一です。スポ少、学校行事などの子どもとの時間を楽しめる余裕が大事だと思う。

「意識や制度の改革。」（３人）

・法制度の充実と社会全体の意識を変える事。

・家族の理解や託児所やヘルパー制度など複数必要だと思います。

「本人のやる気。」（２人）

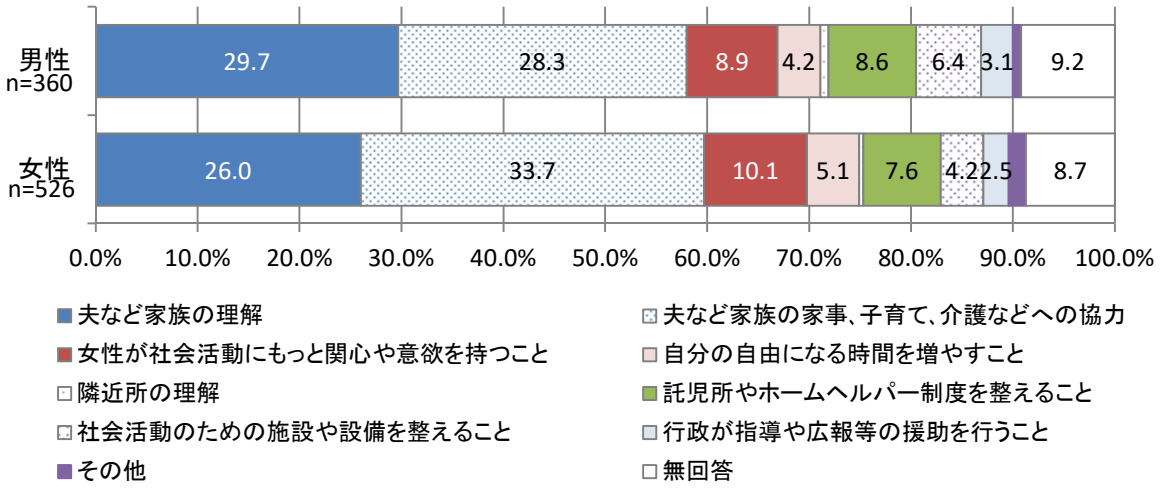
・やる気コントロール。

・自身のやる気。

「その他」（１人）

・難しい。

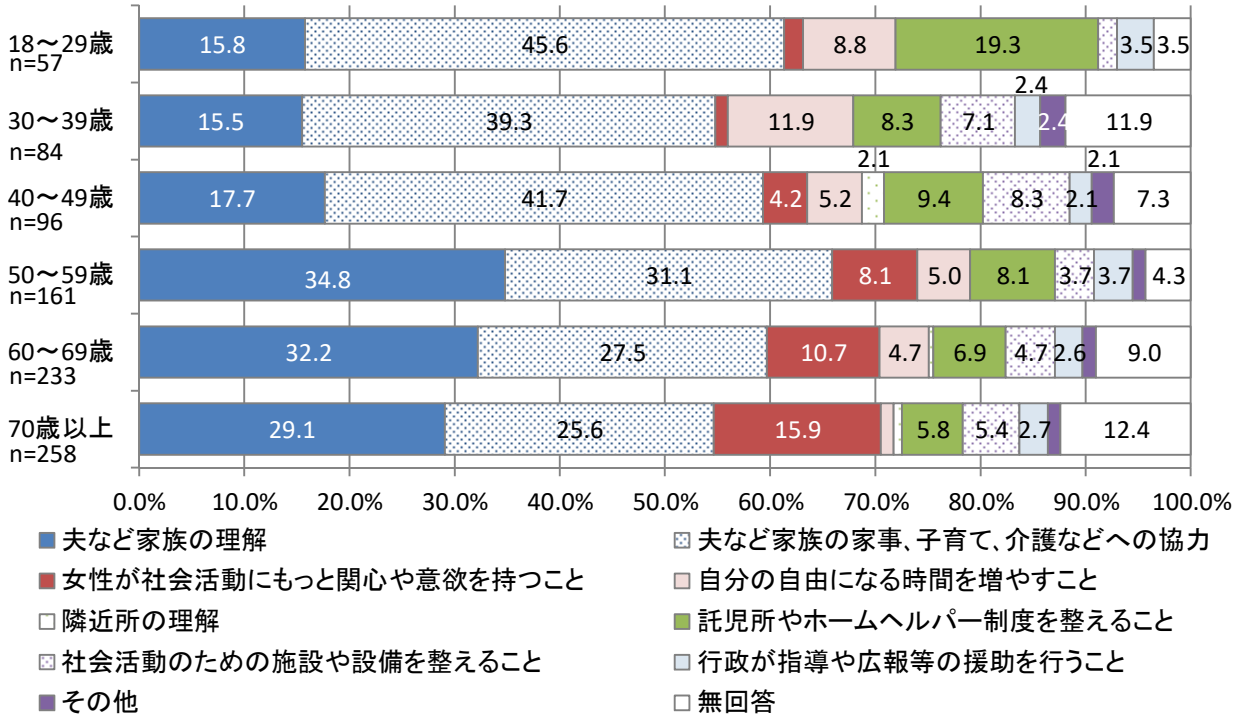
①性別



“男性”では「夫など家族の理解」、「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」の順で高くなっています。

“女性”では「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」、「夫など家族の理解」の順となっています。

②年齢



40 代以下では「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」が最も高く、50 代以上では「夫など家族の理解」が高くなっています。

30 代以上では「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」、「夫など家族の理解」が高くなっていますが、“18～29 歳”では２番目に「託児所やホームヘルパー制度を整えること」が高く、３番目に「夫など家族の理解」となっています。

女性が社会活動に参加するために必要なことについては、単純集計や各クロス集計も「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」や、「夫など家族の理解」が高い傾向にあります。

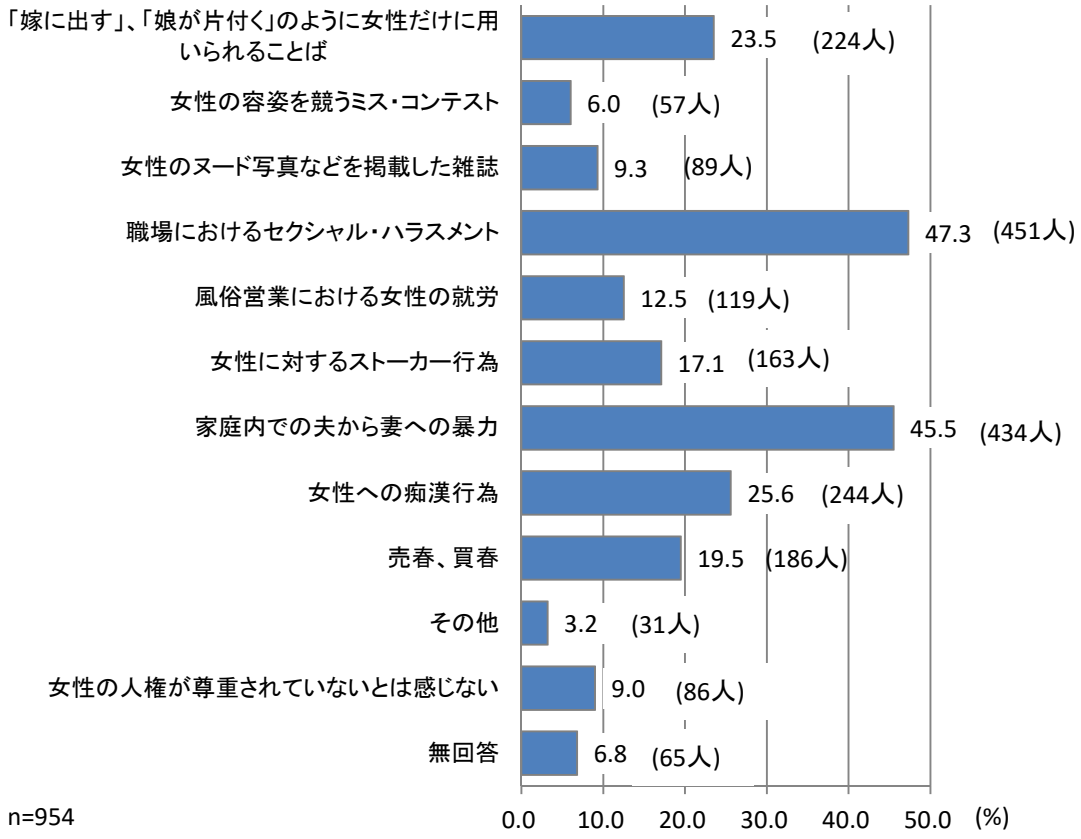
“女性”や40代以下では理念的な「理解」よりも実際の行動である「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」の割合が高くなっています。また、“18～29 歳”では２番目に「託児所やホームヘルパー制度を整えること」が高く、３番目に「夫など家族の理解」が高くなっています。

「夫や家族の理解」があっても、実際的に家事や育児の負担が大きければ、女性が社会活動に参加しにくいことに変わりはないため、「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」や「託児所やホームヘルパー制度を整えること」が高い割合になっていると考えられます。

前回調査結果（平成27年度）と比べると、「夫など家族の理解」「夫など家族の家事、子育て、介護などへの協力」の割合が増加しており、夫や家族の理解や協力が不可欠であると考えている方が増加していることが分かります。

５．人権の尊重について

問 21　あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなモノ・コトを見たり聞いたりしたときですか。（○は３つまで）



あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるモノ・コトについて、最も多いのは「職場におけるセクシャル・ハラスメント」(47.3%)、次いで「家庭内での夫から妻への暴力」(45.5%)、「女性への痴漢行為」（25.6%）の順で多くなっています。

職場や家庭など、身近な場でのモノ・コトの割合が高くなっています。

○その他（抜粋）

「社会的通念」（８人）
- 家事は女がやるのが当たり前的な風習。
- 男性の発言。社会の仕組み、風習。

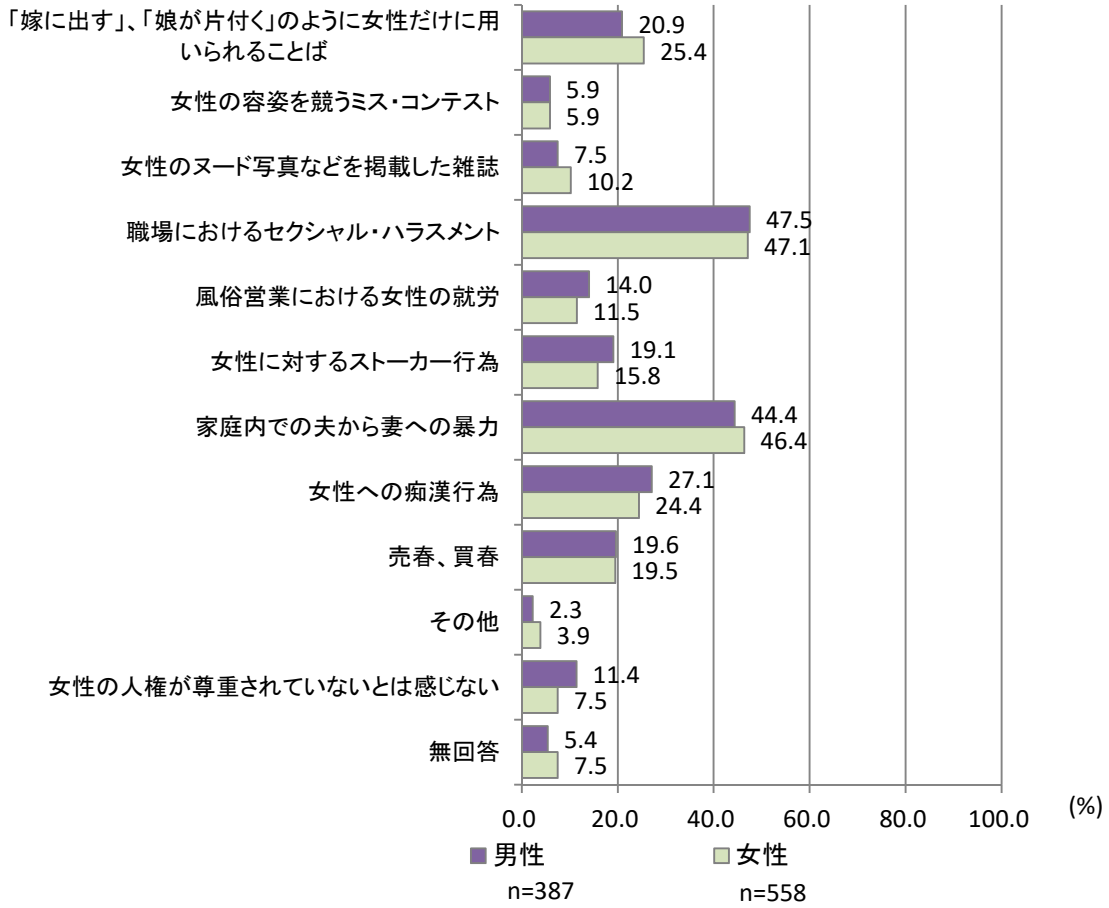
「職場での対応」（４人）
- 育児中の母への職場内でのパワハラ行為など。
- お茶出しや受付などを指示される。

「相続」（２人）
- 相続関係においての嫁の立場。
- 遺産相続。

「性犯罪等のニュース」（２人）
- 女性に対するストーカ行為はやめて欲しいと、ニュースなどを見て思います。
- レイプなどの性犯罪の罪が軽すぎる。裁判までの過程で女性への対応がひどい。

「その他」（６人）
- 経験がない為、分からない。
- 女性自身の自覚。

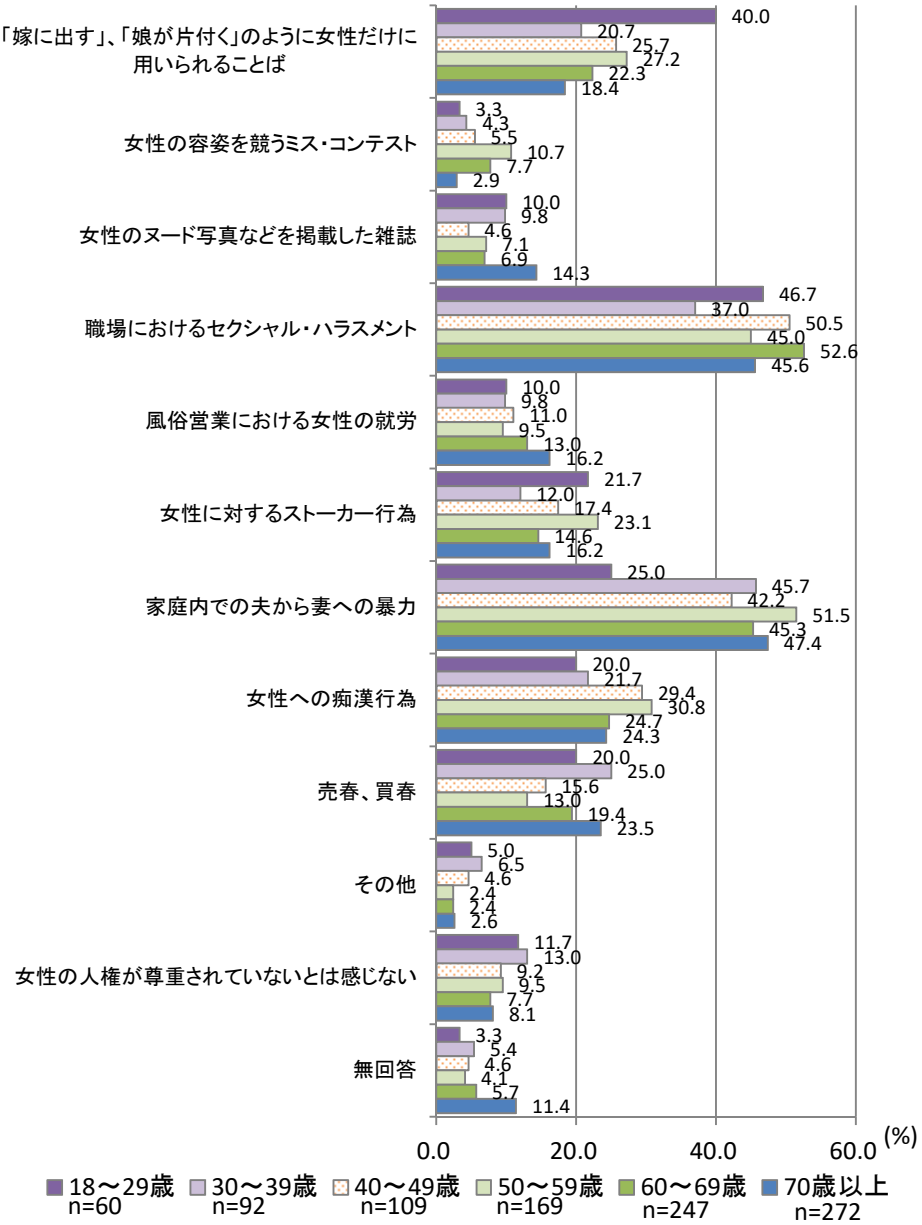
①性別



男女ともに「職場におけるセクシャル・ハラスメント」が最も高く、次いで「家庭内での夫から妻への暴力」が高くなっています。

３番目には“男性”は「女性への痴漢行為」、“女性”は「「嫁に出す」、「娘が片付く」のように女性だけに用いられることば」が高くなっています。

②年齢



各年齢で「職場におけるセクシャル・ハラスメント」や「家庭内での夫から妻への暴力」の割合が高くなっています。“30～39 歳”では３番目に「売春、買春」が高く、40 代以上では「女性への痴漢行為」が高くなっています。

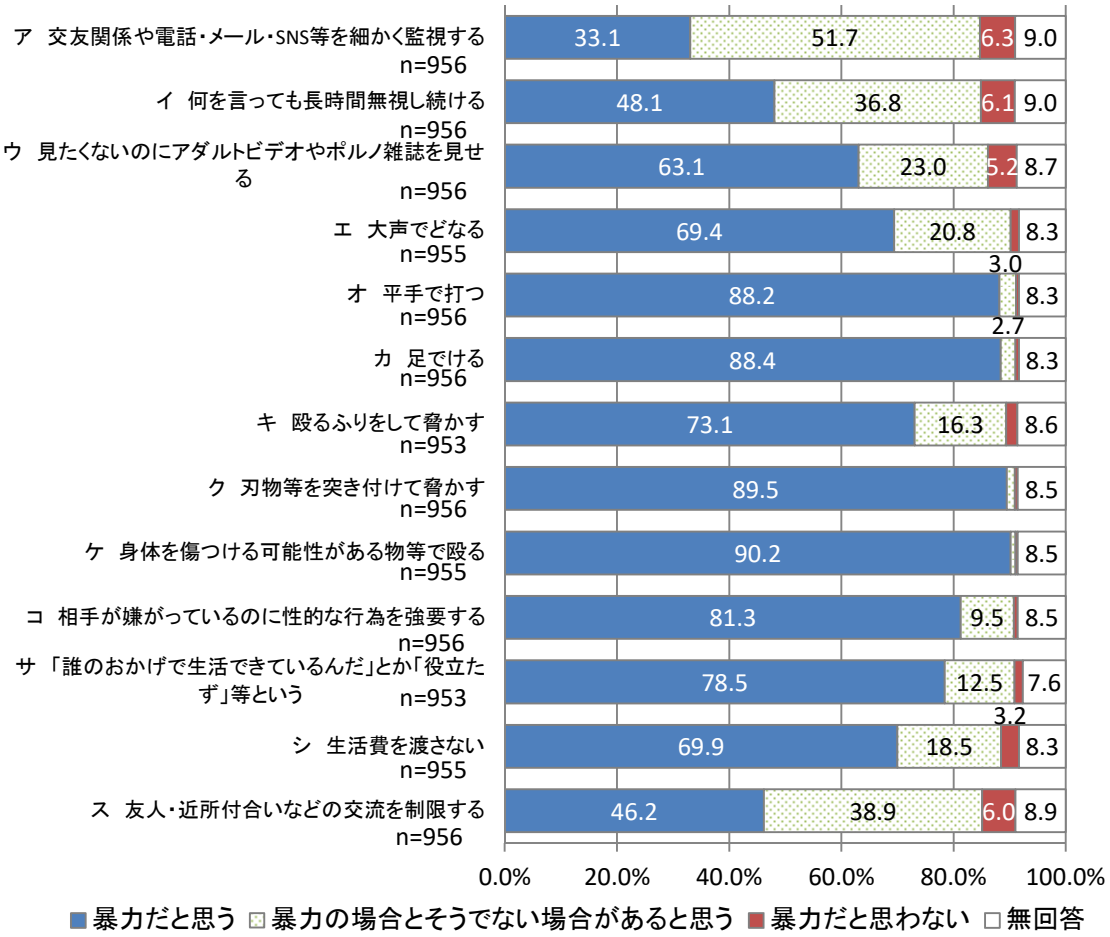
“18～29 歳”では「職場におけるセクシャル・ハラスメント」に次いで「「嫁に出す」、「娘が片付く」のように女性だけに用いられることば」、「家庭内での夫から妻への暴力」の順で高くなっています。

女性の人権が尊重されていないと感じるモノ・コトについては、単純集計や各クロス集計でほぼ「職場におけるセクシャル・ハラスメント」と「家庭内での夫から妻への暴力」が高い割合となっています。

“18～29 歳”では結婚が意識される年代であることから「「嫁に出す」、「娘が片付く」のように女性だけに用いられることば」も高くなっています。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、前回より大きく減少したものは見られませんが、「家庭内での夫から妻への暴力」「女性への痴漢行為」はそれぞれ 10%ほど増加しており、女性の人権に対する認識の変化がうかがえます。

問 22　配偶者や恋人の間での身体的・心理的暴力などのＤＶ被害が問題視されています。あなたは配偶者や恋人の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思いますか。



あなたは配偶者や恋人の間での暴力について、「暴力だと思う」が最も多いのは「身体を傷つける可能性がある物等で殴る」（90.2%）、次いで「刃物等を突き付けて脅かす」（89.5%）、「足でける」（88.4%）の順で多くなっています。

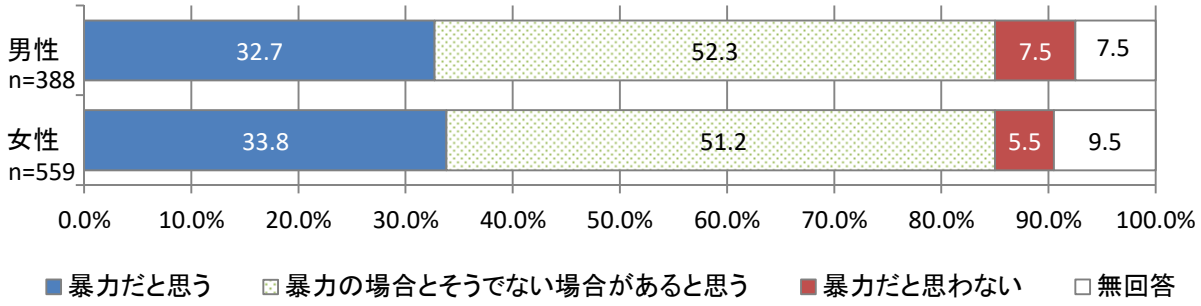
「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が最も多いのは「交友関係や電話・メール・SNS 等を細かく監視する」（51.7%）、次いで「友人・近所付き合いなどの交流を制限する」（38.9%）、「何を言っても長時間無視し続ける」（36.8%）の順で多くなっています。

「暴力だと思わない」が最も多いのは「交友関係や電話・メール・SNS 等を細かく監視する」（6.3%）、次いで「何を言っても長時間無視し続ける」（6.1%）、「友人・近所付き合いなどの交流を制限する」（6.0%）の順で多くなっています。

	暴力だと思う	暴力の場合とそうでない場合があると思う	暴力だと思わない	無回答	有効票数
ア　交友関係や電話・メール・SNS等を細かく監視する	316	494	60	86	956
	33.1	51.7	6.3	9.0	100.1
イ　何を言っても長時間無視し続ける	460	352	58	86	956
	48.1	36.8	6.1	9.0	100.0
ウ　見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	603	220	50	83	956
	63.1	23.0	5.2	8.7	100.0
エ　大声でどなる	663	199	14	79	955
	69.4	20.8	1.5	8.3	100.0
オ　平手で打つ	843	29	5	79	956
	88.2	3.0	0.5	8.3	100.0
カ　足でける	845	26	6	79	956
	88.4	2.7	0.6	8.3	100.0
キ　殴るふりをして脅かす	697	155	19	82	953
	73.1	16.3	2.0	8.6	100.0
ク　刃物等を突き付けて脅かす	856	14	5	81	956
	89.5	1.5	0.5	8.5	100.0
ケ　身体を傷つける可能性がある物等で殴る	861	9	4	81	955
	90.2	0.9	0.4	8.5	100.0
コ　相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する	777	91	7	81	956
	81.3	9.5	0.7	8.5	100.0
サ「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等という	748	119	14	72	953
	78.5	12.5	1.5	7.6	100.1
シ　生活費を渡さない	668	177	31	79	955
	69.9	18.5	3.2	8.3	99.9
ス　友人・近所付合いなどの交流を制限する	442	372	57	85	956
	46.2	38.9	6.0	8.9	100.0

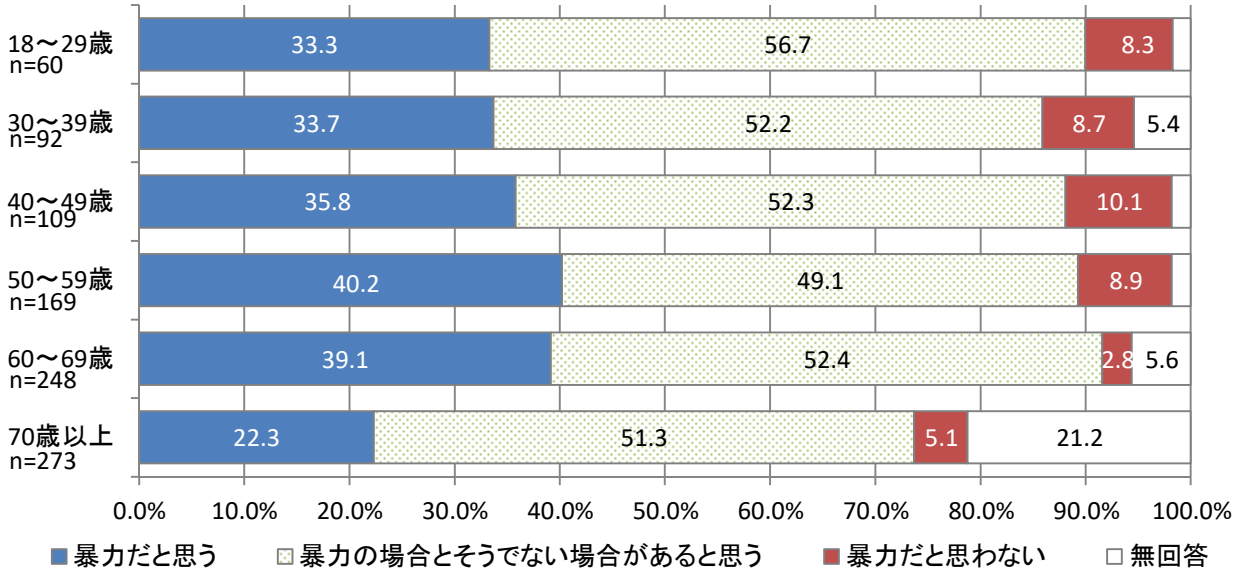
ア　交友関係や電話・メール・ＳＮＳ等を細かく監視する

①性別



交友関係や電話・メール・ＳＮＳ等を細かく監視することについては、男女ともに「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が半数以上を占め、次いで「暴力だと思う」が高くなっています。

②年齢



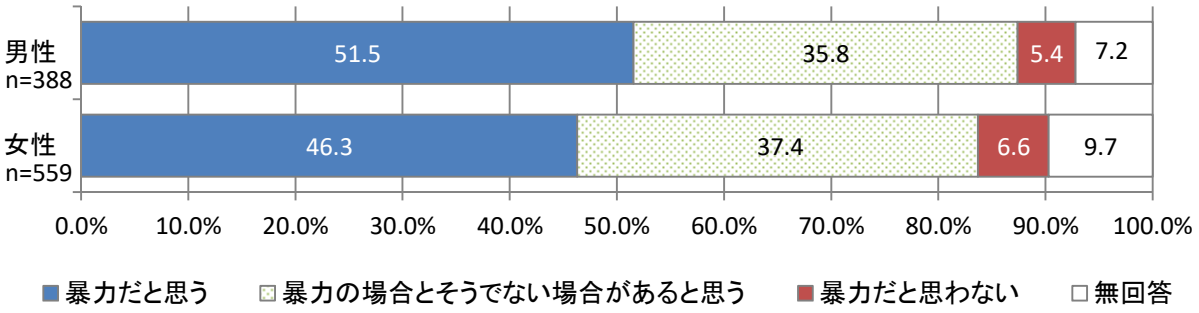
各年代で「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が半数以上を占め、次いで「暴力だと思う」が高くなっています。

“70 歳以上”以外では「暴力だと思う」は３割以上ですが、“70 歳以上”では 22.3%となっています。

“40～49 歳”では「暴力だと思わない」が１割となっています。

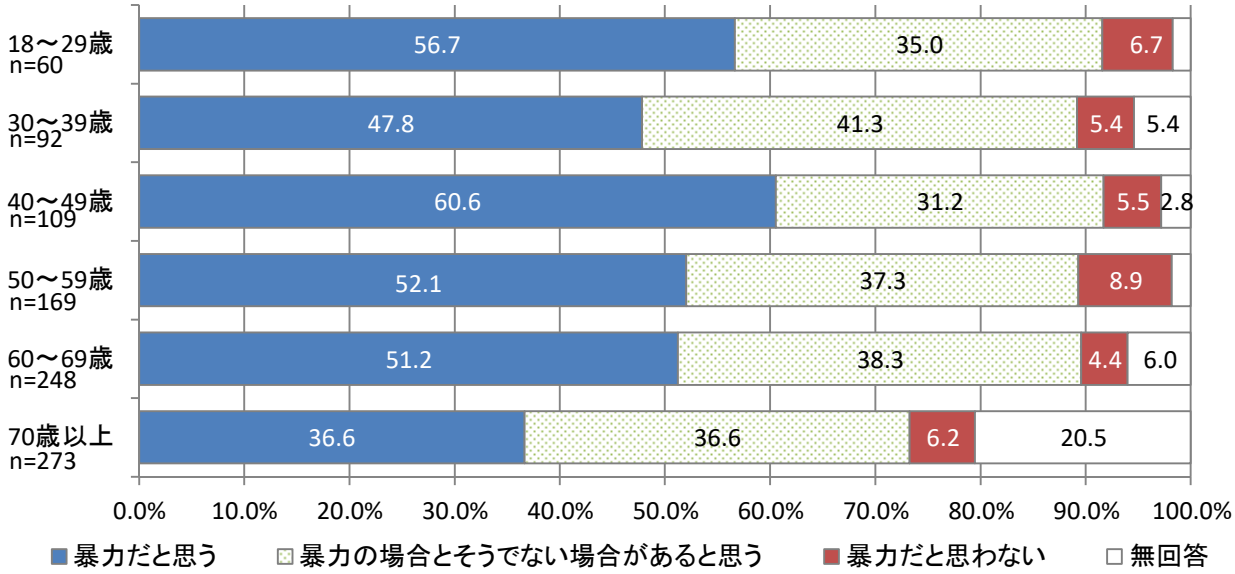
イ　何を言っても長時間無視し続ける

①性別



何を言っても長時間無視し続けるについては、男女ともに「暴力だと思う」が最も高く、“男性”では半数以上となっています。次いで「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

②年齢

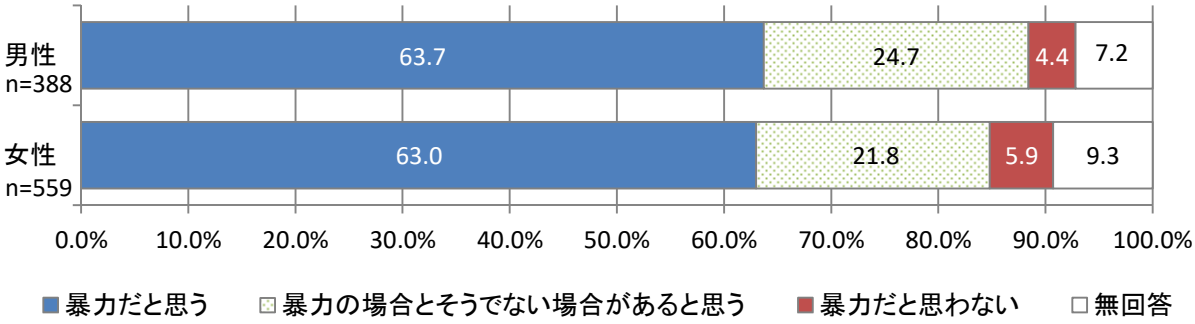


“70 歳以上”以外では「暴力だと思う」が最も高く、次いで「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

“70 歳以上”では「暴力だと思う」と「暴力との場合とそうでない場合があると思う」それぞれ 36.6%となっています。

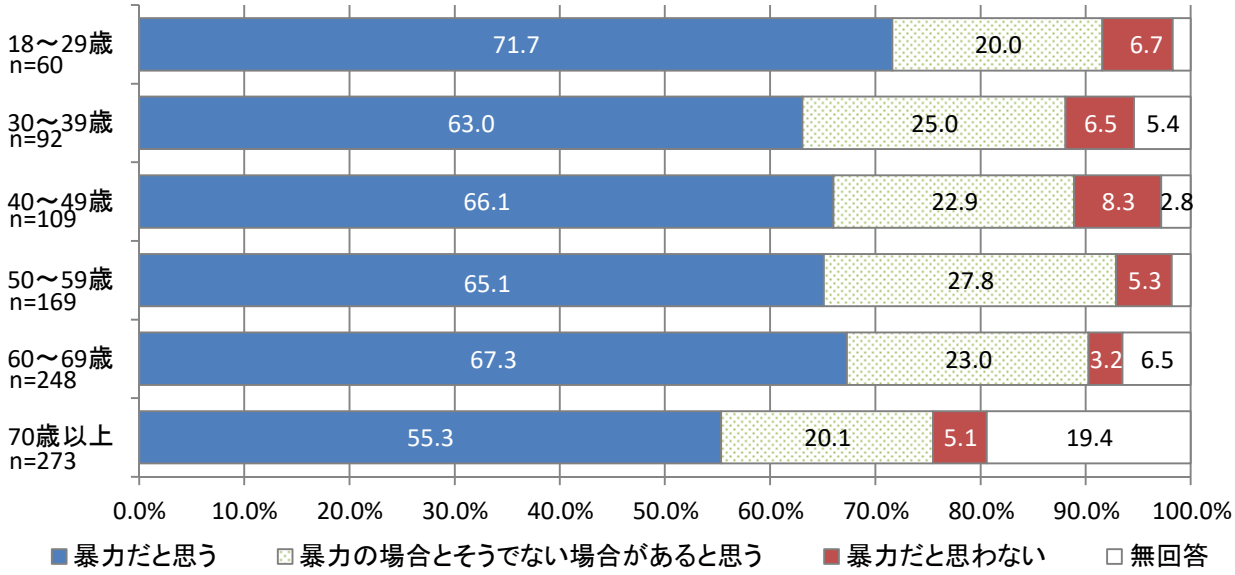
ウ　見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

①性別



見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せることについては、男女ともに「暴力だと思う」が６割以上、次いで「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

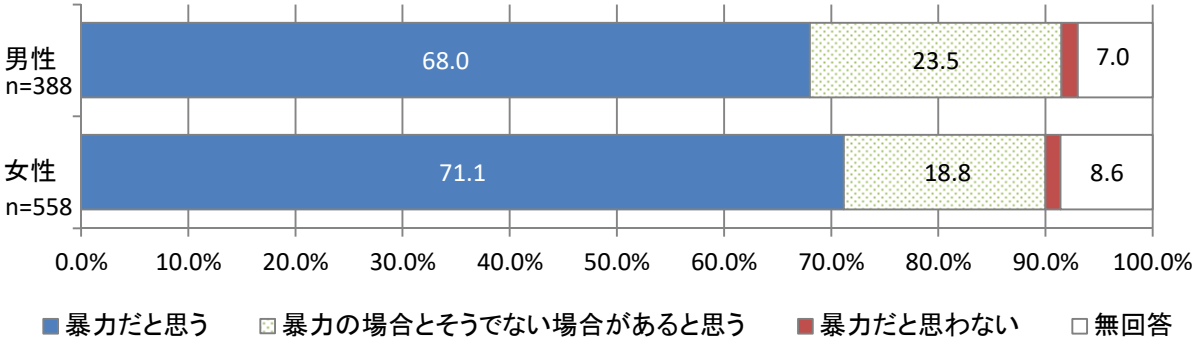
②年齢



各年代で「暴力だと思う」が最も高く、特に“18～29 歳”では 71.7%を占めています。次いで「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

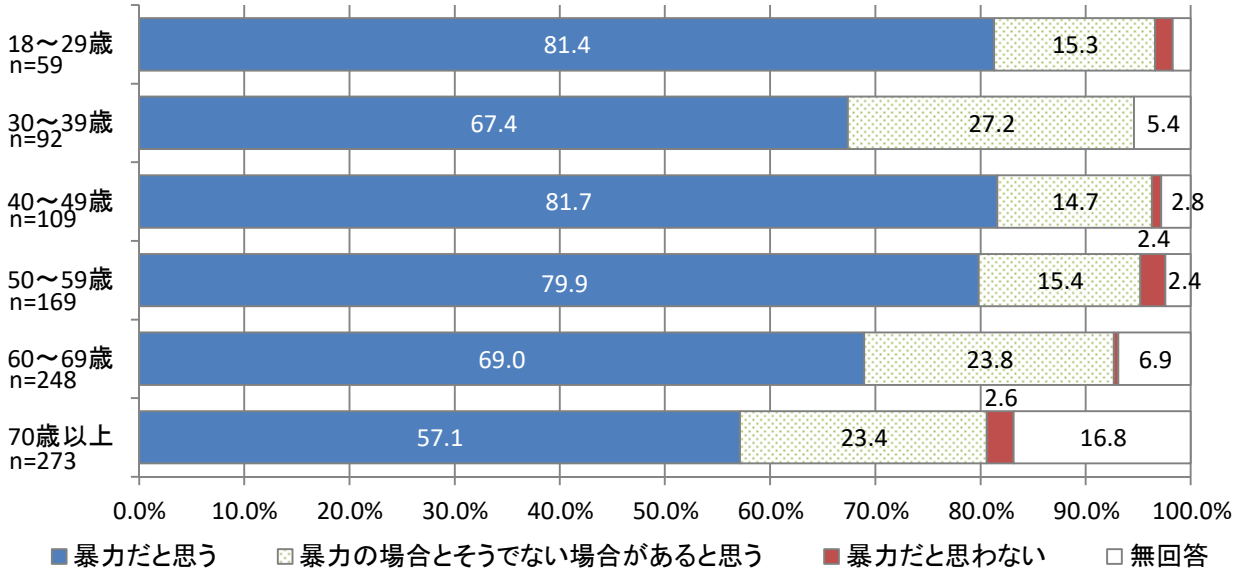
エ　大声でどなる

①性別



大声でどなることについては、男女ともに「暴力だと思う」が６割以上を占め、次いで「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

②年齢

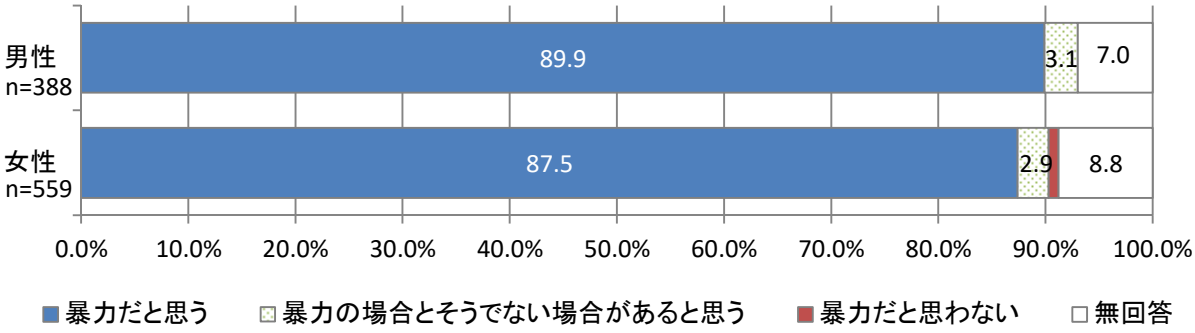


各年代で「暴力だと思う」が半数以上を占め、特に“18～29 歳”と“40～49 歳”では８割以上となっています。

次いで「暴力との場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

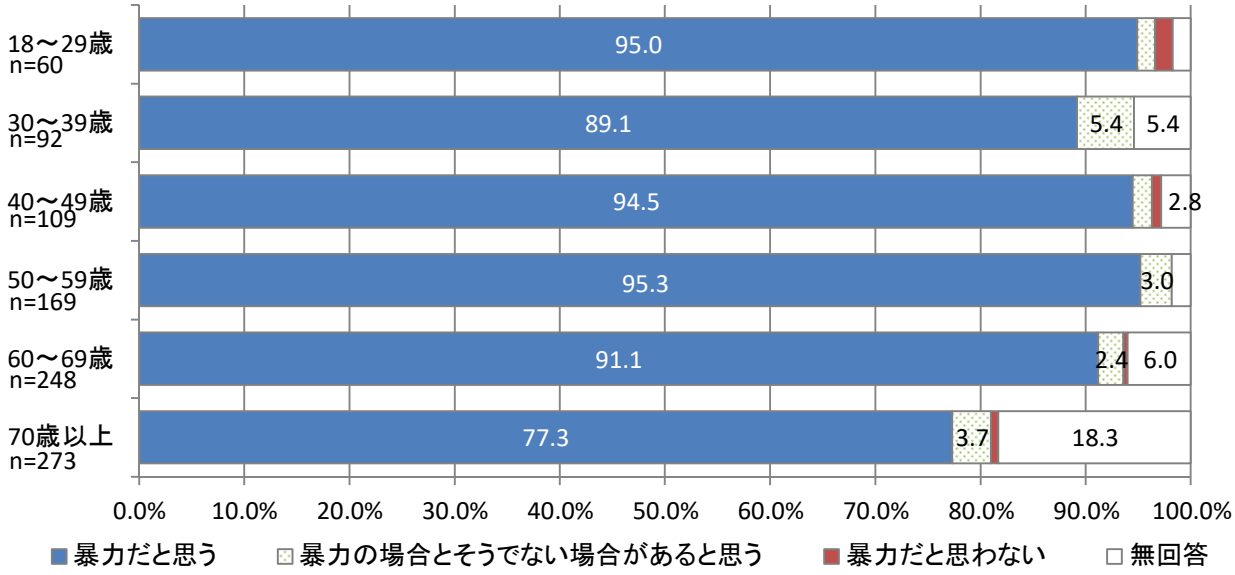
オ　平手で打つ

①性別



平手で打つことについては、男女とも８割以上が「暴力だと思う」と回答しています。

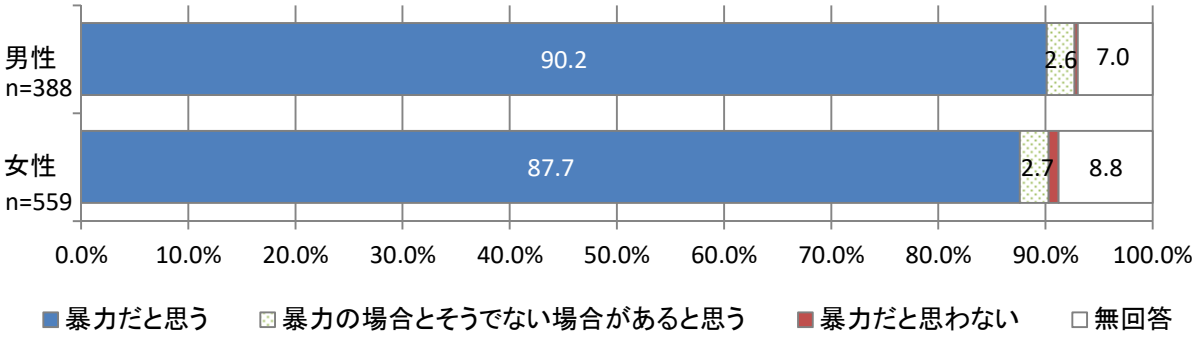
②年齢



各年齢で「暴力だと思う」が７割以上となっています。とくに“18～29 歳”、“40～49 歳”、“50～59 歳”、“60～69 歳”では９割以上を占めています。

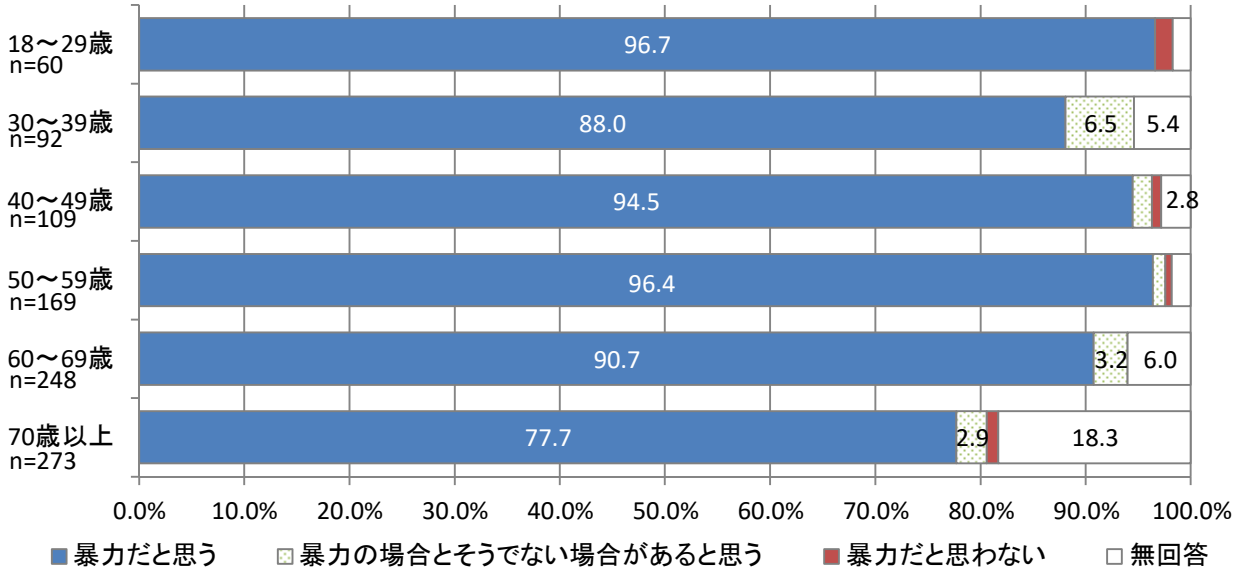
カ　足でける

①性別



足でけることについては、男女ともに「暴力だと思う」が８割以上となっています。

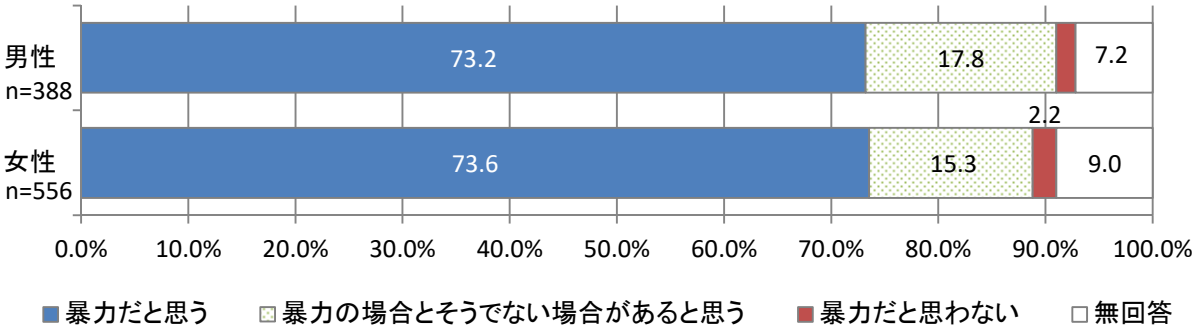
②年齢



各年齢で「暴力だと思う」が最も高く、とくに“18～29 歳”、“40～49 歳”、“50～59 歳”、“60～69 歳”では９割以上を占めています。

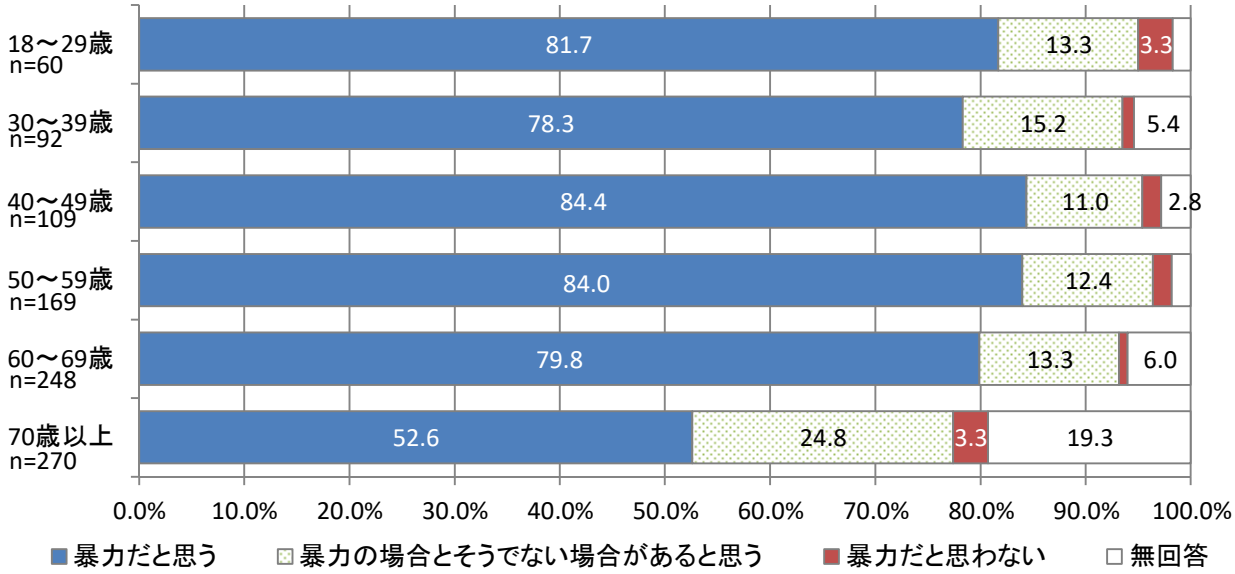
キ　殴るふりをして脅かす

①性別



殴るふりをして脅かすについては、男女ともに「暴力だと思う」が７割以上を占め、次いで「暴力の場合とそうでない場合があると思う」の順となっています。

②年齢

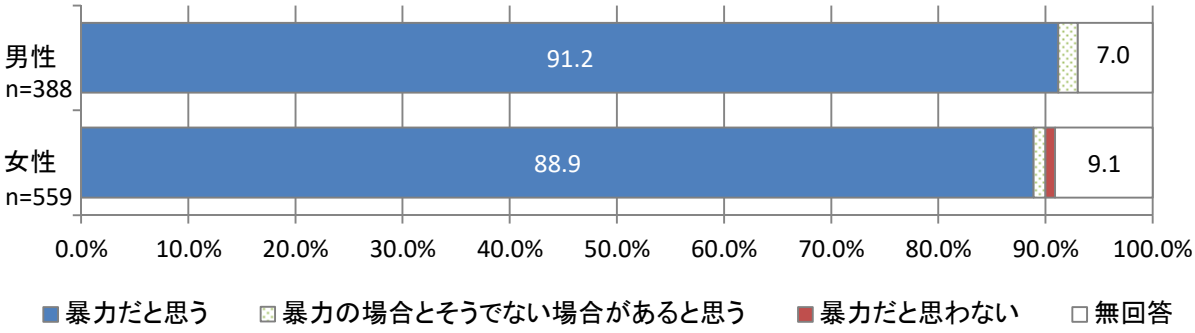


「暴力だと思う」が最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が高くなっています。

“70 歳以上”では 52.6%、「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が 24.8%となっています。

ク　刃物等を突き付けて脅かす

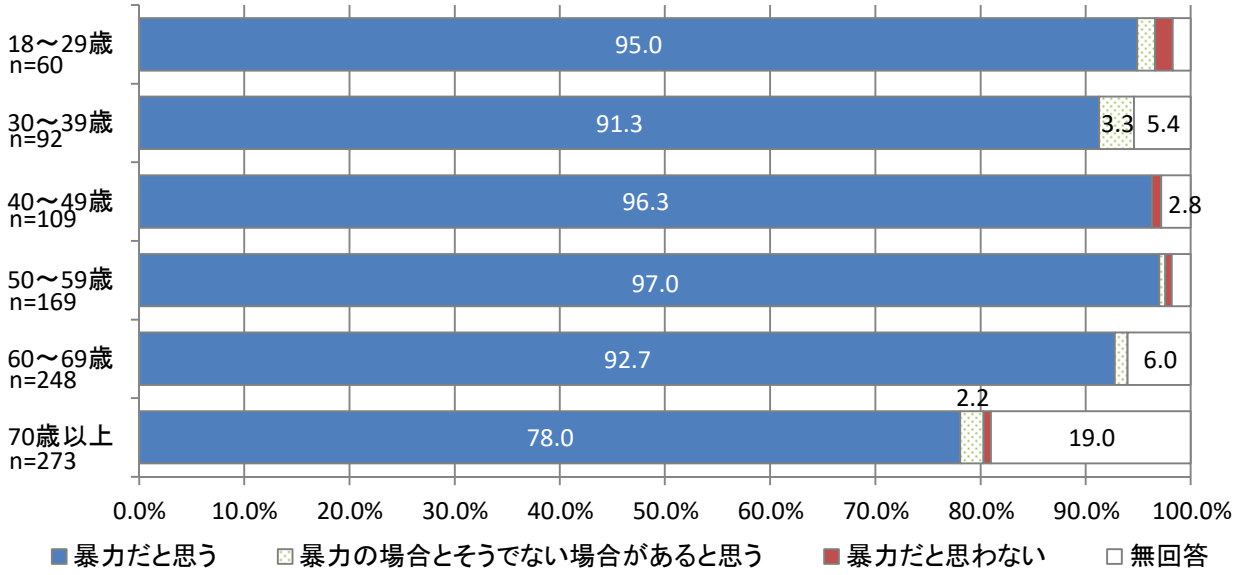
①性別



刃物等を突き付けて脅かすについては男女ともにおよそ９割の方が「暴力だと思う」と回答しています。

「暴力だと思わない」と回答した方は、“女性”のみ 0.9%（５人）みられました。

②年齢

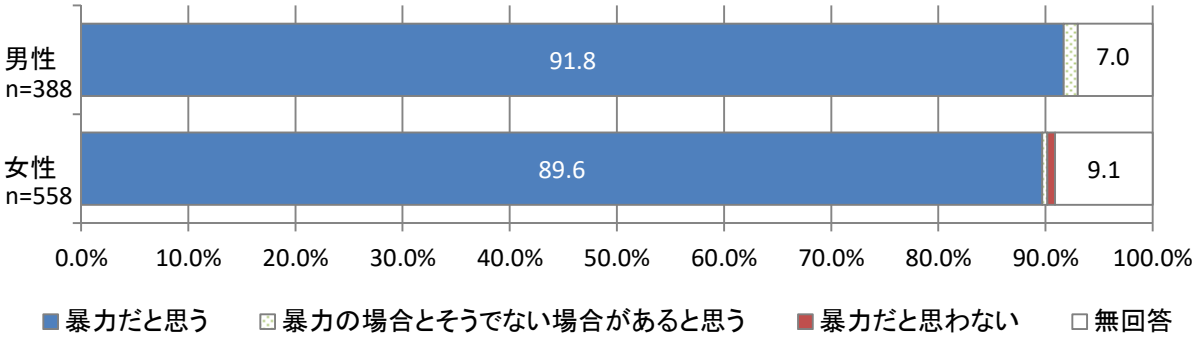


“70 歳以上”以外では、「暴力だと思う」が９割以上を占めています。

“70 歳以上”では「無回答」が 19.0%となっていることから、刃物等を突き付けて脅かすことが、暴力なのか、そうではないのかを判断しかねる方が他の年齢に比べて多いということではないかと推測されます。

ケ　身体を傷つける可能性がある物等で殴る

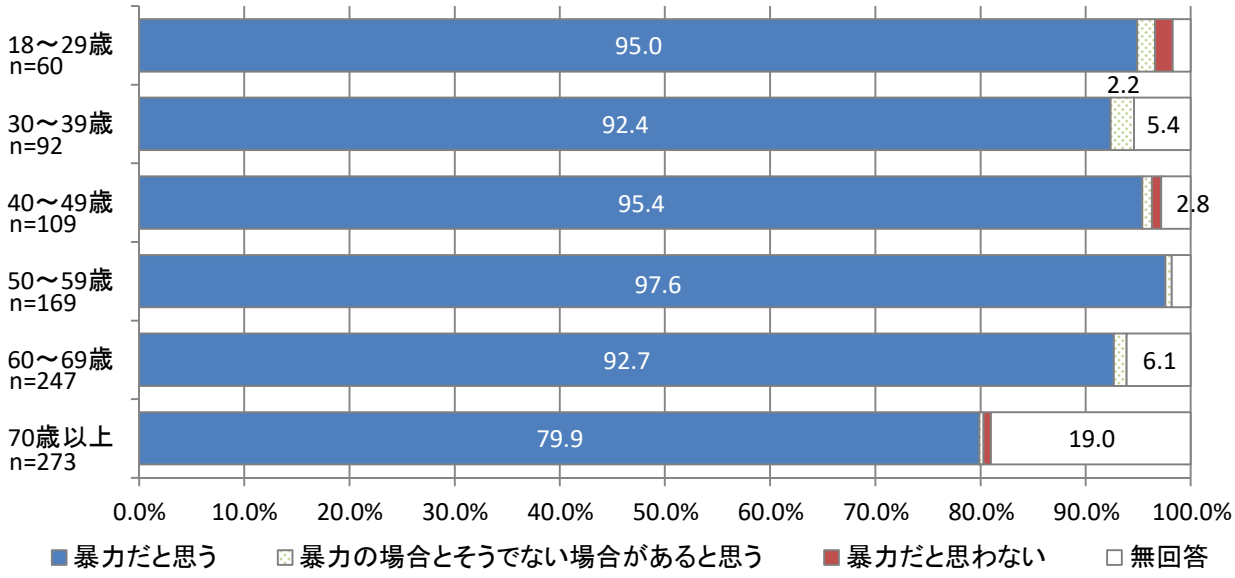
①性別



身体を傷つける可能性がある物等で殴ることについては、男女ともに、およそ９割の方が「暴力だと思う」と回答しています。

身体を傷つける可能性がある物等で殴る、の場合であっても「暴力だと思わない」と回答している方が“男性”では 0.3%（１人）、“女性”では 1.1%（６人）みられます。

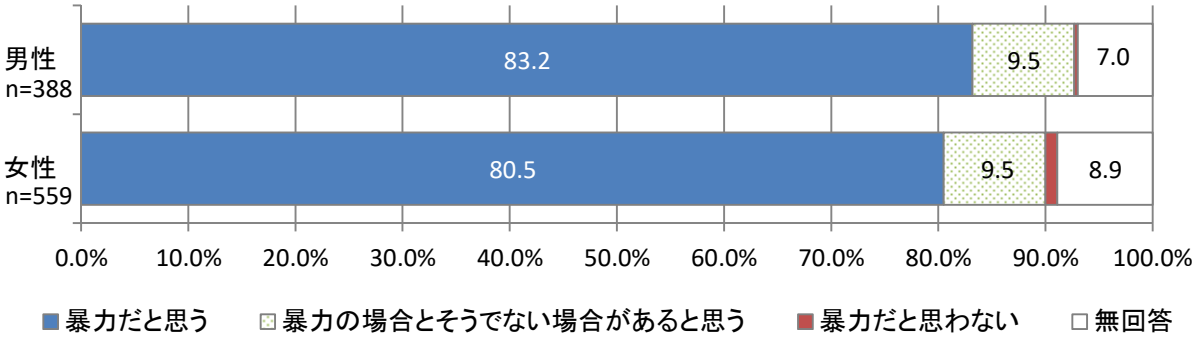
②年齢



“70 歳以上”以外では「暴力だと思う」が９割を超えています。“70 歳以上”では「暴力だと思う」は 79.9%となっています。

コ　相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する

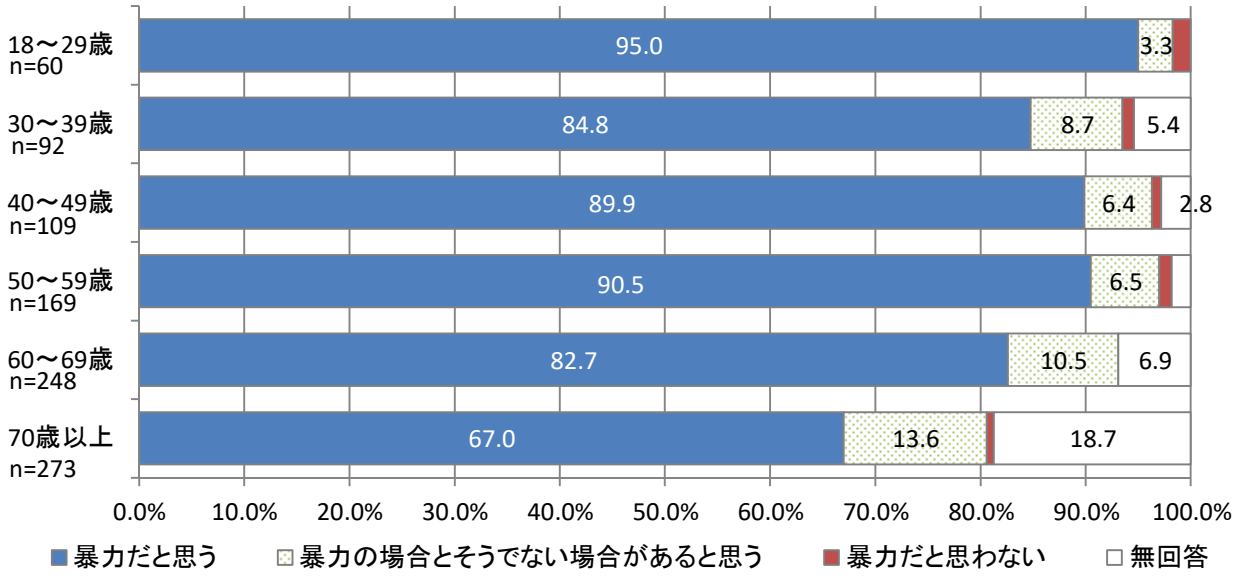
①性別



相手が嫌がっているのに性的な行為を強要することについては、男女ともに８割以上が「暴力だと思う」を占め、「暴力の場合とそうでない場合があると思う」は、男女ともに 9.5%（“男性”37 人、“女性”53 人）となっています。

「暴力だと思わない」は“男性”では 0.3%（１人）、“女性”では 1.1%（６人）となっています。

②年齢

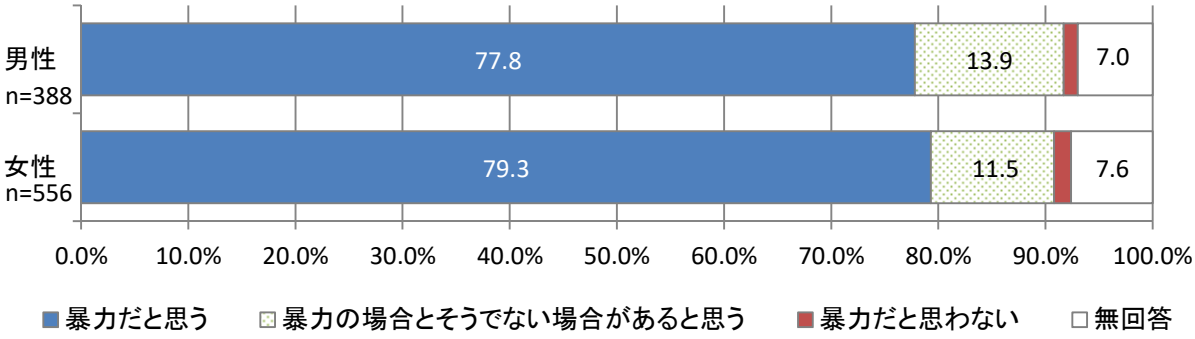


「暴力だと思う」が各年代で多くを占めていますが、“18～29 歳”と“50～59 歳”では９割以上、“30～39 歳”、“40～49 歳”、“60～69 歳”では８割以上、“70 歳以上”では 67.0%とばらつきがみられます。

「暴力だの場合とそうでない場合があると思う」が最も高いのは“70 歳以上”で 13.6%、次いで“60～69 歳”（10.5%）が１割を超えています。

サ　「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等という

①性別

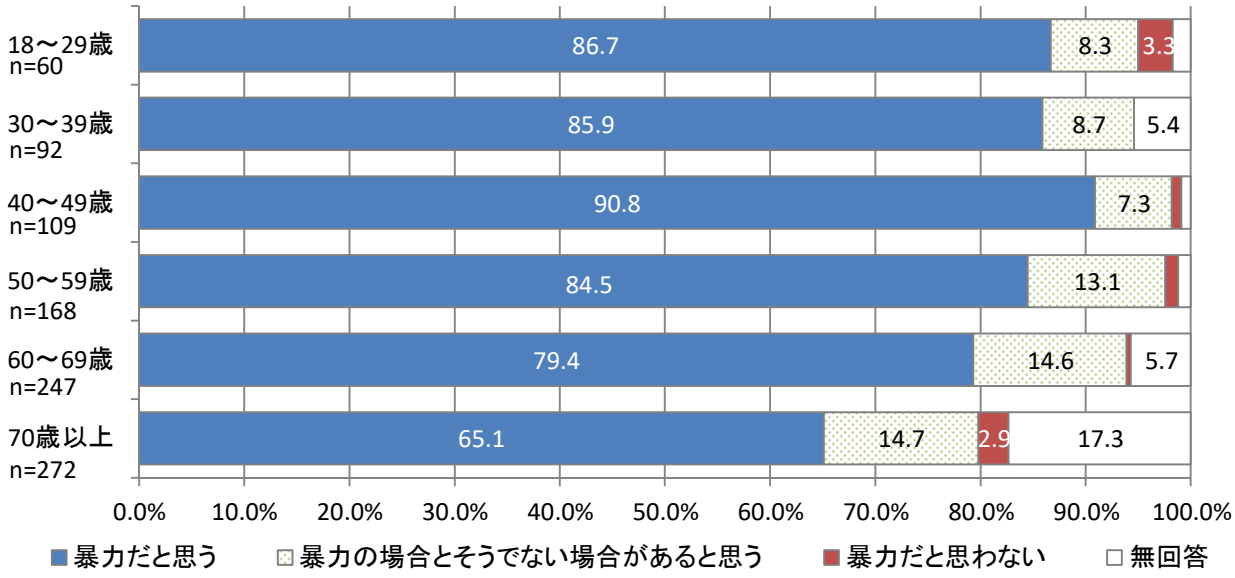


「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等ということについては、男女ともに７割以上が「暴力だと思う」と回答しています。

「暴力の場合とそうでない場合があると思う」は“男性”は 13.9%、“女性”は 11.5%です。

「暴力だと思わない」は、“男性”は 1.3%、“女性”は 1.6%となっています。

②年齢

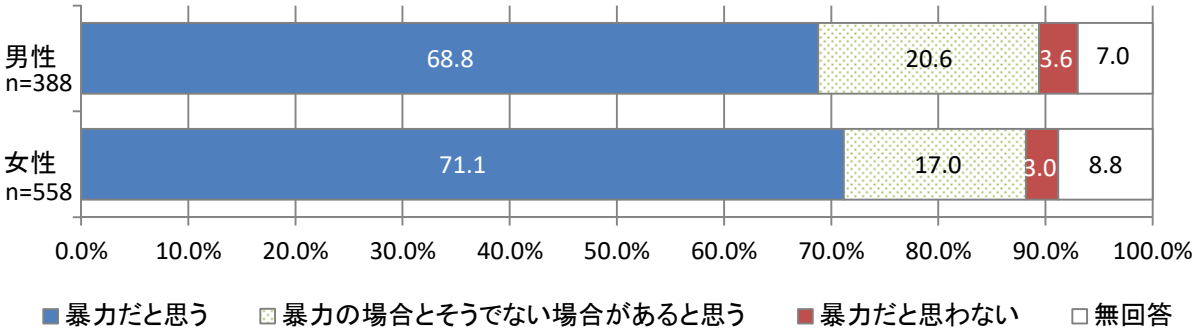


各年代で、「暴力だと思う」が多くを占めていますが、“50～59 歳”以下では８割以上を占めていますが、“60～69 歳”では 79.4%、“70 歳以上”では 65.1%と、ばらつきがみられます。

また、「暴力の場合とそうでない場合があると思う」は“70 歳以上”が最も高く 14.7%、次いで“60～69 歳”（14.6%）、“50～59 歳”（13.1%）の順で高くなっています。

シ　生活費を渡さない

①性別

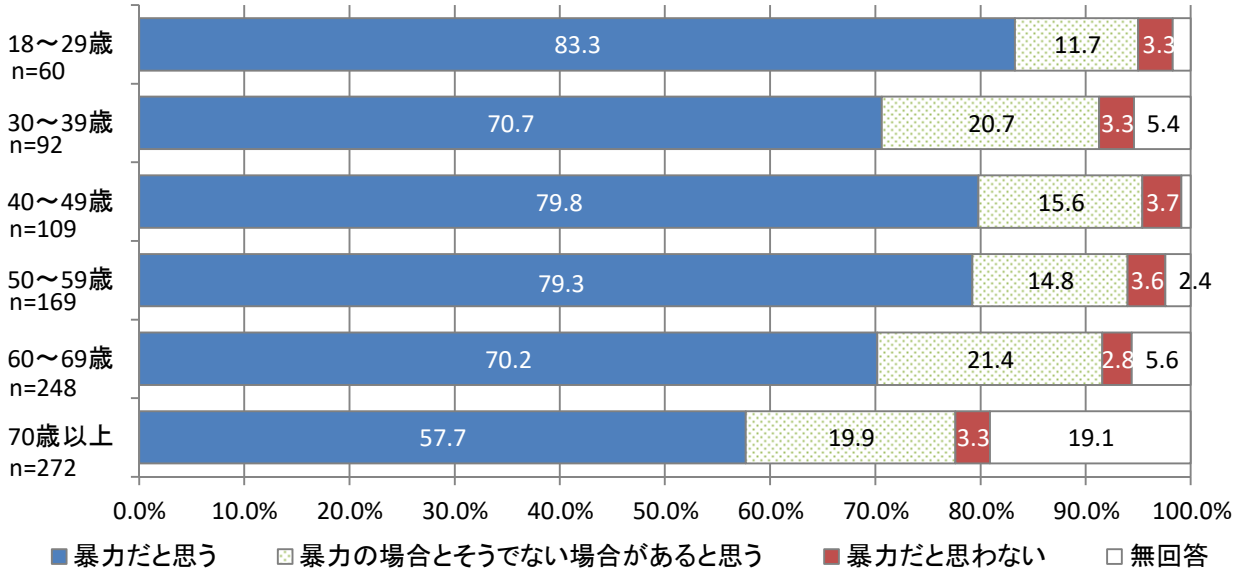


生活費を渡さないことについては、男女ともに７割前後の方が「暴力だと思う」と回答しています。

「暴力の場合とそうでない場合があると思う」は“男性”では 20.6%、“女性”では 17.0%みられます。

「暴力だと思わない」は“男性”で 3.6%（14 人）、“女性”では 3.0%（17 人）みられました。

②年齢



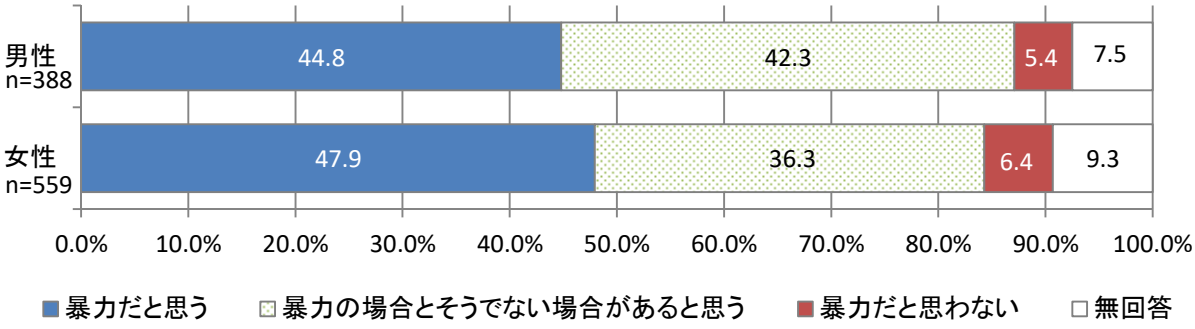
「暴力だと思う」は、“18～29 歳”では８割を超え、30 代～60 代までは７割、“70 歳以上”では 57.7%となっています。

「暴力の場合とそうでない場合があると思う」は“60～69 歳”は 21.4%が最も高く、次いで“30～39 歳”（20.7%）、“70 歳以上”（19.9%）の順で高くなっています。

「暴力だと思わない」は各年齢３%前後（各 10 人未満）となっています。

ス　友人・近所付合いなどの交流を制限する

①性別

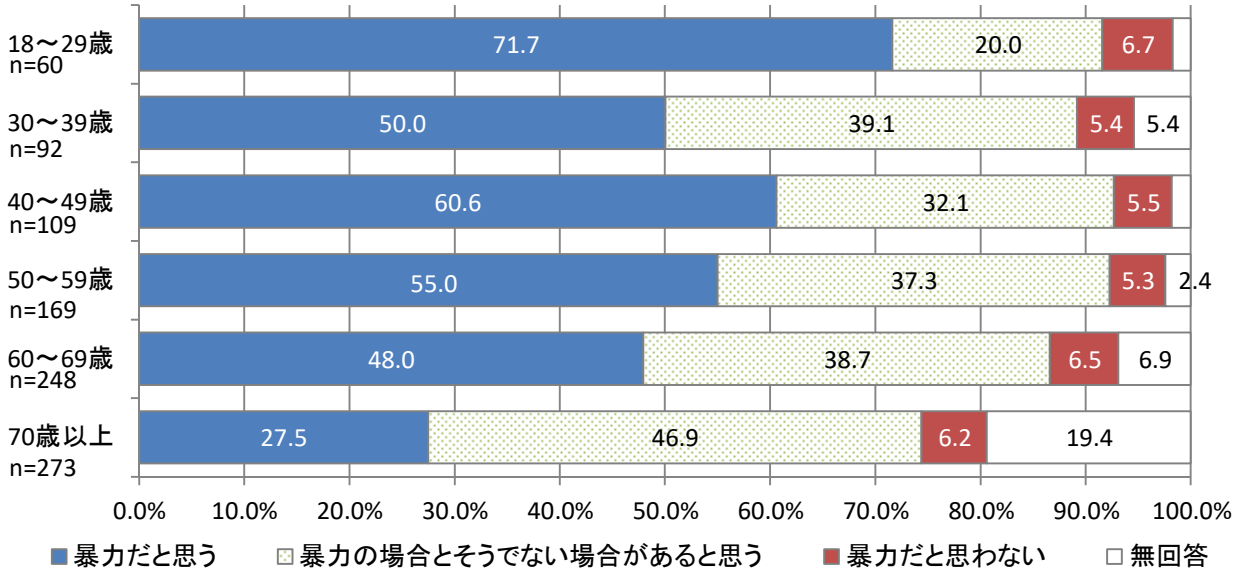


友人・近所付合いなどの交流を制限することについては、男女とも「暴力だと思う」は5割未満となっており、“男性”は44.8%、“女性”は“男性”より若干高く47.9%となっています。

「暴力の場合とそうでない場合があると思う」は、“男性”が42.3%と「暴力だと思う」の割合と大きな差がありません。“女性”は36.3%と、“男性”よりも6%低くなっています。

「暴力だと思わない」は“男性”が5.4%、“女性”は6.4%となっています。

②年齢



「暴力だと思う」は“18～29歳”で71.7%を占めています。次いで“40～49歳”が60.6%、“50～59歳”（55.0%）、“30～39歳”（50.0%）との順で高くなっています。60代以上では5割を下回っています。

特に“70歳以上”では「暴力だと思う」（27.5%）よりも「暴力の場合とそうでない場合があると思う」（46.9%）が上回っています。

配偶者や恋人の間での暴力については、「身体を傷つける可能性がある物等で殴る」や「刃物等を突き付けて脅かす」、「平手で打つ」、「足でける」等の実際に怪我を負うかもしれないような暴力については「暴力だと思う」が８割以上を占めて高い割合となっています。

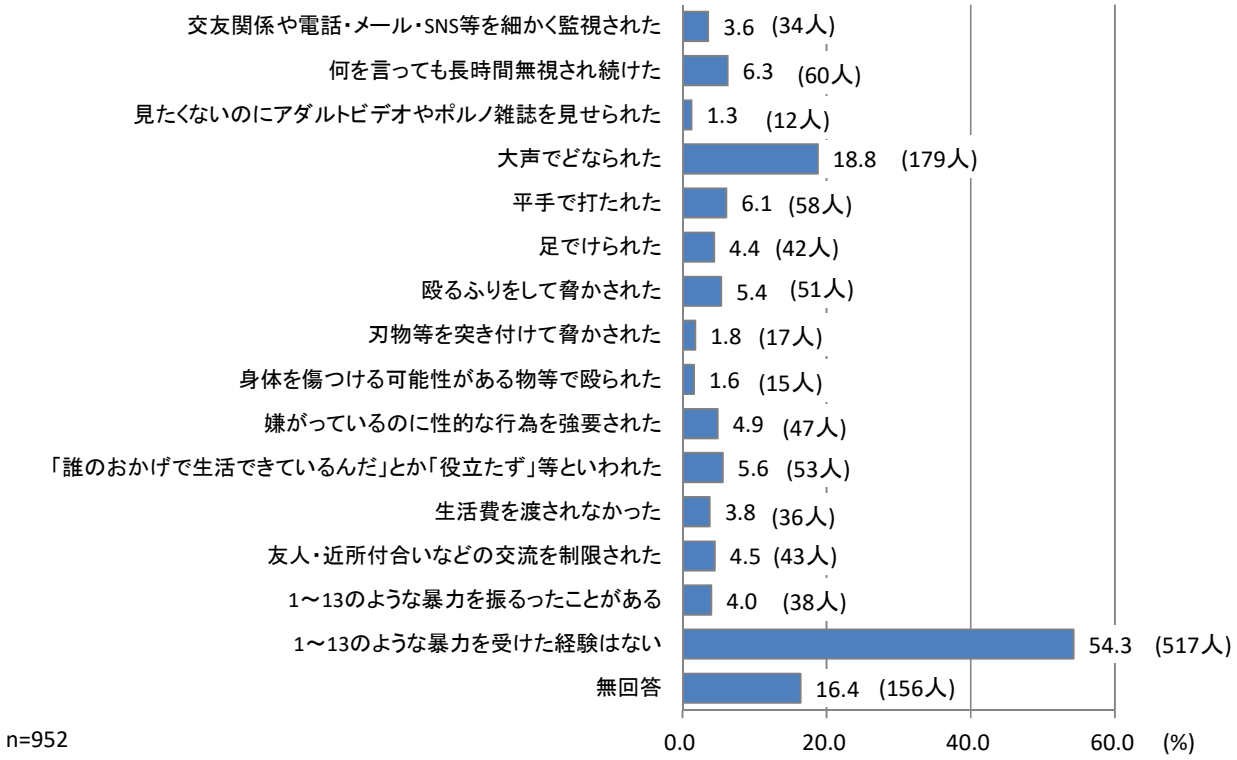
しかし、「生活費を渡さない」以外の怪我などの被害がない「交友関係や電話・メール・ＳＮＳ等を細かく監視する」、「何を言っても長時間無視し続ける」、「友人・近所付合いなどの交流を制限する」については「暴力だと思う」の割合が５割を下回っています。

年代でみると、全体的に50代以下では「暴力だと思う」割合が60代以上に比べると高く、特に“70歳以上”では「暴力だと思う」の割合が他の年代に比べて低い傾向にあります。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、全体的に「暴力だと思う」が増加している傾向にあります。特に「見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる」「大声でどなる」「「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等という」は「暴力だと思う」がそれぞれ 10%ほど上昇しています。

【問 23 で「１交友関係や電話・メール・ＳＮＳ等を細かく監視された」～「14　１～13 のような暴力を振るったことがある」のいずれかを選択した方】

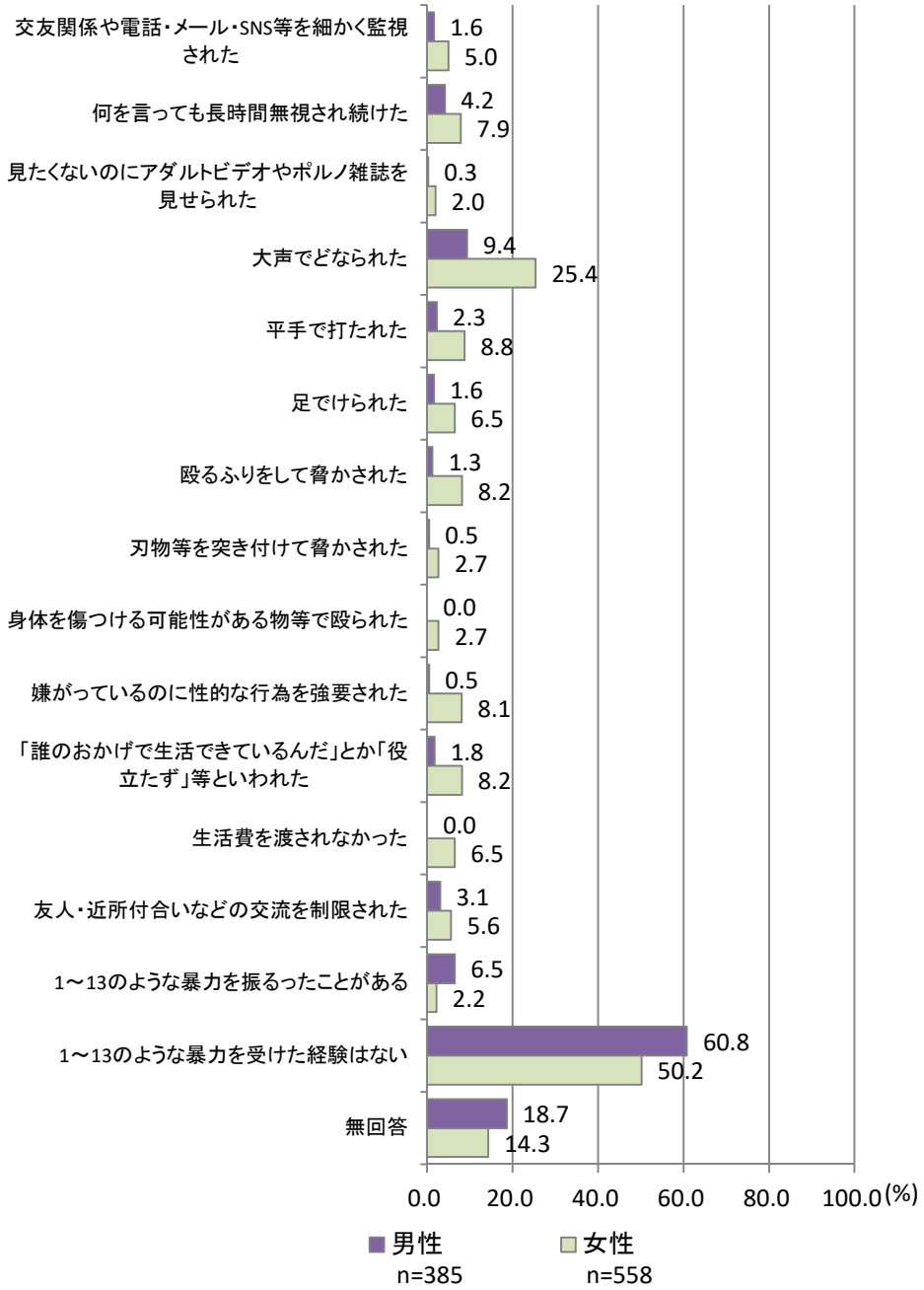
問 23　あなたはこれまで配偶者や恋人との間で、次のような行為を経験したことがありますか。
（○はいくつでも）



配偶者や恋人との間でのＤＶ経験について、最も多いのは「暴力を受けた経験はない」（54.3%）が半数以上を占め、暴力を受けたとの回答の中で最も多いのは「大声でどなられた」（18.8%）、「何を言っても長時間無視され続けた」（6.3%）、「平手で打たれた」（6.1%）の順で多くなっています。

身体的な暴力よりも、どなったり、精神的な暴力の方が高い割合となっていますが、中には身体を傷つける可能性がある程の暴力を受けたことがある方もみられます。

①性別

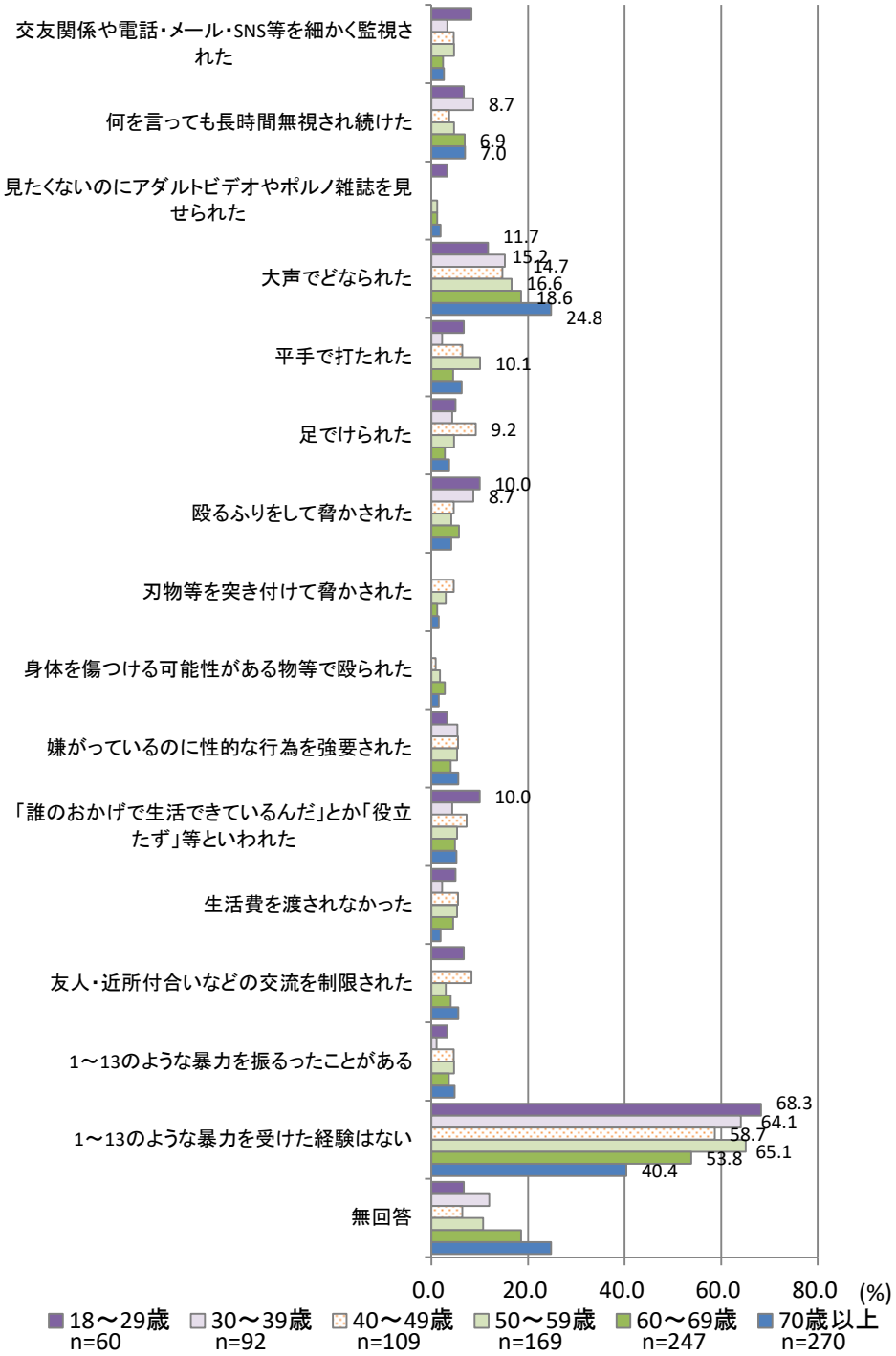


男女ともに「１～13 のような暴力を受けた経験はない」が半数以上となっています。

経験がない以外では、“男性”は「大声でどなられた」（9.4%）が最も高く、次いで「１～13 のような暴力を振るったことがある」（6.5%）、「何を言っても長時間無視され続けた」（4.2%）の順で高くなっています。

“女性”は「大声でどなられた」が最も高く 25.4%、「平手で打たれた」（8.8%）、「殴るふりをして脅かされた」と「「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等といわれた」（各 8.2%）の順で高くなっています。

②年齢



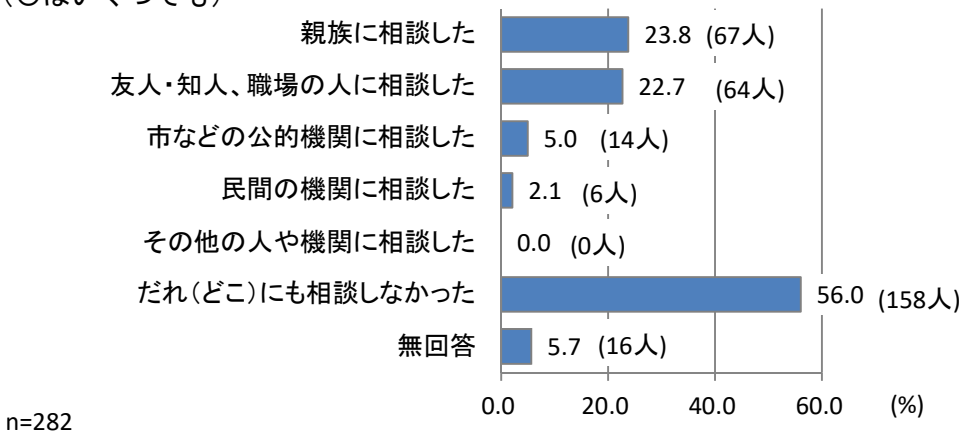
各年齢で「１～13 のような暴力を受けた経験はない」が最も高くなっており、“70 歳以上”以外では５割以上となっています。

経験はない以外では各年齢で「大声でどなられた」が 10%以上となっています。特に“70 歳以上”では 24.8%となっています。

配偶者や恋人との間でのＤＶ経験については、単純集計や各クロス集計でも「暴力を受けた経験はない」が最も高い割合となっています。60 代以下では５割以上が「暴力を受けた経験はない」と回答していますが、“70 歳以上”では 40.4%となっています。

暴力を受けた場合は「大声でどなられた」が最も高くなっています。特に、“女性”では 25.4%、“70 歳以上”では 24.8%となっています。

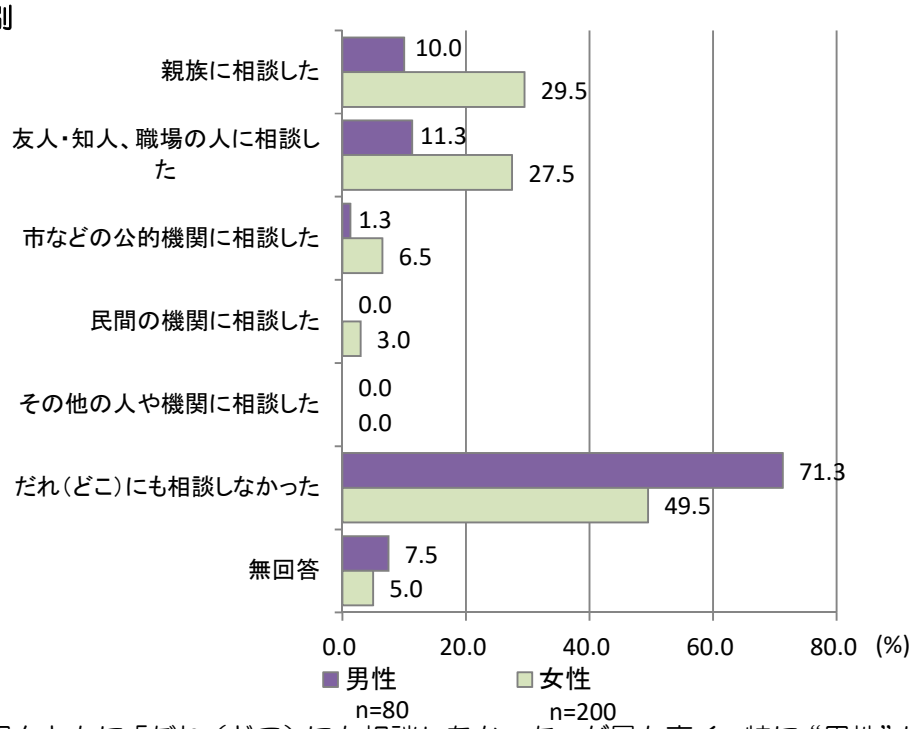
問 24　あなたはこれまで配偶者や恋人から受けた・ふるった暴力について、誰かに相談しましたか。
（○はいくつでも）



配偶者や恋人から受けた・ふるった暴力について相談したかどうかについては、最も多いのは「誰にも相談しなかった」（56.0%）が半数以上を占め、次いで「親族に相談した」（23.8%）、「友人・知人、職場の人に相談した」（22.7%）の順で多くなっています。

相談しない方が半数以上を占めていることから、相談することへのハードルを下げることが必要です。

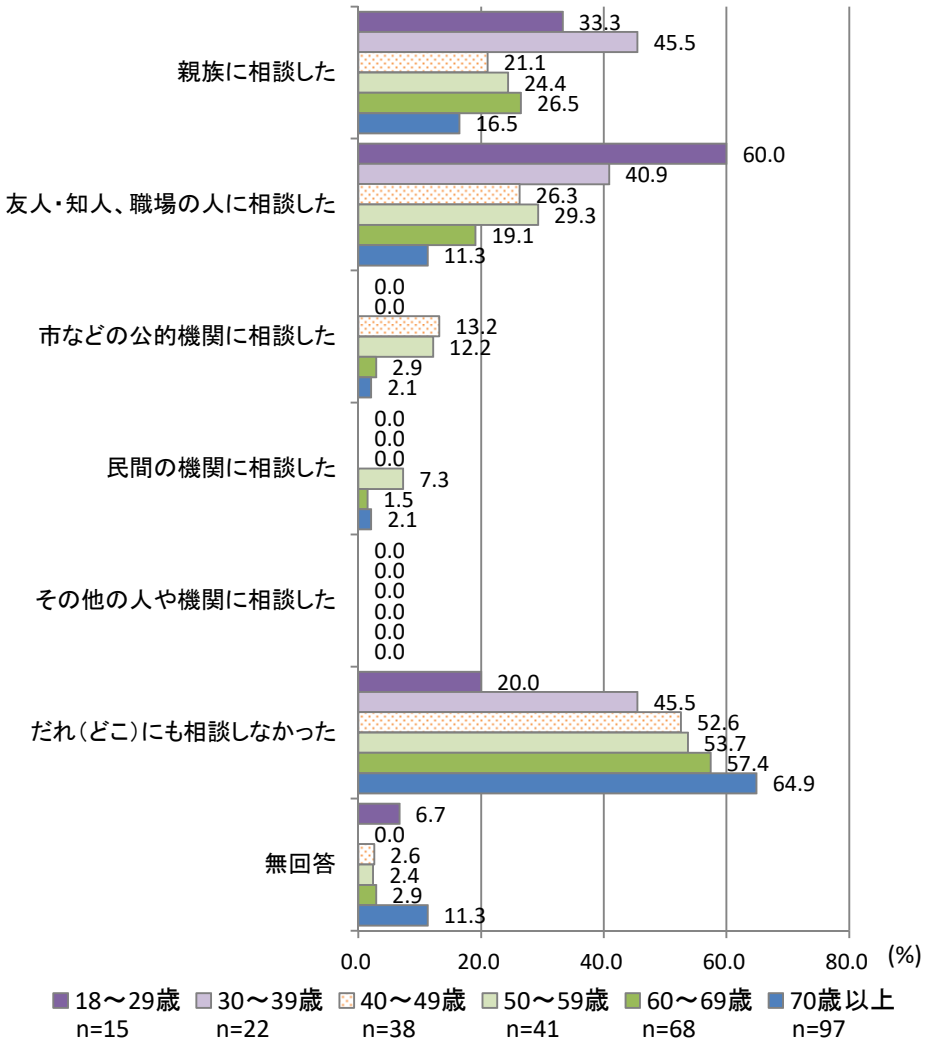
①性別



男女ともに「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高く、特に“男性”は 71.3%を占め、次いで「友人・知人、職場の人に相談した」（11.3%）、「親族に相談した」（10.0%）となっています。

“女性”は「だれ（どこ）にも相談しなかった」がおよそ５割、次いで「親族に相談した」（29.5%）、「友人・知人、職場の人に相談した」（27.5%）の順で高くなっています。

②年齢



“18～29 歳”以外では「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高く、特に“70 歳以上”では 64.9%を占めています。

“18～29 歳”では「友人・知人、職場の人に相談した」が最も高く 60.0%、次いで「親族に相談した」（33.3%）、「だれ（どこ）にも相談しなかった」（20.0%）の順で高くなっています。

“30～39 歳”では「親族に相談した」が「相談しなかった」と同じ割合で最も高く、次いで「友人・知人、職場の人に相談した」の順で高くなっています。

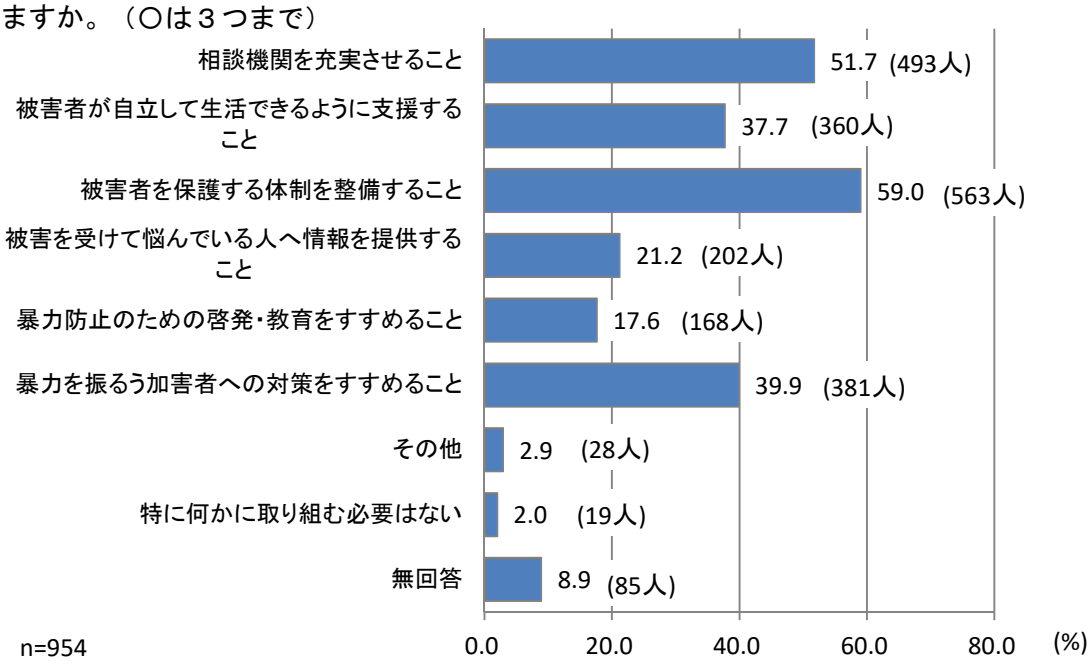
60 代以上は「相談しなかった」の次に「親族に相談した」が高く、次いで「友人・知人、職場の人に相談した」の順となっていますが、40 代から 50 代は「友人・知人、職場の人に相談した」に次いで「親族に相談した」が高くなっています。

配偶者や恋人から受けた・ふるった暴力について相談したかどうかについては、“18～29 歳”以外では「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高い割合となっています。特に“男性”71.3%、“70 歳以上”では 64.9%が高く、相談をする相手や機会が他に比べて少ないのではないかと考えられます。

“18～29 歳“では「友人・知人、職場の人に相談した」が最も高く 60.0%、次いで「親族に相談した」（33.3%）、「だれ（どこ）にも相談しなかった」（20.0%）の順で高くなっており、他の年代に比べて、相談することをためらう方の割合が低いことが分かります。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、「親族に相談した」が減少し、「友人・知人、職場の人に相談した」「だれ（どこ）にも相談しなかった」が増加しています。特に「だれ（どこ）にも相談しなかった」はおよそ 10%上昇しており、より一層、相談機関や相談機会について広く知ってもらう必要があり、また相談方法、相談体制の検討も重要であると考えられます。

問 25　あなたは配偶者や恋人からの暴力に対する取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



配偶者や恋人からの暴力に対する取り組みとして必要なことは、最も多いのが「被害者を保護する体制を整備すること」（59.0%）、次いで「相談機関を充実させること」（51.7%）の２つが半数以上を占め、「暴力を振るう加害者への対策をすすめること」（39.9%）の順で多くなっています。

○その他（抜粋）

「加害者をつくり出さないよう、考え方・家庭環境等の改善。」（５人）

- 加害者がそうなってしまう様な、幼少期の環境など様々な要因があるかと思うので、家庭環境の改善や生活者の改善などかと思います。
- 私の経験では姑が息子を DV するような性格に育て上げている。今現在の問題もあるが、本当に解決するには子育て中に人としての良し悪しの判断がつくように、自分は何をやっても特別に許されると勘違いしないように育てないといけない。

「警察が介入する等、法権力の強化。」（３人）

- 警察権で取り締まる。
- 対策が甘すぎる。法権自体が甘すぎる。

「相談機会や相談環境の改善。」（２人）

- あまり人に言いたくないので相談しないのでしょうね。ネットなどで簡単に相談出来きると良いと思う。
- 相談しやすい環境をつくる。

「自分が被害者にならないような意識付け。」（２人）

・抵抗できる自尊心を持つ。自尊心を持つように育てる。

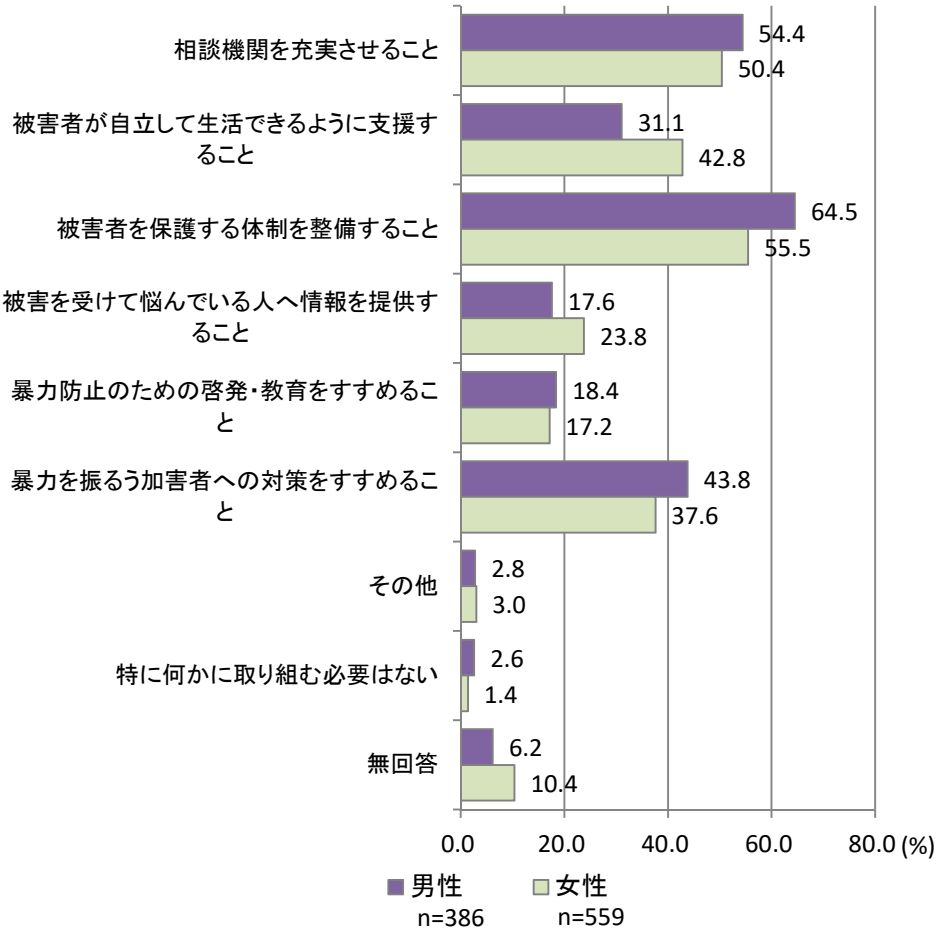
・人に頼らない。逃げる。性格による事も考える。

「その他」（９人）

・加害者への被害者の情報が流れないよう、各機関等の教育、研修を行うこと。

・相手だけが悪い訳ではないと思う。

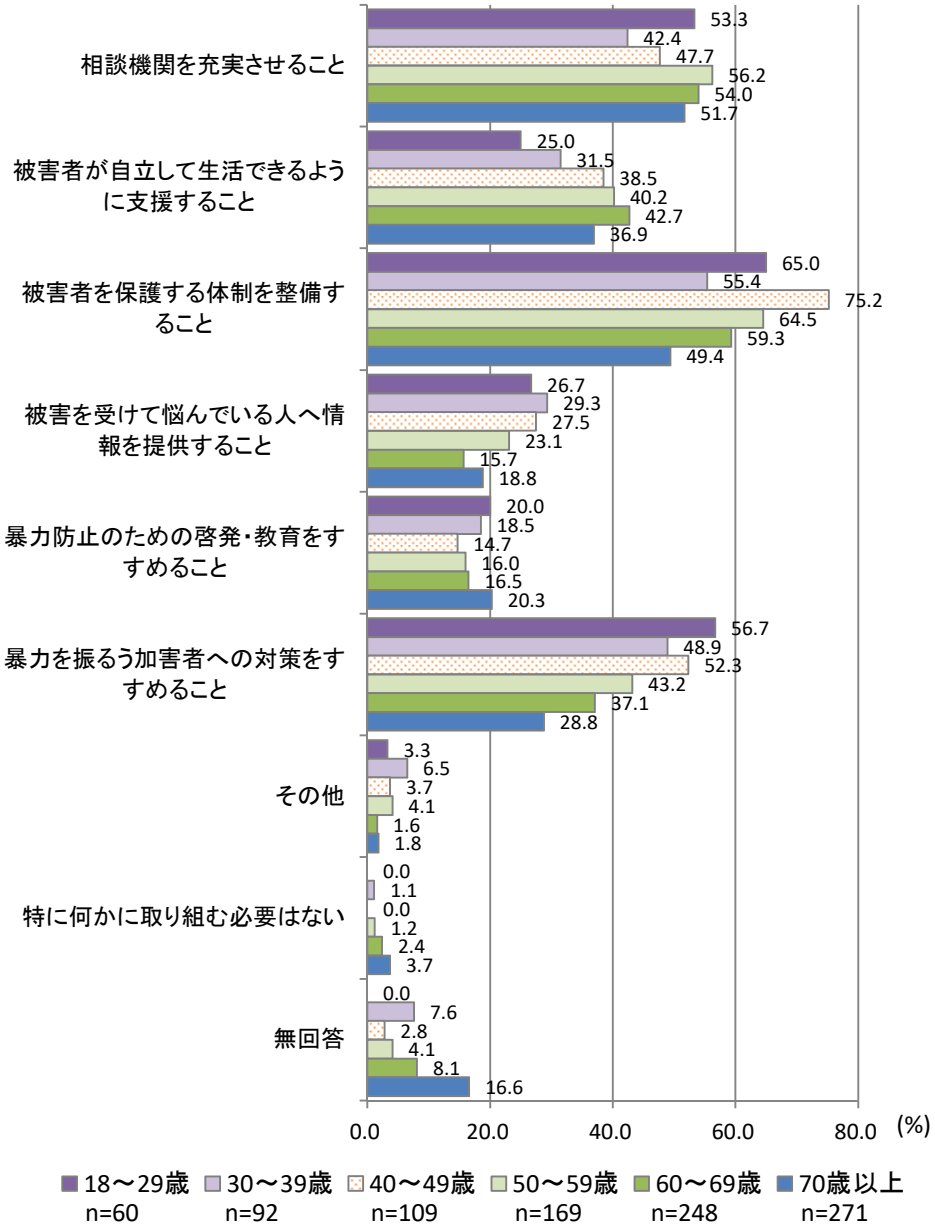
①性別



男女ともの「被害者を保護する体制を整備すること」が最も高く、次いで「相談機関を充実させること」の順で高くいずれも半数以上を占めています。

“男性”は３番目に「暴力を振るう加害者への対策をすすめること」、“女性”は「被害者が自立して生活できるように支援すること」が高くなっています。

②年齢



“70 歳以上”以外では「被害者を保護する体制を整備すること」が最も高く、いずれも半数以上を占めています。

40 代以下では２番目に「暴力を振るう加害者への対策をすすめること」が高く、次いで「相談機関を充実させること」が高くなっています。

“50～59 歳”では、２番目に「相談機関を充実させること」、次いで「暴力を振るう加害者への対策をすすめること」が高くなっています。

“60～69 歳”では、２番目に「相談機関を充実させること」、次いで「被害者が自立して生活できるように支援すること」の順で高くなっています。

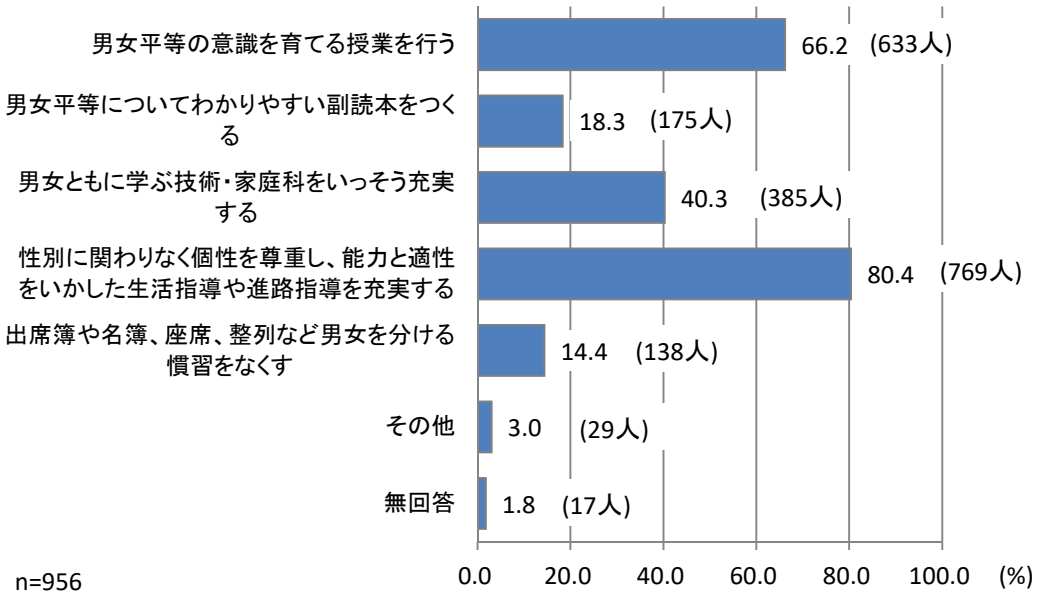
“70 歳以上”では「相談機関を充実させること」が最も高く、次いで「被害者を保護する体制を整備すること」、「被害者が自立して生活できるように支援すること」の順で高くなっています。

配偶者や恋人からの暴力に対する取り組みとして必要なことは、単純集計や各クロス集計でも“70歳以上”以外では「被害者を保護する体制を整備すること」が半数以上を占め、最も高くなっています。40代以下では「相談機関を充実させること」よりも、「暴力を振るう加害者への対策をすすめること」が2番目に高くなっており、50 代以上では「相談機関を充実させること」の他に「被害者が自立して生活できるように支援すること」も高くなっています。

前回調査結果（平成27年度）と比べると、「被害者を保護する体制を整備すること」、「被害者が自立して生活できるように支援すること」が特に増加しており、被害者のケアについて必要だと考えている方が増加している傾向がうかがえます。

６．今後の取り組みについて

問 26　女性と男性が平等な関係をつくっていくために、あなたは教育の場でどんなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



女性と男性が平等な関係をつくっていくために教育の場で必要なことは、最も多いのが「性別に関わりなく個性を尊重し、能力と適正をいかした生活指導や進路指導を充実する」（80.4%）、次いで「男女平等の意識を育てる授業を行う」（66.2%）、「男女ともに学ぶ技術・家庭科をいっそう充実する」（40.3%）の順で多くなっています。

○その他（抜粋）

「相手を尊重する教育をする。」（５人）

・男女より、人としてどうかの教育の方が大事だと思う。
・相手の考え気持ちを尊重し助け合いの精神を持つ事が互いに大切にする。

「男女の違いを理解した上で、助け合う教育。」（５人）

・体や脳のつくりはそれぞれ違うので、男女に差があるのは当たり前である。優劣をつけるのはなく、何に適しているのかを、何ができるのかを理解させること。そうすればお互い助け合える。
・男女の体の仕組みによって生じる問題をお互いに理解する。

「家庭での教育を変える。」（２人）

・家庭の中で生活環境も大切なので保護者への啓発活動を充実させる。
・力では女は弱いので、子どもの頃から親の教育にあると思います。

「その他の教育のあり方を変える。」（４人）

・先生方の意識改革が必要だと思う。子どもたちはちゃんと大人の行動を見ています。

・フランスの制度を見習う。

「男女平等は無い。」（２人）

・本当に平等を通すには難しいと思っている。力の違いや優れているものの違いがある為。

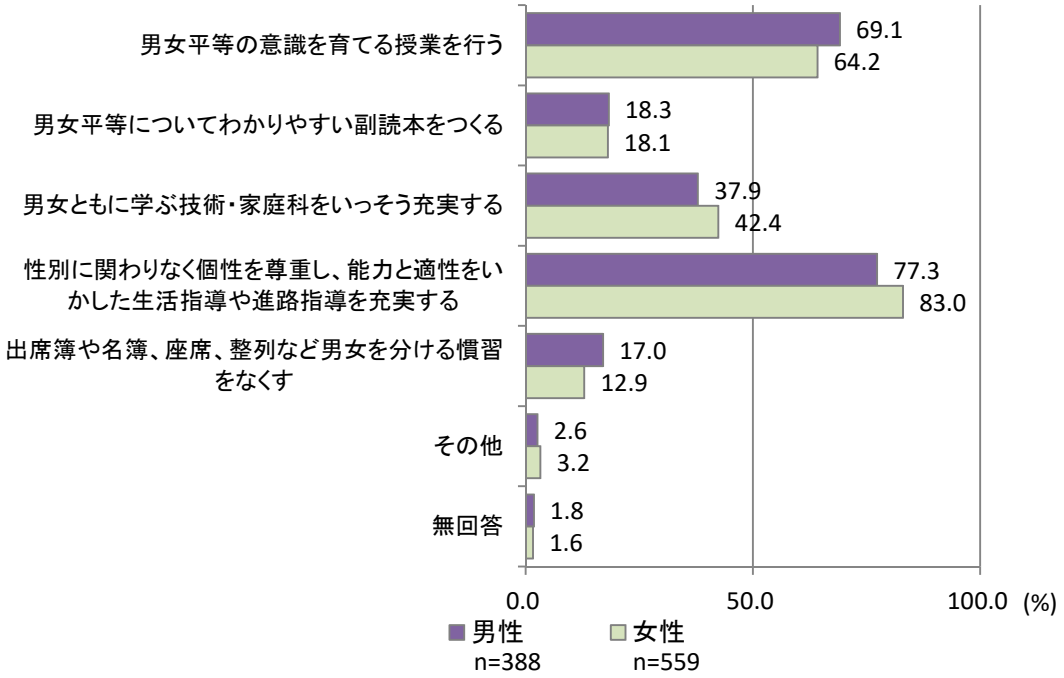
・平等なんて無いと教える。

「その他」（６人）

・育児面での分担だと思う。

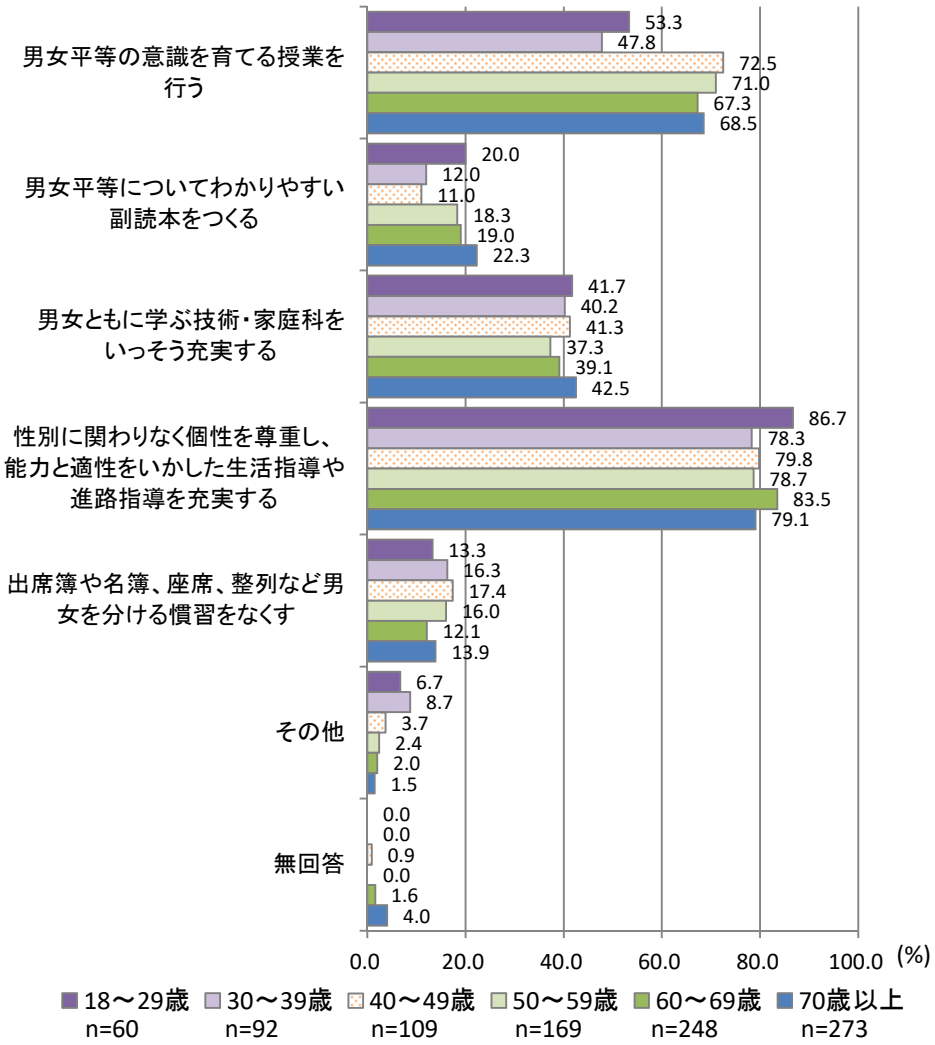
・能力に応じた出世、昇給を分け隔てなくする。

①性別



男女とも「性別に関わりなく個性を尊重し、能力と適性をいかした生活指導や進路指導を充実する」が最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業を行う」、「男女ともに学ぶ技術・家庭科をいっそう充実する」の順で高くなっています。

②年齢

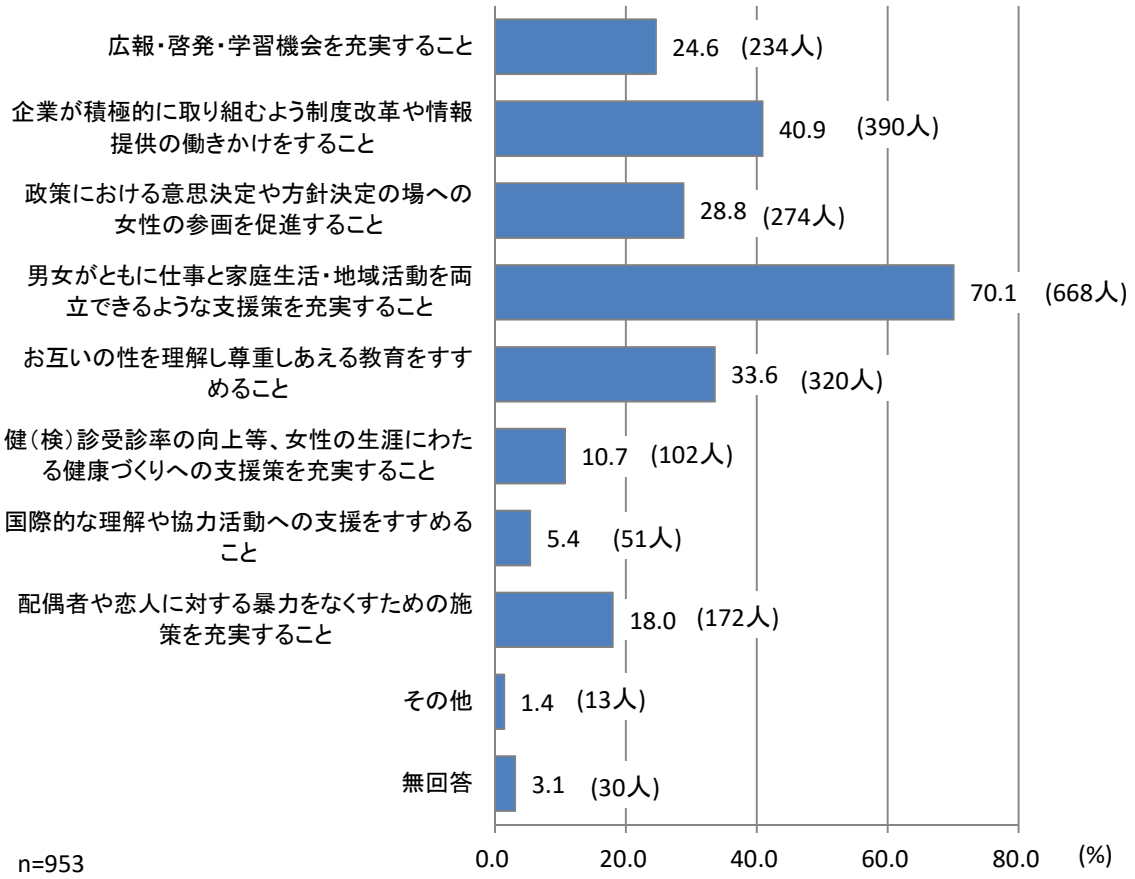


各年代で「性別に関わりなく個性を尊重し、能力と適性をいかした生活指導や進路指導を充実する」が最も高く７割以上を占め、次いで「男女平等の意識を育てる授業を行う」、「男女ともに学ぶ技術・家庭科をいっそう充実する」の順で高くなっています。

女性と男性が平等な関係をつくっていくために教育の場で必要なことは、単純集計や各クロス集計をみても「性別に関わりなく個性を尊重し、能力と適正をいかした生活指導や進路指導を充実する」が最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業を行う」、「男女ともに学ぶ技術・家庭科をいっそう充実する」の順で高い割合となっています。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、「男女平等の意識を育てる授業を行う」「性別に関わりなく個性を尊重し、能力と適性をいかした生活指導や進路指導を充実する」が特に増加しています。

問 27　あなたは男女共同参画社会を形成していくために、今後国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。（○は３つまで）



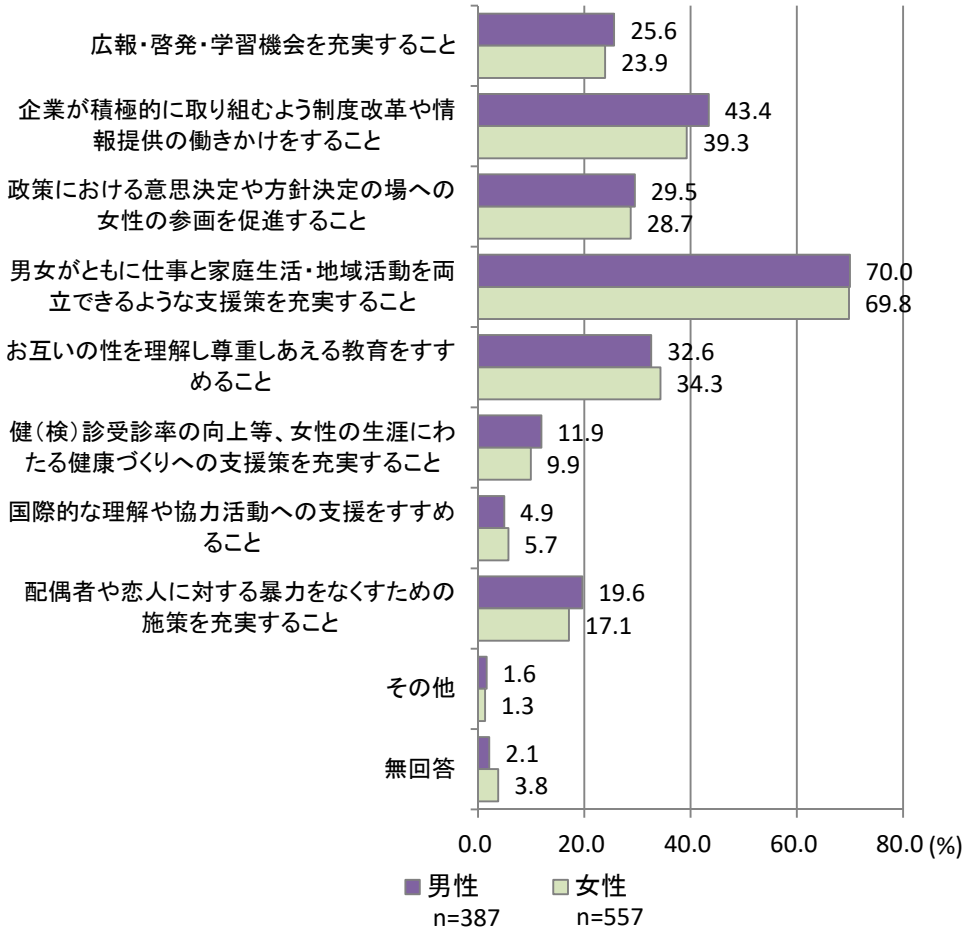
男女共同参画社会を形成していくために、今後国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことは、最も多いのが「男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策を充実すること」（70.1％）が７割を占め、次いで「企業が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」（40.9％）、「お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること」（33.6％）の順で多くなっています。

男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策が突出していることから、家事育児への支援サービスの充実等の実施が求められていると考えられます。

○その他（７人）

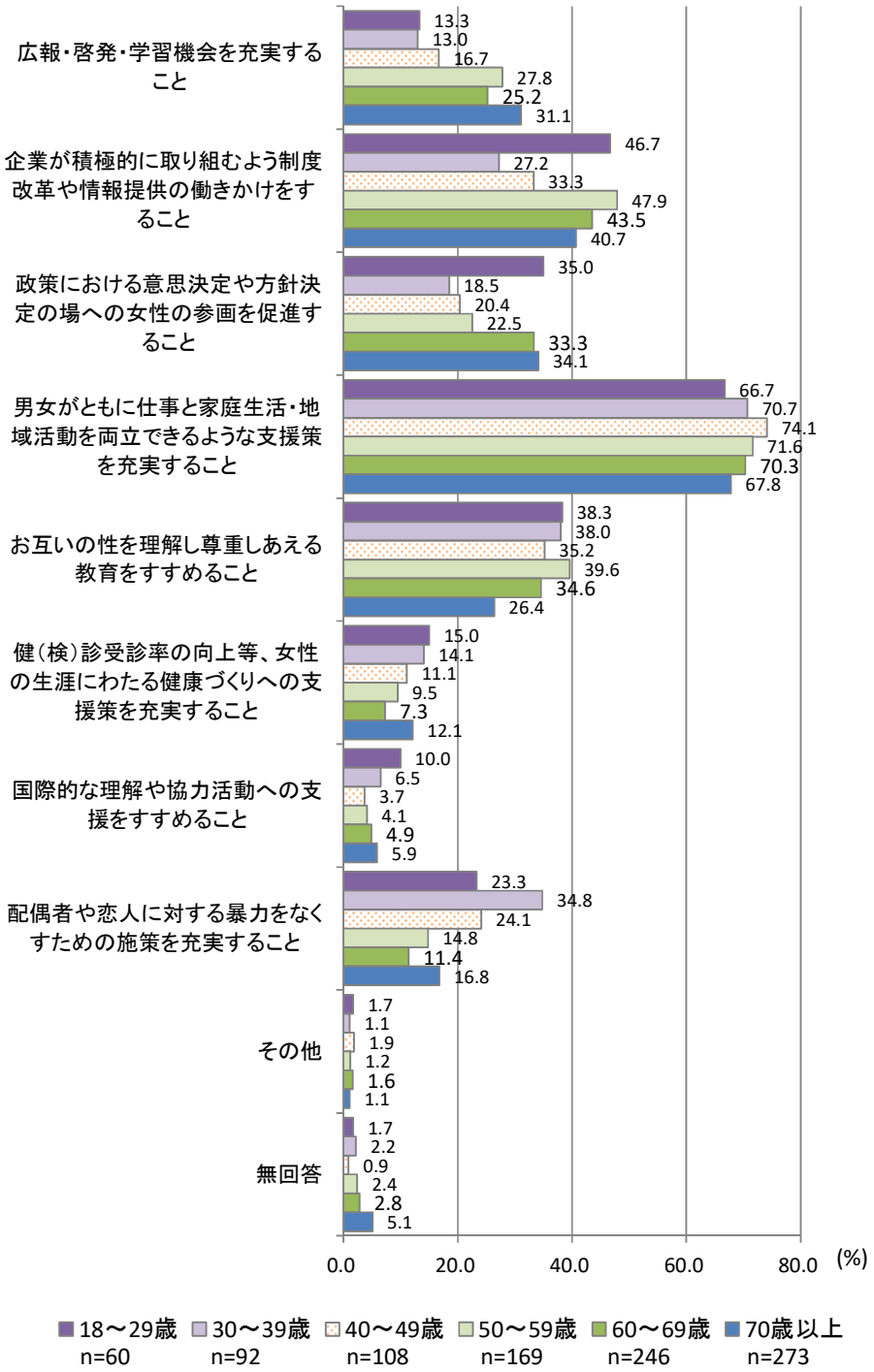
- 自分を守る為の努力も必要だと思う。
- 男女共同参画は全て平等ではなく筋力的、身体的の仕組みなど理解と思いやりが重要だと思もう。
- 自治体職員自体、女性の社会的地位が低すぎるので、変えていくべきです。
- 男女はもちろん LGBT の方への理解も大切。男女ではなく、人として個々を大切にする社会になる為の活動をすること。
- 暴力をふるう人、ふるわれる人への教育をすること。
- 形成の段階であれば他地域、他国を見てみる。
- 難しくてわかりません。

①性別



男女ともに「男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策を充実すること」がおよそ７割を占め、次いで「企業が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」、「お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること」の順で高くなっています。

②年齢



各年齢で「男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策を充実すること」が最も高くなっています。次いで「企業が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」と「お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること」が高くなっていますが、“30～39 歳”では３番目に「配偶者や恋人に対する暴力をなくすための施策を充実すること」が、“70 歳以上”では「政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進すること」が高くなっています。

男女共同参画社会を形成していくために、今後国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことについては、単純集計や各クロス集計をみても「男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策を充実すること」が最も高くなっています。

また、２番目に「企業が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」が高い傾向にあります。

まずは目の前の仕事と家庭生活・地域活動を両立させたい、そのためには就業先の制度を改革し、ワーク・ライフ・バランスを大事にしたいと考えている方が多いためと考えられます。

３番目には多くの場合「お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること」が高くなっていますが、“30～39 歳”では３番目に「配偶者や恋人に対する暴力をなくすための施策を充実すること」、“70 歳以上”では「政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進すること」が高くなっています。

「政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進すること」は単純集計や各クロス集計でも４番目～５番目の優先度になっており、政策における意志決定や方針決定の場よりも、より身近な仕事と家庭生活・地域活動を重要視していることが伺えます。

前回調査結果（平成 27 年度）と比べると、「企業が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」「男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策を充実すること」が特に増加していることから、前回と比べ重要度が増していることがうかがえます。

問 28　東日本大震災や台風などの災害に関連して、性の違いによる差別や無理解・不都合なことを感じたことがありましたら、その内容をご記入下さい。

〇自由記述（抜粋）

「トイレや着替えの場所等、避難所の環境について」（16 人）

- 災害時に避難所での男女の囲いがなく、特に女性の着替え等に必囲いが出来るものが必要である。
- 避難所において、女性用のトイレが少なかったように思う。
- 避難所でなど緊急時では、トイレ、洗面、入浴等はエリアを完全に分けるなどして、完全に男女別にして欲しい。

「支援物資について」（８人）

- 避難所で支援物資の生理用品を配布する係が男性だった。（しかも近所の方）「必要な方は申し出て下さい」と言われても言いにくくて困った。
- 避難所で、食料品などを支給する物資は、女性と子どもが優先という時があった。男女共同であれば子ども、老人がまず優先だと考えます。
- 被災者ではありませんが、災害当初、女性、乳幼児への配慮が足りないと感じました。食糧、水等と同じ位必要な物資があります。やはり、女性の目での支援物資配給が重要だと思います。

「男女問わず助け合うことができた」（６人）

- 水、電気のない不便な生活の毎日で、日々暮らすのが精一杯で、皆、協力的だったと思います。
- 東日本大震災では余りそういうのを感じません。皆が必死で助け合っていましたので。
- 感じた事はありません。人間皆平等。3.11、台風 10 号、19 号、被害者です。

「職場の対応について」（５人）

- 東日本大震災に関連して、当時、定員がある職場に就労していた。災害時「この場所に男性が居たら」と思う事が多々ありました。
- 職場でのセクハラやパワハラ等。
- 職場の対応が無かった。もっと対応を早くして欲しい。

「性別的な規範や固定観念を感じたことについて」（４人）

- ボランティアをする際、「男性は外で泥かき、女性は室内で拭き掃除」のような固定観念がセンター側にあった。室内で物を動かさないといけない場合は男性の力も必要だし、外でも男女関係なく人手が必要な場合もある。偏ったチーム分けにせず協力し合って活動する事を考えたらいいと思った。
- 自分ではないのですが、長く避難所にいる人達を見かけた時に言い合いをしている女性達が

いました。3 度、3 度の食事の仕度に来る人、来ない人だと思いましたが、女性だけに負担がかかってストレスだと思いました。

「性犯罪やその被害に関して」（３人）

- 男性による性暴行への恐怖等。
- 避難所では女性一人で行動しないようにと注意されていて、なんだか怖かった。

「妊婦、赤ちゃんや子ども連れの方への配慮について」（２人）

- 赤ちゃん連れのお母さんたちのための授乳室や女性の着替え等、男性の目から分離する場所が必要だと感じました。
- 避難所生活において妊婦に対して配慮が足りないと感じた場面があった。

「男女の能力によって避難所での役割分担をすればよい」（２人）

- 力仕事や夜間当番など、性別、個人差が出てしまう場面では、皆平等ではなく可能であれば状況に応じて対応できる環境づくりが必要だと思う。
- 災害に関係した状況だと、やはり男性の負担が大きくなるのは仕方ない事だと思う。こういう場合は男女平等というより、男、女の役割分担は必要だと思う。

「被災しなかった、避難所に行かなかった」（５人）

- 災害を受けなかった事から特に記す事はありません。一人世帯の方々はどの場においてもご苦労なさっていると思います。この様な方への支援は大事だと思います。
- 避難所での生活をした事がないので、色々な問題があるのに、この内容を見て性の違いや差別等あるのに改めてビックリしました。

「その他」（15 人）

- 震災の時の避難所での生活は地獄でした。いろんな方々が居て、お互い助け合う、といった気持ち、心が欠けている様で、リーダーシップの取れない人間や「男も女もひどかったが」と公営住宅に移った女性の方も言っていました。避難所では人間同士の生活の事が、これからの課題だと切に思います。
- 職場で震災時、お掃除の業者さんが来ない 9 か月程、業務の合間に男女関係なく職場の掃除をしました。最初は女性が行っていのですが男性もするようになり、トイレも男性用は男性が掃除するようになりました。掃除をしていた男性は 50 代、若い世代の方が手を出さないようでした。若い世代の方が性差別について考えてほしいと思います。
- 感じる余裕がなかった。

問 29　宮古市が男女共同参画に関する施策をすすめるうえで、市へのご意見・ご要望がありましたら自由にご記入下さい。

〇自由記述（抜粋）

「男女平等とはどのような姿なのかを示す、改めて考えるべきである」（18 人）

- お互い、男だから、女だからではなく男女が気兼ねなくやっていける様な社会になれば良いと思っています。
- 男女の格差是正には、男か女かではなく、前提となる人としての尊厳への深い理解が不可避に思います。人としての本質を見失わずに協力し合える施策を要望します。
- 男なら女ならこうあるべきである、という潜在意識は少なからず誰にでもあると思います。その意識を人間として、こうあるべきという方向に市全体で改革するべき時代だと思います。

「企業が考えを改め、社会制度を充実させなければならない」（17 人）

- 子育て中ですが、子どもに何かあった時などに仕事を休みお世話をするのが女性になってしまう事が多いので、企業も理解して子育てしながら働きやすい環境や制度がもっと整うとありがたいです。
- 保育所、放課後クラブの充実があると良いと思います。中小企業の労働環境の監査、指導が必要だと思います。
- 働きながら子育てをしている世代は大変だと思うので、若い世代を応援する施策をお願いします。

「家庭や学校で子どもの頃から男女平等の教育をすることが必要である」（12 人）

- 男だから女だからという考えは子どもを育てる親が子に教えているのではないかと感じます。まず、子育ての所から男女の差別をなくし、子育て世代の男女の差別をなくすというのも良いのではないかと思います。数年前に仙台から転入してきましたが男だから女だからという考えは田舎の方が強いです。
- 小さい頃から、男子、女子お互い思いやりの気持ちが持てるように家庭、学校で取り組んでいく事が大切だと思います。男女共同参画というより、家庭で取り組むのがいいかなと思います。
- 男女共同社会の構造には長期間を要するため、子どもの頃からの教育、社会全体の理解、考え方が必要と思う。

「市の男女共同参画の取り組みを PR や、啓発をするべきである」（11 人）

- 機会があるごとに市民に市の取り組みを PR していく事が必要と思われる。
- 広報等に取り上げられているのかもしれませんが、今回のアンケート調査で、宮古市の男女共同参画の事業を初めて知りました。気付かずいました。今後、興味（関心）をもって取り組み状況を見ていきたいと思います。また、関心をもってもらえるようにアピールしてください。
- 女性がかかえる問題は、様々あると思います。全ては一度に解決は出来ないでしょうが、ひとつひとつ解決して下さい。DV 被害者は自分を被害者と思っていない方も多いのは。「暴力」という言葉での広報は気付いてほしい人に伝わりにくいのではないかと考えます。

「女性の登用や、役職や職員等の男女同率を目指してほしい」（８人）

- この先、女性の市会議員の数が多くなったり、女性も副市長に起用されたりする事により今以上に男女共同参画の意識がもっと高まるのではないかと考えます。
- 議員、町内会理事等に半分程度の女性の方の人数を配分し、女性を中心とした商店街のお祭り等のイベントを企画し参加しやすいようにすると良いと思う。継続する事が大事であり、「おばちゃんの店」→農産物、食、趣味。学校行事等にもお母様、おばあさん、成人したお姉さんが参加出来るようにすると良いと思う。
- 人は経験により、能力をアップできると考えるので、公の職場で男女同数とし、能力により昇給、昇格を平等にすると良いと思う。公の職場でうまくゆけば民間にも拡大できる。子どもへ生活補助を増加させると良いと思う。

「男女共同参画、男女平等に関する講習会等イベントを開催するべきである」（７人）

- 勉強会を開催して欲しいです。
- 男女共通のイベント等を企画する事などした方が良いと思う。
- 最近は、男女共同参画に関する講演や記事等に触れる機会が少なくなっています。ただ、ある時期、勉強したり、関わったりした事自分にとっては有意義だったと思います。興味ある事柄については自分なりに深めていきたいと思います。

「相談環境について」（７人）

- 仕事と家庭生活の両立をする上でストレスを抱える女性は多いと思います。そういった方々に対する相談窓口やサポート体制を充実する事や、男性のための育児や家事の教室、男性が育児休暇をとる事を促進していき、家庭生活における男女の価値観を少しでも変えていく事から始まるのではないかと思います。
- 暴言を言われた時は、とても怖くて、こちらも言い返せないので一人の時にそっと相談できる公式の LINE やメール、電話、窓口などの環境があると安心です。結婚したばかりの頃はお互いの考えや価値観の違いで喧嘩する事があったので、家族以外にも相談できたらなあと感じることがありました。

・アンケートの内容が内容なので配偶者の目に入らないかと記入時に不安になります。警察、社協など相談はできてもそれ以上進めないのが現状です。ここから先に進められるよう、女性が自立して生活していけるような支援やサポートをお願いしたいです。そしてもっと相談できる場所が欲しいです。

「男女は平等ではない、区別が必要である」（５人）

・男と女は生物的に違います。脳、身体的つくりからみて「差別」ではなく「区別」は必要だと思います。
・男女平等の考え方はフィフティフィフティではないと思う。それぞれの役割分担を尊重した生活が必要であると考える。
・男女の差別はあって当たり前で、一律に何から何まで同一の扱いをする必要もないと思う。適材適所で設置をし、例えば「女性の管理職の割合～％」といった機械的な数値目標は廃止した方がよいと考えます。

「目指すべき宮古市の姿について」（14 人）

・男の立場としての権力や、その人の立場を考えないで暴言を発する会の進行は傷つき合うばかり、地域の住民の方々に育てられているという言葉を信じて生活しています。うるおい、住んでよかった地域づくりに、なお一層のアドバイスをお願い致します。
・宮古市が男女参画を推進していることは高く評価します。ただ、それが行政上の題目になっていて市民の間に根付いている気配がないのが残念です。市の職員等、一部の方々のみの思恵では意識改革になりません。根本的な改革への地道で長い働きかけを望みます。
・都市部と比べて「男は外、女は内」という考えや「男らしく、女らしく」という考えが強く、多様な性への理解が乏しいと感じています。また、保育、介護施設等も少なく女性が生涯を通じて働きにくい環境であることも感じています。今後、ますます関心の高まる、男女平等、多様な性への理解についてよりよい計画を望みます。

「その他」（25 人）

・災害が起きた場合の避難所の設置に際しては、あらかじめ企画の段階から女性の意見を充分に取り入れ、特に妊婦、乳幼児を連れた女性等の災害弱者に心を配った運営体制の構築を望みます。
・東日本大震災の時に、食品を配給する場所に人が集まった際、体の大きい男性が両手いっぱいパンを掴んで取っていったのを見て、女性、子どもが行く場所では無いと感じました。
・若者、よそ者、バカ者の意見を大事にして欲しい。

発行　岩手県宮古市
調査　宮古市市民生活部環境生活課
〒027-8501　岩手県宮古市宮町一丁目 1 番 30 号
TEL　0193-62-2111
FAX　0193-63-9110
E-mail　kankyo@city.miyako.iwate.jp